

則トシ吾人カ直接ニ執行スルヲ得ヘキ防衛權ナルモノハ寧ロ其例外ニ屬ス若シ夫レ正當防衛ノ要件タル已ムヲ得サルノ事情アリシヤ否ヲ定ムルニ當リ常ニ被告ノ意思ニ依ルモノトセハ被告ハ常ニ口ニ殺傷ノ已ム可ラサルヲ説キ不法ノ殺傷モ大多數ノ場合ニ於テハ正當防衛ノ適用ヲ受ク無罪タルニ至ラン如斯ナルハ法治國ニ於ケル國民保護ノ原因ハ反シテ專制抑壓ノ亂世ニ化センノミ則正當防衛ニ於ケル已ムヲ得サルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ絶對的眞ノ事實ニ求メ之ヲ被告ノ意思ニ依テ決セシメサル以所ナリ

第一審 青森地方裁判所 第二審 國籍控訴院

被告人 佐久間 傳太郎 辯護人

長谷川 吉次 利光 西原 清太郎 小島 重太郎 廣岡 宇一 齋藤 二郎

右毆打創傷被告事件ノ控訴ニ付明治三十二年十月三十一日函館控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告ヲ重禁錮二月ニ處ス裁判費用參金圓ハ被告ノ負擔トス押收ノ任込杖ノ刀身ハ之ヲ沒收シ其他ノ物件ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

五十二

ニ止マリ決シテ身體ノ安危ニ關スル重害ヲ生セサルハ最モ解シ易キ事柄ニシテ云々ト判定シ幅幅傘ニ依ル不正ノ侵襲ハ危害重大ナラサルカ故ニ正當防衛ニアラストノ理由ニ供シタルハ不法ナリ蓋シ危害ノ重大ナルヲ要スルヤ否ハ正當防衛ノ要件ニアラサル而已ナラズ假令幅幅傘ニ依レル侵襲ト雖モ常ニ其被ムル所ノ害ハ輕微ナリト云フヲ得ザルモノナルカ故ニ原判決カ爾カク判定シタルハ法文ヲ誤解シ且ツ事實ヲ不當ニ確定シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ幅幅傘ノ如キハ多少ノ打撃云々ト説明シタルハ幅幅傘ヲ以テスル如キ攻撃ノ輕微ナルモノハ之ヲ防衛スルヲ得スト云フニ非スシテ暴行人ノ行ヒタル侵襲ノ有様ヲ敘述シ被告ノ行為ヲ止ムコトヲ得サルニ出テタルニ非サルノ狀況ヲ說示シタルニ止マルモノニシテ要スルニ本論旨ハ原判決ニ副ハサルモノトス

辯護人長谷吉次利光吉擴張書ハ原判決ノ事實ハ即チ正當防衛ナルニ其原則ヲ誤リ正當防衛ニ非スト決定セリ凡ソ正當防衛ナルト否トヲ區別スルニハ爲スト爲サハルノ自由ヲ欠キタル所爲ナルヤ否換言スレハ被告ノ行為ハ止ムヲ得サルニ出テ意思ヲ欠キタルヤ否ヲ區別スルニ在リ假令僞刀タルト棍棒タルトヲ問ハス被告ニ於テ兇刀ト信シタル以上ハ其行為ノ自由ヲ欠ク場合アルヘシ又後日ニ至リ被告ノ行為ヲ觀察シ又ハ他人ヨリ見レハ他ニ爲スヘキ途アリトスルモ是等ハ正當防衛タルト否ヲ區別スル標準ニ非ス他ニ避クヘキノ途アルト否ト又刀タルト否トハ問フヘキニ非ス要ハ只被告ニ於テ當時如何ニ思惟セシヤ否ニ在リ本件ニ付原院ノ認メタル事實ニヨリ被告ハ星亨ヲ保護スル爲メ其行為ノ自由ヲ欠キタルコ

正當防衛ノ場合ニ於ケル已ムヲ得サル否ノ認定

二百九



ト分明ナリ又證人星亨及各巡査ノ證言ニ依レハ間髪ヲ容レサル突墜ノ出來事ニシテ被告ニ於テ他ノ途ヲ取ルヘキ餘地ナカリシナリ然ルニ原院ハ當時被告ニ於テ行爲ノ自由ヲ欠キシヤ否ニ着目セズ其當時ノ狀態ヲ後日ヨリ觀察シ他ニ避クヘキ途アリシトノ事ヲ以テ正當防衛ニ非スト判決シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百十六條ニ身體財產ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタルモノハ不論罪ノ限ニ在ラストアリ而シテ其止ムコトヲ得ルト否トハ被告ノ意思ニ依リテ決スルモノニアラスシテ原院ノ職權ヲ以テ認定スヘキ事實ニ屬シ本件ハ現場ノ狀態ニ依リ已ムコトヲ得サルニ非ヤル場合ナリト認定シタルモノナレハ正當防衛ニ非ストシテ處斷シタルハ違法ニ非ス

辯護人西原清東ノ擴張書第一ハ原院文ニハ「被告ハ云々手ヲ以テ成清ヲ支ヘタルモ尙引續キ打掛ルニ付他ニ此暴行ヲ避クル途アルニ不拘云々成清ノ腹部ヲ刺シ云々トアリテ被害者成清カ果シテ何人ニ對シテ打掛リタルヤ其事實ヲ確定セザリシハ事實理由不備ナル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○成清カ尙引續キ星亨ニ打掛リタル事實ナルコトハ判文ヲ一讀スレハ明瞭ニシテ理由ノ不備ナシ

ノ身體ヲ防衛スルニ於テ已ム事ヲ得サルニ出テタルモノニアラサルナリト判決シ被告自身ニ身體ヲ防衛スルニ已ム事ヲ得ザリシヤ否ヲ判定セザルハ理由不備ナリト信スト云フニ在レトモ○被告自身カ暴行ヲ受ケタルコトハ原院ノ認定サル事實ナルヲ以テ其事實及ヒ證據ヲ判文ニ掲擧セザルハ當然ナリ

第三ハ原院文ヲ熟覽スレハ先各證據ヲ列記シ其末段ニ至リ「以上ノ證據ヲ綜合シテ審按スレハ被告カ前頭毆打創傷ノ行爲アリタル事明了ナリトス」トアリテ原院判決ハ單ニ證據ヲ明示シタルニ止マリ何レノ證據ニヨリ何レノ事實ヲ認ムルニ足ルヤ凡テ之ヲ説明セス此ノ如キハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂證據ニ依テ認メタル理由ヲ明示シタルモノト云フヘカラス左スレハ原院判決ハ此點ニ於テモ亦理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院判決ニ被告ノ陳述證人ノ調書鑑定書等ノ内容ヲ掲ケ之ヲ綜合シテ本件ノ事實ヲ認定シタルコトヲ明記シナレハ證據ニヨリ認定シタル理由ハ明カニシテ違法ノ點ナシ

第四ハ原院ハ被告ノ自首ハ事發覺後ニ係ルヲ以テ自首減等ノ限リニアラスト判定セラレタルモ其發覺ノ日時場所等ニ付更ラニ何等ノ説明ナキヲ以テ果シテ發覺後ノ自首ナルヤ否ヤ不明ニシテ結局原院判決ハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○既ニ自首ノ成立ヲ認メサル以上ハ其日時場所ノ如キハ必要ナキヲ以テ判文ニ明示スルノ要ナシ

辯護人少島重太郎ノ辯明書ヲ要スルニ原院判決ノ理由ニ「被告ハ成清ノ外ニモ二三者ノ打掛ル模様アリ且ツ此上如何ナル暴行者カ如何ナル兇器ヲ以テ加功スルモ測ラレスト申立レト



モ隆一ノ押入ラシタル後現ニ暴行ヲ爲シタルモノハ成清一人ニシテ同人モ幾カニ囁囁傘ヲ以テ亂打シ掛リシノミ其他絶ヘテ暴行ヲ爲セシモノナシ其如何ナル暴行者カ加功スルモノ測ラレヌト云フハ一ノ空想ニ止マリ之レヲ以テ危害ノ業既ニ生シテ切迫シタルモノト同視スヘキヲサルモノナレハ被告カ成清ヲ毆傷シタルハ星亨ノ身體ヲ防衛スルニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テタルモノニアラザルナリトアリ右判決ノ理由ヲ按ズルニ原院ニ於テハ被告ノ心意ニ在テハ此上如何ナル暴行者カ如何ナル兇器ヲ以テ加功スルモノ測ラレヌト思料シ其危害ヲ防衛スルカ爲メニ必要ナリト信シテ暴行者(成清)ヲ傷シタルモノナルニ現ニ加功シタル暴行者カ如何ナル兇器ヲ以テ加功シタルハ空想ニ止マリタルモノト事實ヲ認メタルモノナク故ニ若シ被告カ思料シタルカ如何ニ果シテ他ニ暴行者續出シテ兇器ヲ以テ暴行ヲ加フルモノ數多アリシモノトモ原院ニ於テハ被告カ成清ヲ傷テ防衛シタルハ強大ナル暴行ヲ防衛スルニ當リ必要ナル所爲ナリシト認定スヘキモノタリシヤ論ヲ俟タサルナリ然ルニ被告ニ在テハ數多ノ暴行者續出スルモノト信シテ之ヲ防衛スルカ爲メニ已ムヲ得サルモノト確信シテ成清ヲ傷テタルハ數多ノ暴行者續出セザリシヲ以テ被告カ暴行者ノ續出シ強大ナル暴行ヲ受テコトヲ恐レ之ヲ防衛スルニ已ムヲ得サルモノト信シテ成清ヲ傷テタルハ已ムヲ得サルモノナラザルニ人ヲ傷シタルモノナリト論斷シタルモノナリ右判決ノ理由ハ二個ノ不注アルモノナリ(第一)暴行者ノ續出セザリシハ被告カ成清ヲ傷シタルカ爲メナリシヤモ知ルベキナリ(第二)原院ハ暴行者ノ出テザリシ結果ノミニ因テ被告ノ所爲ハ空想ニ出テ

タルモノトシ果シテ暴行者ノ出ツル恐アル情況ナリシヤ否ヤ所謂被告ノ空想ハ情況ニ於テ至當ナリシヤ否ヤヲ確定セザリシハ不法ナリ(第二)暴行ヲ受クルニ方ハ身體生命ヲ防衛スルカ爲メニ已ムヲ得サルモノト確信シテ加害者ヲ殺シタルニ其實疎虞ニ出テタルモノニシテ實際已ムヲ得サルニヌラザリシ場合ニ於テハ過失殺タルヘキモノナリ刑法第三百十六條ヲ適用スヘキ場合ハ加害者ノ疎虞ニ出テタルニアラスシテ其已ムヲ得サルニハアラザルヲ知リテ殺傷シタル場合ニ於テ適用スヘキ條文ナリトス故ニ原院ニ於テ被告カ成清ヲ傷シタルハ強大ナル暴行ヲ受テコトヲ信シ之ヲ防衛スルニ已ムヲ得サルモノト信シテ傷シタルモノニシテ空想即チ疎虞ニ出テタルモノナレハ之ヲ以テ過失罪ニ問擬スヘキニ毆打創傷ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○第二點ニ付テハ原院決ニ「其如何ナル暴行者カ加功スルモノ測ラレヌト云フハ一ノ空想ニ止マリトアルハ被告カ成清ノ外ニモ二三者ノ打掛ル模様アリ且ツ此上如何ナル暴行者カ如何ナル兇器ヲ以テ加功スルモノ測ラレヌト云フハ現場ノ事實ニ適セサル空想ナリトノ判旨ニシテ危害ノ切迫シタル場合ニアラザリシコトハ判文ニ明示アレハ不法ノ點ナシ第二點ニ付テハ本件ノ如ク一定ノ人ヲ毆打スルノ目的ヲ以テ果シテ其人ヲ毆打シ創傷セシメタル場合ニ於テ過失罪ナキコトハ論ヲ俟タズ而シテ身體ヲ防衛スルニ於テ已ムヲ得サルト否ハ被告カ現場ノ意思ニ依リテ決スル間題ニアラスシテ假令ハ被告ニ於テハ已ムヲ得スト思考スルモ事實上已ムヲ得ル場合ニ於テ

正當防衛ノ場合ニ於ケル已ムコトヲ得サル否ヤノ認定



ハ正當防衛ニシテハ本件ヲ刑法第三百十六條ニ問擬シタルハ違法ニアラス  
 辯護人廣岡宇一郎ノ横張書第一點ハ刑ノ言渡ヲ爲スニ當リ犯罪事實ヲ認定スルハ裁判官ノ  
 職權ニ屬スト雖モ該犯罪事實及證據ニ依リテ認メタル理由ハ之ヲ明示セサルヘカラス然ル  
 ニ原判決ハ佐久間傳太郎カ毆打創傷シタル事實ヲ認定シタルモ其認定ノ理由ヲ明示セズシ  
 テ漫然證人ノ陳述ヲ列舉シ以上ノ證據ヲ綜合シテ審按スレハ被告カ毆打創傷ノ行爲アリタ  
 ルコト明確ナリト掲ケタリ則チ證據トシテ列舉シタル證人ノ陳述ハ各矛盾齟齬シテ何  
 人ノ證言ヲ以テ其根據トナシタルヤ明了ナラス例令ハ被告佐久間傳太郎ノ陳述ニハ仕込  
 杖ヲ拔キテ刺シタリ云々トアルモ證人鈴木儀左衛門ノ申立ニハ仕込杖ヲ鞘ノ儘ヲ以テ其黃  
 色ノ洋服ヲ着タ居タ者ヲ毆打シ云々トアリ又證人岡本成清ノ豫審調書ニ星ヨリ三番目ノ車  
 ニ乗リタル者カ突然自分ノ腹部ヲ刺シ云々ト同第二回ノ調書ニハ道ヲ横断セントスル時刺  
 シタリ云々第三回調書ニハ創ヲ受ケタルハ自分カ巡査ニ取押サヘラレタル云々トアリ元證  
 人自己ニ齟齬ノ陳述アルノミナラズ證人巡査戸田恭一郎ノ調書ニハ押サヘタ男ヲ放スニ手  
 引ヘタル際始メテ其者ノ脇腹ニ創カ付テ血ノ出テ居ルノヲ見マシタ云々私カ其者ヲ抱キ  
 込メテカサ後ニ創ヲ付ケラレタモノヲナクドシテモ其前ニ創ヲ付ケラレタモノト思ヒマ  
 ス云々此ノ如ク證人ノ陳述ハ前後矛盾シアルニモ拘ケラス之ヲ以テ犯罪事實認定ノ資料ニ  
 供シタルハ刑事訴訟法改正以前ノ判決ニ證人某ノ調書ニヨリ其證據十分ナリト爲シタルモ  
 ノト異ルコトナシ之則チ理由ヲ明示セサル不法アリト云フニ在レトモ○諸般ノ證據ヲ綜合

シテ犯罪事實ヲ認定スルハ原院ノ職權ニ在ルヲ以テ其綜合シタル證據ノカヲ論難シテ上告  
 ノ理由トナスヲ得ス  
 辯護人齊藤二郎ノ追加辯明書第一點ハ原院カ證人戸田恭一同吹田精一同山田英次郎同笹島  
 虎之助同古館惣同長岡繁治同齋藤秀傑同宮田魁ニ對シ正當ノ呼出狀ヲ發セス之ヲ訊問シテ  
 其調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○證人自ラ異議ヲ唱ヘズ證言  
 ヲ爲シタル以上ハ假令論旨ノ如ク正當ノ呼出ナシトスルモ其證言ハ有效ニシテ原院カ之ヲ  
 採用シタルハ違法ニ非ラス  
 第二點ハ本件ノ證人中村隆一同長岡繁治同柳橋林同森明同佐々木丹次郎同中村次郎同小島  
 小太郎(鑑定人北島小太郎ノ誤ナラン)ハ正式ノ手續ヲ履踐シテ宣誓シタルモノニララス即  
 其宣誓書ニハ何々事件及何人ノ被告事件タル記載ナキモノニシテ斯ル不法ノ宣誓ニヨル證  
 言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟錄ヲ査閱スルニ右證人鑑定  
 人ノ調書ニハ何レモ宣誓シタル旨ノ記載アリテ宣誓書ヲ其調書ニ添附シアルハ其宣誓ノ適  
 式ナルコト明カニシテ原院カ其證言及鑑定ヲ斷案ノ證トナシタルハ違法ニアラス  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十三年三月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

詐欺取財事件

明治三十三年九月第一四一號  
 明治三十三年三月八日判決 (棄却並ニ破毀)

公訴ノ裁判ト私訴ノ裁判トノ關係



判決要旨

公訟ニ付キ無罪ノ判決ヲ受ケ已ニ確定シタル後同一被告ニ對シ更ラニ其ノ確定シタル事實ヲ犯罪ナリトシテ損害賠償ヲ言渡スハ違法ナリトス

說明

公訟ニ付キ已ニ無罪ノ言渡ヲ受タリト雖モ被告人ニ對シ更ラニ損害賠償ノ言渡ヲ爲スニ得ルハ刑事訴訟法第五條ノ規定ニ依テ明カナリ蓋シ刑事上ノ責任ト民事上ノ責任トハ其ノ根本ニ於テ異ナルカ故ニ刑事上ノ責任ナキノ故ヲ以テ直チニ民事上ノ責任ナシト云フノ理ナクハナリ然レトモ先キニ無罪ノ判決ヲ受ケ已ニ確定シタル後ニ至リ別ニ民事上ノ損害事實ヲ證明スルコトヲ再ヒ其ノ事件ヲ以テ犯罪事實ナリト認定シ此ノ犯罪ヲ原由トシテ賠償義務ヲ命スルノ判決ハ則チ先キニ犯罪ナシトシテ確定シタル事實ヲ以テ再ヒ犯罪ナリトシ之ヲ原由トシテ賠償ヲ命スルモノニシテ如斯キ判決ハ到底刑事訴訟法上其存在ヲ認めルコトヲ得ザルナリ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 入江榮吉  
私訴上告人 飯島要之助  
私訴被上告人 小倉徳左衛門

右詐欺取財被告事件ニ付キ明治三十三年一月二十日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消ス被告榮吉ヲ重禁錮三年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視一年ニ附ス被告清助ヲ重禁錮二年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視十月ニ附ス押收ノ書類ハ各差出人ニ還付ス公訴費用ハ被告榮吉ノ故障ニ因リ生シタル分ハ榮吉ノ負擔トシ其他ハ被告三名ノ連帶負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告榮吉清助ハ各上告ヲ爲シ私訴ニ付テハ原判決ヲ取消ス被控訴人ハ狩谷源助入江榮吉林清助ト連帶シテ金五百圓ニ明治三十一年九月八日ヨリ執行濟ニ至ル迄年五分ノ額ヲ加ヘ控訴人ニ賠償スヘシ控訴人カ其餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス私訴ノ費用ハ第一二審共被控訴人ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ要之助ハ上告ヲ爲シテ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
榮吉上告趣意書ハ詐欺取財ノ罪ヲ構成スルニハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シタル所爲アルコトヲ要ス然ルニ一件記録中毫モ之ヲ認ムルコトヲ得サルノミナラス證人小倉徳左衛門清助ノ豫審調書ニ依ルモ被告トハ一面職モナキ旨陳述シアレハ被告ハ其共謀者ニアラスト云々同擴張書ハ要之助ト徳左衛門トハ合意上ノ僱借ナルヲ以テ刑事制裁ヲ受クヘキモノニアラス假リニ刑事犯ナリトスルモ被告ハ其當時現場ニ同席セサルモノナレハ從犯トシテ處斷ス

公訴ノ裁判ト私訴ノ裁判トノ關係



二百十八

キモノナルニ正犯トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ本案被告等ノ所爲ハ共謀ニ出テタルコトヲ認メタルモノナレハ假令被告ハ其場ニ同席セサルモ固ヨリ正犯ナリトス其他ノ論旨モ事實ノ認定探證ノ當否ヲ非難スルニ過キサレハ共ニ上告ノ理由ナシ

清助上告趣意書ハ上告人カ立會人トシテ記名捺印シタル要之助ヨリ徳左衛門貞助ニ宛テタル金五百圓ノ債權債務ニ對シテハ右要之助カ承諾アリシ事實ハ原院ノ認ムル所ナリ果シテ然ラハ假令要之助名下ノ印判ニ相違スル所アルモ實體タル權義ノ上ニ消長ナシ故ニ其取引ハ民事上ノ關係ニシテ罪トナルヘキ事實ニアラサルニ之ヲ以テ詐欺取財ノ行爲アルモノトシ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ナリト云ヒ」同擴張書第一ハ上告趣意書ヲ敷衍スルニ在リ第二ハ地所證明書並金五百圓ノ借用證書ハ何レモ要之助ノ承諾上成立シタルモノニシテ偽造ニアラサルコトハ原院ノ認ムル所ナリ然ラハ其結果トシテ債權者ハ期限ニ至リ債務者ニ對シ辨濟ヲ強ルヲ得可ク又資産アル要之助ハ債權者ニ損害ヲ與フルカ如キ事實ノ生セサルヤ豫測スルニ足ル唯要之助カ借用ノ覺ナシト申立ヲ爲シタルハ所謂債務ノ辨濟ヲ方一ニ僥倖セントスル遊辭ニ過キサレニ然ルニ原院カ金五百圓ヲ徳左衛門貞助ヨリ源助ノ手ニ受取り事ヲ借用ニ託シ兩人ヲ欺キ該金圓ヲ騙取シタルモノトスト判定シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○以上ノ論旨ハ皆以テ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニ對シ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲ス得ズ

六十二

第三ハ第一審ニ於テハ第一私印偽造使用第二借用證書偽造行使第三地所證明書偽造行使

第四詐欺取財以上四罪ノ内第一ノ所爲ヲ以テ重シト爲シタルニ原院ハ上告人ノ控訴ハ理由アルモノトナシ第一審ノ認メタル第一ノ所爲ハ勿論第二第三共無罪ト認定シナカラ第一審ノ輕キト認メタル第四ノ所爲ニ對シ尙ホ第一審ト同一ノ刑期罰金監視ヲ言渡シタルハ上告人ニ不利益ナル判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ第一審ト同一ノ刑ヲ言渡シタルモノニシテ第一審ノ刑ヨリ重キ刑ヲ科シタルモノニアラサレハ上告人ノ不利益ニ變更シタルモノニアラス

要之助私訴上告趣意ハ上告人ハ第一審ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ之カ判決ノ確定シタルモノナルニ原院ニ於テ被告上告人カ犯罪ヲ原因トスル私訴請求ヲ容レタルハ不法ナリト云ヒ」辯護士辯明書ハ刑事裁判ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ既ニ確定セシモノナレハ他ノ理由ニ於テハ格別犯罪テ理由ノ下ニ賠償ノ責任アルヘキ道理ナシト云フニ在リ

依テ原判決ヲ查スルニ被控訴人ハ控訴人主張ノ如ク林清助入江榮吉及ヒ狩谷源助ト共謀シ控訴人ヲ欺キ明治三十一年九月八日金五百圓ヲ騙取シタル事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ被控訴人ハ右三名ト連帶シテ其不法行爲ニ依リ控訴人ニ被ラシメタル損害ヲ賠償スヘキ義務アリトストアリテ乃チ上告論旨ノ如ク被告ハ本案詐欺取財事件ニ付第一審ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ既ニ其裁判ハ確定シタルニモ拘ハラス仍ホ其犯罪ヲ原因トシ以テ上告人重要之助ニ對シ損害賠償ノ義務アルモノトナシタルハ不法ノ判決ニシテ破毀ノ原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ公訴上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

公訴ノ裁判ト私訴ノ裁判トノ關係

二百十九



私訴上告ニ付テハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

布

私訴上告人 飯島要之助

私訴被上告人 小倉徳左衛門

同 塙貞助

私訴被上告人ノ請求ハ不相立

私訴費用ハ被上告人ノ負擔トス

明治三十三年三月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察岩野新平立會宣告ス

●窃盜事件

明治三十三年三月十三日判決 (棄却)

判決要旨

他人ノ建造物内ニ於テ物件ヲ拾得シタル者後ニ至リ之レヲ隱匿シ若クハ不正ニ之レヲ處分スルハ遺失物隱匿罪ヲ構成シ拾得ノ當時ニ窃取スルノ意思ヲ以テ拾得スルハ窃盜罪ヲ構成ス

說明

本件ニ對スル大審院ノ判決ハ甚ダ穩當ヲ缺クテ吾人ハ濟々ノ士ヲ以テ充サレタル大審院判事ニシテ如斯キ判決ヲ爲ス頗ル怪訝ノ感ニ堪ヘサルナリ然ラ本件判決ノ趣旨ヲ考フルニ他人ノ建造物内ニ於テ物件ヲ拾得シタル者若シ其ノ拾得ノ當時ニ窃取ノ意思アリタルハ窃盜罪ヲ構成シ反之シテ拾得ノ當時何等惡意ノ存スルナク後ニ至テ之レヲ隱匿シ若クハ處分シタルハ則チ遺失物隱匿罪ヲ構成スト云フニアリ替言セハ同シク一個ノ拾得物ニシテ其ノ拾得當時ノ意思如何ニ依リテハ窃盜罪トナリ一ハ爾後隱匿ノ所爲アルヲ待テ遺失物隱匿罪トナルト云フニ在リ如斯キノ判決果シテ我カ刑法ノ是認スル所ナル乎乞フ吾人ヲシテ少シク之レヲ説カシメヨ

按スルニ凡ソ遺失物隱匿罪ナルモノハ他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シ之レヲ隱匿スルニ依テ成立ス他人ノ遺失シタル物件即チ遺失物トハ他人ノ占有ヲ離脱シ未タ何人ノ占有ニモ歸セサル他人ノ物件是ナリ然ラハ則チ他人ノ占有中ニアルモノハ其ノ存在スル場所ノ如何ヲ問ハス遺失物ニアラサルヲ以テ之ニ對シテ遺失物隱匿罪ノ成立スヘキ理ナシ

反是シテ窃盜罪ナルモノハ已ニ他人ノ占有内ニアル物件ヲ握手シ之レヲ

遺失物隱匿罪並ニ窃盜罪ノ性質及ヒ其ノ區別



自己ノ占有内ニ遷移スルニ依テ成立ス故此ノ種ノ犯罪ニ於テハ必キ  
 窃取ノ當時ニ於テ其ノ目的物件カ他人ノ占有内ニ在ルコトヲ要ス他人ノ  
 占有内ニ在ラザル無占有ノ物件即チ遺失ノ物件ニ對シテハ之レヲ握手シ  
 テ自己ノ占有内ニ遷移スルモ窃盗罪ヲ構成スヘキモノニアラス  
 要是ニ窃盗罪ト遺失物隠匿罪トノ區別ハ意思及ヒ其ノ所爲ノ狀況ニ於テ  
 區別ノ生スル一エシテ足ラズト確モ其ノ目的物件カ一ハ以テ他人ノ占有  
 内ニ在ルヲ要シ一ハ則チ何人ノ占有ニモ屬セザル無占有ノ物件タルヲ要  
 スルハ此ノ種ノ犯罪ニ於ケル根本的區別ノ標準ナリトス已ニ如斯遺失物  
 隠匿罪及ヒ窃盗罪ハ其ノ犯罪ノ目的タル物件ノ上ニ於テ然則區別ノ存ス  
 ル以上ハ提テ亦タ同一物件ニ對シテ其ノ拾得ノ當時ニ於ケル拾得者ノ意思  
 如何ニ依テ或ハ遺失物隠匿罪ト或ハ窃盗罪タルノ論結ハ對照我カ刑  
 法上此ノ種ノ犯罪ニ關スル法理ノ前提ト相背馳スルヲ免カレサルヤ已ニ  
 論ナキ所ナリトス  
 顯テニ本件ノ場合ニ於ケル犯罪ノ目的物件ハ他人ノ建物内ニ於ケル一個  
 ノ遺失物ナル乎抑モ亦タ建物所有者ノ占有中ニアルモノナル事實ク原審  
 ノ認メタル事實ニ依テ考テアルトキハ之レヲ以テ正ニ一タノ遺失物ナリト  
 云フヲ得ルノミナラス大審院ノ説明ヲ見ルモ物件拾得云々ノ文詞アルヲ

見レハ本件物件ノ遺失物タルヤ明カナリ夫レ已ニ遺失物タリ之レニ據ス  
 ルノ法條ハ宜シク遺失物隠匿罪ヲ以テスヘキナリ然ルヲ大審院ノ判決茲  
 ニ出テ又遺失ノ物件ニ對シテモ尙ホ窃盗罪ヲ構成スヘシト云フニ至テハ  
 殆ント我カ刑法上遺失物隠匿罪並ニ窃盗罪ノ何モノタルヤヲ解セサルモ  
 ノト云ハサルヲ得ス今ヤ我カ國列國ノ法權ヲ撤去シテ外人亦タ我カ法權  
 ノ行動ニ甘ンヌルノ時ニ當リ而モ司法權最高ノ機關ニ於テ如斯キ判決ヲ  
 出ス嘆ツヘキ哉

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 赤尾房吉

右窃盗被告事件ニ付キ明治三十二年十二月二十五日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ  
 對シ同院檢察長藤堂融ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審  
 理スルコト左ノ如シ

上告趣意ハ本院ガ認定シタル所ニ據レハ被告房吉ハ旅人宿安江角太郎方ニ投宿シ入浴ノ際  
 前ニ入浴シタル他ノ旅客カ室浴ノ柵ノ上ニシヤツノ隠シ内ヨリ取落シ置キタル金圓在中ノ  
 錢入一個ヲ拾得シ之ヲ竊取シタルモノナリ果シテ然ラハ本件ノ錢入ハ既ニ所有者ノ占有ヲ  
 離レ未タ何人ノ占有ニモ移ラサル間ニ被告人ノ拾得スル所トナリ被告人ハ遺失物法第十條

遺失物隠匿罪並ニ窃盗罪ノ性質及ヒ其ノ區別



一項ノ規定(管守者アル建築物ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタルモノハ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ)ニ違背シ之レヲ横領シタルモノナレハ右錢入ノ遺失品ナルト遺忘品ナルトヲ問ハス被告入ハ同第十六條ノ規定(拾得物其他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ隱匿シタルモノハ三月以下ノ重禁錮又ハ二拾圓以下ノ罰金ニ處ス)ニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ本院カ之ニ據スルニ竊盜罪ヲ罰スヘキ刑法第三百六十六條ヲ以テシタルハ據律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○本案ノ如キ建築物内ニ在テハ假令他人ノ遺失シタル物件ナリト雖モ之ヲ拾得シタル當時ノ意思若シ竊取スルノ意ニアラスシテ後チニ至リ所有者ニ交付セズシテ之ヲ隱匿スルカ又ハ不正ニ處分スルニ於テ初メテ遺失物法ノ制裁ヲ受クヘキモノナリ之ニ反シテ拾得スル時既ニ竊取スルノ意思アルトキ即チ竊取ノ意思ヲ以テ遺失物ヲ拾得シタルトキハ之ヲ竊盜罪ニ問擬スヘキハ當然ナリ而シテ原判決ヲ見ルニ被告ハ錢入壹個ヲ竊取シタルトアリテ其意思竊取スルニ在リシコトヲ認メタルコト明カナレハ之ヲ刑法第三百六十六條等ニ問擬シタルハ相當ニシテ據律錯誤ノ不法アルコトナシ右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如ク本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年三月十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

●混成酒稅法違反事件

明治三十三年九月第七號  
明治三十三年三月二日判決

(棄却)

判 決 要 旨

酒精ニ水ヲ混和シ一種ノ飲料酒ヲ製造シテ販賣スルハ混成酒稅法ノ支配ヲ受クヘキモノトス

說 明

何等ノ混和物ヲ以テスルヲ問ハス苟モ酒精ニ混和シテ一種ノ飲料酒ヲ製造シ之レヲ販賣スルハ則チ混成酒稅法ノ規定ニ從ハサルヲ得ヌ何トナレハ混成酒稅法ノ規定ハ一モ混合ノ目的物ニ付キ何等ノ制限ヲ設ケサレハナリ

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告 人 新谷治左衛門

右混成酒稅法違反被告事件ニ付明治三十二年十二月一日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ニ從ヒ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ原院ニ於テ上告人ハ酒精ニ水ヲ加ヘ九石四斗二升餘ノ燒酎ヲ造リ之ヲ販賣シタル事實アルモノト認メ混成酒法ヲ以テ之ニ擬セラレタレトモ法律上酒精ハ素ヨリ酒精ニシテ燒酎ハ素ヨリ燒酎ナリ換言スレハ酒精ニ水ヲ加ヘテ新造トナシタルカ故ニ燒酎タ

混成酒ノ證據



●拐帶事件

明治三十三年第七十三號  
明治三十三年三月六日判決

(被毀)

ルヲ得サルト同時ニ燒酎ハ如何ニ程度ニ之ヲ造ルモ酒精若クハ稀薄酒精タルヲ得ルモアニ  
アラサルハ勿論ナルノミナラス燒酎ハ素ヨリ酒稅法中ニ存在スル一種ノ飲料ニ屬シ酒精ハ  
其濃厚ナルト稀薄ナルトヲ問ハス共ニ混成酒法ニ所謂混成酒ニ非サルヲ甚々明瞭ナリトス  
更ニ之ヲ詳言スレハ所犯ノ當時即チ明治二十九年十月ノ頃ニ在テハ酒精ヲ買入レ之ヲ販  
賣スル者ハ其酒精ニ水ヲ加ヘタルト否トヲ問ハス酒稅法ニ於テ之ヲ支配シ又燒酎ヲ製造ス  
ル者ハ酒造稅法ヲ以テ之ヲ支配シ酒精ニ他ノ物品ヲ混和シ一種ノ飲料酒類トナスモノハ混  
成酒法之ヲ支配スルカ如ク其差別明確ニシテ一點ノ疑ヲ存セサルニ原院ニ於テ上告人ノ所  
爲ハ酒精ニ水ヲ加ヘ販賣シタル事實ナリト認メテカラ之ヲ燒酎ナリトシ尙擬スルニ混成酒  
法ヲ以テシタルハ法律ニ背キ事實ヲ確定シタル不注アルノミナラス更ラニ擬律ノ錯誤アル  
不注ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判旨ニ據レハ被告ハ酒精ニ水ヲ混シ一種ノ飲  
料酒類則チ燒酎ヲ造リ販賣シタルモノナレハ其混和シタルモノ、何タルヲ問ハス其所爲ニ  
對シテハ原判決カ援用シタル法條ヲ適用處斷セサルヲ得ス故ニ原判決ハ不法ニアラス  
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告豫納金ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ其半額ヲ没入ス  
明治三十三年三月二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

判決要旨

- 一、欠席判決ニ依ル刑ノ期滿免除ハ其ノ欠席判決カ管轄違ナルト否トニ不拘ス刑法第六十一條ニ依リ判決言渡ノ日ヨリ刑ノ時効ノ進行ヲ始ムヘキモノトス
- 二、犯罪事件ニ付キ已ニ有罪ノ言渡ヲ受ケ刑ノ時効ノ經過ヲ始メタルハ同一事件ニ對シ更ラニ公訴ノ時効ヲ經過スヘキモノニアラス

說明

一、凡ソ判決ハ管轄違ノモノナルト否トヲ問ハス苟モ一旦之レヲ言渡シタルハ其ハ相當ノ手續(即チ收服、上訴)ヲ以テ之レカ取消ヲ求ムルニアラスハ當然無効ニ屬スルコトナシ故ニ刑法第六十一條ノ規定ハ苟モ裁判所ニ於テ欠席判決ヲ以テ刑ノ宣告ヲ爲シタルハ常ニ其ノ宣告ノ日ヨリ刑ノ時効ノ進行ヲ始ムルノ趣旨ニシテ其ノ判決カ管轄違ノ判決タルト否トヲ問ハサルナリ

二、犯罪事件ニ付己ニ刑ノ時効ノ經過ヲ始メタルハ之ニ對シテ更ラニ公訴時効ヲ經過スヘキモノニアラス何トナレハ凡ソ公訴ノ時効ナルモノ

欠席判決ノ刑ノ時効并ニ公訴ノ時効ト刑ノ時効トノ關係



ハ證據ノ烟滅并ニ社會ノ遺忘ヲ以テ之レカ泉因トナスヲ我カ刑事訴訟  
法ノ趣旨トスル所ナリ然リ而シテ被告事件ニ付キ已ニ有罪ノ宣告ヲナ  
シタルハ之ニ對スル凡テノ罪職ハ裁判所ニ於テ認定セラルカ故ニ  
從テ證據ノ烟滅ヲ來スノ恐ナク又タ裁判所ニ於テ一且刑ノ言渡ヲ爲シ  
タル以上ハ犯罪事實并ニ被告人ノ罪職タルハ已ニ明確ナルヲ以テ從テ  
從來被告事件ニ關シ行ハレタル社會ノ遺忘ハ茲ニ一反シテ裁判ヲ以テ  
認メタル犯罪事實ノ上ニ更ラニ新ニ遺忘ヲ始ムルモノト云ハサルヲ得  
ス由是觀之ハ被告事件ニ對スル公訴ノ時効ハ常ニ刑ノ言渡ト同時ニ其  
ノ進行ノ原因ヲ消滅スルモノニシテ即チ公訴時効ノ經過ハ之ニ依テ其  
ノ進行ヲ停止スルモノト云ハサルヲ得ス是レ本件判決ノ存スル所以ナ  
リ

(參照) 刑罰執行ノ執行ヲ遅レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關所判  
決ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス(刑法第六十一條)

第一審 山口地方裁判所赤間支所 第二審 廣島控訴院  
被告人 日浦繁治

右拐帶被告事件ニ付明治三十二年十二月二十六日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當  
トシ原院檢察長檢事一瀬勇三郎ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ  
上告趣意ノ要旨ハ原院判決ニハ(前略)原裁判所カ明治三十二年八月三十日言渡シタル管轄  
違ノ判決確定シ最初明治二十八年九月十六日檢察官被告入ニ對シ公訴ヲ提起シタル當時ニ  
在テ原裁判所ハ該件ニ付管轄權ヲ有セザリシト明確トナリタル以上ハ其起訴ノ手續及ヒ  
之ニ基キ爲シタル公判ノ手續ハ勿論同月二十三日言渡シタル關所判決モ共ニ無効ニシテ右  
手續ニ因リ單ニ公訴ノ時効ヲ中斷スルニ止マリ關所判決ハ固ヨリ刑ノ時効ノ進行ヲ始ムル  
效果ヲ生セザルモノトス「トアリ然レモ關所判決ハ裁判所ニ於テ故障ノ申立ヲ受理スルト  
同時ニ消滅スヘキモノナリ何ソ管轄違ノ判決確定スルヲ俟ンヤ而シテ其關所判決ノ存在中  
ハ公訴ノ時効ヲクシテ刑ノ時効アルコトハ刑法第六十一條ノ規定ニ依ラ自ラ明カナリ而シ  
テ若シ刑ノ時効アリトセハ其間公訴ノ時効ヲ中斷スヘシ何トナレハ刑ノ時効經過スルト同  
時ニ公訴ノ時効モ亦經過スルノ理アラサレハナリ原判決ニハ刑法第六十一條ノ刑ノ期滿免  
除ハ關所裁判宣告ノ日ヨリ起算ストノ規定ハ管轄權等ニ瑕疵ナキ關所判決ノミニ適用スヘ  
キモノニシテ管轄權ヲ裁判所ノ言渡シタル無効ノ關所判決ニマテ適用スヘキモノニアラ  
ストアルモ是同條ノ解釋ヲ觀リタルモノナリ假令管轄權ヲ裁判所ノ言渡シタル關所判決  
ナルモノノ判決タルヤ疑ナシ故ニ其關所判決ニシテ一日存在セハ一日刑ノ時効ヲ經過スヘ  
キヤ論ヲ俟タス乃チ關所判決アリタルトキハ其宣告ノ日ヨリ刑ノ時効ヲ起算シ其關所判決  
ニ對シ故障ノ申立アリタルトキハ之ヲ受理スルニ至ルマテ刑ノ時効ヲ經過シツ、アルヲ以  
テ

大審院判決ノ時効並ニ公訴ノ時効ト刑ノ時効トノ關係  
二百二十九



テ本件ニ付テハ未タ公訴ノ時効アラサルモノトス換言スレバ故障ノ申立ヲ受理シタルニ由  
リ關席判決ノ無効トナリタルハコソ更ニ審理ヲ始メ有罪無罪又ハ管轄違等ノ判決ヲ爲シ  
トヲ得ルモノナリ否ヲサレハ一事件ニ付二個ノ一審判決ヲ見ルニ至ル而カモ此故障申立受  
理アリテヨリ以後ノ審理ヲ爲サシムルモノハ關席判決アリタルヨリ以來故障申立受理ニ至  
ルマテノ間停止セラレ居リタル公訴權ニ外ナラサルヘシ然ルニ原院ニ於テハ本件ハ既ニ公  
訴ノ時効ニ罹リタルモノトシ被告入ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ頗ル失當ノ判決ナリト  
云フニ在リ

依テ按スルニ刑法第六十一條ニ刑ノ期滿免除ハ云々關席判決ニ係ルトキハ其宣告ノ日ヨリ  
起算ストアルハ管轄權ノ有無ニ拘ハラス尙ハ裁判所ニ於テ關席判決ヲ以テ刑ノ宣告ヲ爲シ  
タルトキハ其宣告ノ日ヨリ刑ノ時効ノ進行ヲ始ムルノ規定ニシテ而シテ其時効進行中ハ公  
訴時効ノ進行スヘキ理ナキヲ以テ其後日其關席判決ニ對スル故障受理ノ未管轄權ノ判決  
確定シ該關席判決ハ全ク管轄權ヲ有セサル裁判所ノ言渡シタルモノトナルモ其間公訴時効  
ノ進行スヘキ等ナシ然ルニ原判決ハ刑法第六十一條ノ規定ハ管轄權等ニ限リサキ關席判  
決ノミニ適用スヘキモノニシテ管轄權ナキ裁判所ノ言渡シタル無効ノ關席判決ニマテ適用  
スヘキモノニアラストシテ而シテ明治二十八年十月二十三日山口地方裁判所亦馬關支部ニ於  
テ言渡シタル關席判決ハ明治三十二年八月三十日同支部ニテ言渡シタル管轄違ノ判決確定  
ニ因リ無効ニ歸シ單ニ刑事訴訟法第十二條ニ依リ公訴ノ時効ヲ中斷スルノ效力ヲ生スルニ

過キスシテ刑ノ時効ノ進行ヲ殆ムル效果ヲ生セス故ニ本件ニ就テハ明治二十八年十月二十  
三日關席判決ヲ言渡シ公判ノ手續ヲ止メタルモノニシテ明治三十一年十月二十二日迄ニ於  
テ既ニ公訴時効ノ期間ヲ經過シ去リタルモノトシ免訴ノ言渡シタルハ上告論旨ノ如ク法則  
ヲ不當ニ適用シタル判決ニシテ破毀ヲ免カレサルモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判事ヲ破毀シ更ニ審判セシムルカ  
爲シ本件ヲ大阪控訴院ニ移ス

明治三十三年三月六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

●監視規則違反事件 明治三十三年三月七日判決 (藥劫)

判決要旨

監視ノ附加刑ヲ受ケタルモノハ自己ノ招待ニ係ルト他人  
ノ催スル集會ナルトテ問ハス多數人衆ノ集會席ニ出席ス  
ルハ即チ刑法附則第二十七條ノ規定ニ違背スルモノトス

說

監視ノ附加刑ヲ受ケタル者ヲシテ群集ノ席ニ臨席スルニトテ禁スル刑法  
附則第二十七條第二項ノ精神ハ畢竟刑餘ノ者ヲシテ一定ノ期間間謹慎ヲ守  
ラシムル爲メニ設ケタル規定ニ外ナラス故ニ苟モ多聚集會ノ場所ナルト



キハ自己ノ招待ニ係ルト他人ノ催セル集合席ナルトヲ問ハス替言セハ此  
ノ集合ノ原因及ヒ目的等ノ如何ニ不拘之ニ出席スルハ常ニ同法文ノ禁止  
スル所ナリトス

(註照) 酒宴遊興ノ席ニ合シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス(刑法附則第二  
十七條第二號)

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 齋藤幸吉 辯護人 高木益太郎

右監視規則違犯被告事件ニ付明治三十二年十一月二十八日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル  
判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スル  
コト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原判決ハ刑法附則第二十七條第一第二ノ解釋ヲ誤リ本案ノ如キ一定ノ來賓ニ  
對シタル行爲ヲ一般群集ト認定シタルハ不當ニシテ從テ刑法附則ノ支配ヲ受クヘキモノニ  
アラス右所爲ハ所轄警察署ヘ適法ノ届出ヲ爲シタルノミナラス來賓ニ對スル挨拶ハ監視違  
犯ノ行爲ト爲ス能ハサルニ原院ニ於テ監視違犯トシテ處斷セシハ擬律錯誤ナリト云ヒ「辯  
護人高木益太郎辯明書ノ第一ハ抑モ刑法附則第二十七條第一項第二號ハ他働的集會ノ場所  
ニ參會スル所爲ヲ罰スルノ注意ニ外ナラス然ルニ原院ハ被告自ラ社主タル齋藤新聞ノ發行  
式ニ出席シタル事實即チ自動的ニ集會ヲ爲シタルノ事實ヲ認メテカラ之ニ同條ヲ適用セシ  
ハ擬律錯誤ニ基キ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑法附則第二十七條第一項第二號ニ

「群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス」トアルハ畢竟刑餘ノモノヲシテ一定ノ期間内謹慎セ  
シムルカ爲メ設ケタル一ノ制裁ニ外ナラサルモノナレハ多數集合ノ原因目的等ニ依リ差異  
ヲ生スヘキモノニ非ス故ニ其群集ハ其本件ノ如ク被告ノ招待ヲ受ケ爲メニ集會シタルモ  
ノニモセヨ被告カ其場所ニ參會シタル以上ハ右ノ規定ニ違背シタルモノト謂ハサルヘカラ  
ス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ前記ノ法條ヲ適用處斷シタルハ不法ニアラス「擴張書ノ要  
ハ被告カ明治三十二年十月三十一日附名古屋地方裁判所檢事正ヘ差出シタル陳情書記載ノ  
事實ニシテ有罪ト判定セラル、ニ於テハ被告ノ自供ニ係ルヲ以テ則チ自首ノ法條ヲ適用シ  
一等ヲ減セサルヘカラサルニ原判決爰ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○自首ノ事  
タル原院ノ認メサル所ノモノナレハ自首法條ノ適否ニ付論難スルヲ得ヘキモノニアラ  
ス

同辯護人辯明書ノ第二ハ第一審判決ニ「被告自ラ主トナリ同場ニ出席シ七百餘名ノ來賓ニ  
對シ新聞發行ノ演述ヲ爲シタルモノナリ」トアルニ依レハ被告ハ群集ノ場所ニ參會スルコ  
トヲ許サストノ一條件ニ違反シタルノミナルカ如ク而シテ原判決ニ酒肴饗應云々ノ事實ア  
リト認メタルニ依レハ酒肴遊興云々ノ一條件ニ違反シタルモノト認メタルカ如ク如斯  
原判決ハ第一審判決ト一致セザリシニモ拘ラス控訴棄却ノ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云  
フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ「酒肴饗應中ノ來賓七百名ニ對シ新聞發行ニ關スル演  
述ヲ爲シタルモノナリ」トアルハ多數ノ來賓ニ對スルヲ主トシタルモノニシテ其酒肴饗應



ノ字アルカ爲シ酒宴遊興ノ席ニ會シタリトノ一條仲ヲ加ヘタルノ判旨ニアラス故ニ第一二審ノ判決ハ其認定ヲ異ニシタルモノト云フヲ得サレハ原判決ニ於テ控訴棄却ノ旨渡ヲ爲シタルハ不法ニアラス

其第三ハ第一審判決ノ證據説明ノ部ニ監視表中期限ノ記載アルトニ依リ云々トアリテ其記載ハ何時ヨリ何時迄ノ監視期限則チ其内容ヲ説明セサル違法アルニ歸ス從テ該判決ヲ認可シタル原裁判ハ亦不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決文ニ明治三十二年八月十四日附監視期限表云々トアル上ハ其證據自體ニ於テ被告カ監視中ノ身分ナリシトテ證據スルニ足ルヘケレハ特ニ其表中ニ記載アル期限ヲ示サ、ルモ違法ト云フヲ得ス故ニ原判決カ第一審判決ヲ認可シタルハ相當ナリトス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年三月九日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事與宮正治立會宣言ス

●監守盜及竊盜事件 明治三十三年第二一五號 (被毀)

判決要旨

第一審判決ニ於テ公訴裁判費用ノ全部ヲ被告人三名ニテ負擔スヘキコトヲ言渡シ第二審ニ至リ之レヲ反更シテ其一部ヲ被告二名ニテ連帶負擔スヘキ旨ヲ言渡スハ則チ原

判決ヲ反更シテ被告ノ不利益トナスモノトス

說明

裁判費用ノ全部ニ對シ第一審ニ於テ甲乙丙三名ニテ連帶負擔スヘシト判決シ第二審ニ至リ其ノ一部ヲ甲乙二名ニテ連帶負擔スヘシト判決スルハ則チ法律上債務ノ體標ヲ一會加重スルモノニシテ即チ第一審ノ判決ヲ被告ノ不利益ニ反更スルモノタルニ外ナラス

第一審 金澤地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 寺脇順次

右順次ニ對スル監守盜及竊盜被告事件ニ付明治三十二年十二月十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セズ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

被告ノ第二回上告證據帳簿ノ第二點ノ趣旨ハ第一審ニ於テハ公訴裁判費用ハ總テ被告三名連帶シテ負擔スヘシト言渡シタルヲ原院ハ被告ノミノ控訴ヲ受理シテ審理ノ末本件第二ノ事實ニ關スル公訴費用ヲ原告兩名連帶シテ負擔スヘシト言渡シタルハ被告人ノ不利益ニ變更シタル違法ノ判決ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ本件控訴ノ被告ノハ申立テハ上及ヒ第一審判決ニ於テ公訴裁判費用ノ全部ヲ被告三名連帶シテ負擔スヘシト言渡シタルヲ原判決ハ之ヲ變更シテ其一部ヲ被告三名ノ

判決不利益ノ變更



内被告順次順選二名ニテ連帶負擔スヘキ旨官渡シタルハ此録及ヒ判決原本ニ徴シテ明カ  
ナリ即チ三名ニテ負擔スヘキモノヲ二名ニテ負擔スヘキ者トシタルハ被告三人ニ利益ナル  
變更ナレバ原判決ハ本論旨ノ如ク刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ違背シタル不法ノ裁  
判ニシテ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ全部破毀ノ理由ヲ認ムル以上ハ他  
ノ上告趣旨ハ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ  
原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス  
明治三十三年三月九日大審院第一刑事公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

官吏職務執行妨害事件

明治三十三年第二十四號  
明治三十三年三月二日判決 (棄却)

判決要旨

官吏職務執行ヲ妨害スル犯罪(刑法第三百三十九條)ノ主体タ  
ルニハ現ニ其ノ職務ノ執行ヲ受クルモノタルト否トテ區  
別セス

既明

刑法第三百三十九條ノ規定ハ官憲ノ執行ニ對シ之ニ妨害ヲ加フルノ所爲ヲ  
以テ刑罰ノ基本トナスカ故ニ本條ノ罪ハ妨害ヲ加フルモノ、何人タルヲ

問ハサルハ勿論ナリトス

第一審 鳥取地方裁判所米子支部

第二審 大阪控訴院

被告人 大飯平四郎

辯護人 鹽入太輔

外二名

右官吏職務執行妨害被告事件ニ付明治三十二年十二月二十六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタ  
ル判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判  
スルコト左ノ如シ

被告三名上告趣旨ノ第一ハ原院ハ告發書及ヒ證人ノ豫審調査ヲ掲タルニ當リ云々ノ趣旨ヲ  
記載シ又ハ云々ノ趣旨ヲ陳述セル旨ヲ記載シアリテ其内容ヲ明示シアラサルハ證據ノ明示  
ヲ欠キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ證據ノ趣旨ヲ解釋シテ其要ヲ掲  
クテ以テ斷罪ノ證據トナシアレハ證據ノ明示ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス』其第二ハ原判決  
ニ於テ第一審判決ヲ取消スニ當リ單ニ刑事訴訟法第二百六十一條トノミ掲ケ其第一項ナル  
カ第二項ナルカヲ明示セサルハ法律ノ理由ヲ欠キタルモノナリト云フニ在レトモ○第一審  
判決ヲ取消シアル上ハ同條末段ヲ適用シタルコトハ自ラ明ラカナレハ特ニ其末段タルコト  
ノ明示ナキモ法律ノ明示ヲ欠キタルモノト云フヲ得ス

同辯護人鹽入太輔ノ擴張書ノ第一ハ原判決ノ認定事實中互ニ一團トナリ摺ミ合ヒテ始メタ  
リトノコトハ被告等カ證據湮滅セントシタルヲ稅務屬カ暴行ヲ以テ之ヲ防止セルニ基キシ  
モノニシテ被告等カ積極的ニ暴行ヲ加ヘタルモノニアラサレハ之ヲ以テ官吏ノ職務ヲ妨害

判決不利益ノ變更



二百三十八

シタルモノト云フヲ得ス然ラハ原判決ハ肩ヲ嚙リ付タルヲ以テ犯罪タル暴行ト認定シタルモノトセシカ據律錯誤ノ不法アリ何トナレハ「リン」カ嚙リ付キタルハ全ク久三郎平四郎ノ教唆ナレハ「リン」ハ其實行者タルヘキモ他ハ教唆者トシテ罰セサルヘカラス又中山間稅官吏ノ肩部ヲ毆打シタルハ平四郎久三郎ノ全ク與リ知ラサル所ナルニ之ヲ以テ兩人ニ擬スルニ刑律第三百三十九條ヲ以テスルヲ得ザルモノトス又原判決ノ如シトスルモ平四郎ハ職務ノ執行ニ對シ抗拒シタルコトナキヲ以テ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○

原判旨ニ據レハ被告等ハ間稅官吏カ無免許釀造酒ト認メタルモノヲ差押ヘン爲メ之ヲ斗量封緘シ成ハ證據ノ湮滅ヲ防止セントシタルニ對シ之レカ職務ノ執行ヲ妨害シ遂ニ稅務吏二名ト被告等三名ト一團トナリ「リン」ハ中山間稅吏ニ嚙付或ハ竹杖ヲ以テ同人ヲ毆打シタルモノナレハ原判決ハ其行爲ノ全體ニ對シ暴行ヲ以テ官吏ノ職務執行ヲ妨害シタルモノト認メタル者ナリ而シテ中山間稅吏ニ嚙付或ハ同人ヲ毆打シタル如キハ「リン」一名ノ所爲又ハ平四郎等ノ使喚ニ出テタル者トスルモ既ニ五名一團トナリテ戶外ニ出テタル後ニ係レハ右所爲ニ付テハ被告等全體ニ於テ其實ニ任セサルヲ得ザル者トス故ニ本論旨ハ其理由ナシ

其第二ハ元來官吏ノ職務抗拒罪ナルモノハ職務ノ執行ヲ受ヘキ當人ノミニ限ルモノナリ而シテ本件ニ於テ其執行ヲ受クヘキモノハ酒造稅則違犯者タル平四郎一人ニシテ他ハ犯罪者ニアラサルナリ故ニ他ノ二名ハ職務ノ執行ヲ受クヘキモノニアラサレハ第三百三十九條ノ罪ヲ爲サルモノナリト云フニ在レトモ○被告久三郎平四郎ノ長男被告「リン」ハ平四郎ノ

五十三

妻ニシテ共ニ酒造稅則違犯者タル平四郎ノ家族ナルノミナラス官吏職務執行ニ對スル抗拒罪ハ其執行ヲ受ルモノナルト否トヲ問フヘキモノニアラサレハ本論旨モ亦其理由ナシ

其第三ハ原判決ニ據用シタル小山豐遠ノ第二回豫審調書ニ宣誓ヲ爲サシメタル事蹟ノ見ルヘキナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○同人ノ第一回調書ニ宣誓ノ添附シアリテ既ニ第一回ニ於テ宣誓ノ上證言ヲナサシメアリ然ラハ則第二回ニ於テ尙宣誓ヲ爲サシムルノ要ナクハ本論旨亦其理由ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年三月二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

賭場開張事件 明治三十三年四月十九日判決 (破毀)

判決要旨

米相場ノ高底ニ依リ勝敗ヲ決シタリトノ事實ノミニ對シ直チニ賭奕罪ヲ問擬シタルハ違法ナリトス

說明

何レノ國ノ法律ト雖モ自己ノ財產ハ自己ノ意思ニ依リ自由ニ之レヲ處分スルコトヲ得ルヲ以テ原則トナスト雖モ若シ其ノ處分法方ニ於テ社會ニ危害ヲ及ストキハ之ニ一定ハ制裁ヲ加フルハ各國法制ハ一致スル所ニシ

賭博罪ノ性質

二百三十九







此點ニ付キ原判決ヲ破毀スル上ハ他ノ論旨ニ對シ説明スルノ必要ナシ  
右ノ理由ニ依刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院ニ移ス  
明治三十三年四月十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事奧宮正治立會宣告ス

●監守盜及委託金費消事件 明治三十三年四月二十四日判決 (破毀)

判決要旨

一ノ犯罪事件ニ付キ證人トシテ訊問セラレタル者ニ對シ同一  
被告ニ對シ更ニ訴追セラレタル別個ノ犯罪事件ニ付キ再ヒ  
證人トシテ訊問センニハ更ラニ宣誓ヲ爲サシメサルヲ得ス

凡ソ犯罪事件ニ關シ證人トシテ訊問スルニ當リ宣誓ヲ用ヒ其陳述ノ眞正  
ヲ警テハ其ノ訊問事件ニ對シテハ其ノ宣誓ヲ爲スモノニシテ其ノ他ノ事件ニ  
對シテハ宣誓ノ效ヲ及スヘキモノニアラス故ニ假令同一被告ニ對スル同  
一證人ノ訊問ト雖モ已ニ其ノ訊問事件ヲ異ニスルトキハ從テ宣誓モ亦タ  
之ニ對シ新タニ行ハレスノハ證人ノ訊問有效ナルヲ得サルナリ矣

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院  
公訴私訴上告人 小山 巽 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 大阪稅務管理局長 渡邊 義郎

右看守盜及委託金費消被告事件並ニ之ニ附帶セル私訴事件ニ付明治三十三年二月二十三日  
大阪控訴院於テニ言渡シタル公私訴ノ判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第  
二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎辯明ノ五ハ巽キニ豫審判專カ證人ヲ訊問スルニ當リ其當時公訴ノ提起ア  
ル甲罪ノ事件ニ付證人ニ宣誓ノ上供述セシメシニ其後同一ノ被告ニ乙罪ノ事件起リテ甲乙  
兩罪ノ事件ヲ合併審理スルニ際シ後ノ事件ニ付同一ノ證人ヲ訊問スルニハ更ニ宣誓ノ式ヲ  
踐行セシメサルヘカラス(二十九年六三八號)而シテ本案ニ付第一ノ公訴事件ハ明治三十二  
年三月一日ニ訴追アリ次テ豫審掛ハ林俊夫平井六藏ヲ證人トシテ宣誓セシメタル上兩度訊  
問ヲ爲シ爾後第二ノ公訴事件ハ同年六月五日ニ訴追アリシニモ不拘右兩名ヲ前後被告事件  
ニ付證人トシテ訊問スルニ當リ更ニ宣誓セシメタル事跡ナキハ違法ナリ故ニ兩名ノ第三回  
以下ノ豫審調書ハ本件ニ付證言ノ效ナキモノナルニ之ヲ適法ノ證言ト認メ罪證ニ供シタル  
原裁判ハ法則ニ違反セリト云フニ在リ

依テ記録ヲ查閱スルニ證人林俊夫等明治三十二年三月一日ノ起訴ニ基キ宣誓ノ上訊問ヲ爲  
シタルモ明治三十二年六月五日ノ起訴後更ニ訊問ヲ爲スニ當リ更ラニ宣誓セシムヘキニ事  
茲ニ出テザルヲ以テ右第二ノ起訴後ノ同人等ノ調書ハ證人調書タル效力ナキモノナルニ原  
判決ハ之ヲ證人ノ訊問調書トシテ斷罪ノ證據ト爲シタルハ本論旨ノ如ク不法ノ裁判ニシテ

證人訊問ニ關シ甲ノ事件ニ對シタル宣誓カ乙ノ事件ノ訊問ニ及ス効力



全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ  
私訴判決ハ公訴判決ニ認メタル理由ニ基キタルモノナレハ公訴判決ニシテ破毀スヘキモノナル上ハ其ニ破毀ヲ免カレサルモノナリト云フニアリ而シテ公訴判決ニシテ前説明ノ如ク破毀ヲ免カレサル以上ハ私訴判決モ其ニ全部破毀スヘキモノトス  
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如ク  
原判決ハ公訴私訴共全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス  
明治三十三年四月二十四日大審院第一刑事部公庭ニ法ヲ檢事岩野新平立會宣告ス

●毆打創傷教唆事件

明治三十三年四月十九日判決

(棄却)

判決要旨

毆打罪ニ付キ教唆ノ外實行ノ所爲ニ干與シタル事實アリトスルモ實行ノ所爲カ教唆ノ所爲ニ比シ輕キトキハ尙ホ教唆罪ヲ以テ論スヘキモノトス

說明

本件判決ノ趣旨ハ一々ノ犯罪事件ニ對シ教唆ノ所爲ト實行ノ所爲ト一人ニテ併行シタルトキ若シ實行ノ所爲カ教唆罪ノ本刑ニ比シ輕キハ尙ホ教

唆罪ヲ以テ論スヘシト云フニアリ然レモ之レ甚タ不通ノ議論ニシテ未タ教唆ノ實質ヲ解セサルニ應スルノミ  
抑モ教唆ニ由リ刑罰ヲ受クルト實行ノ所爲アルニ由リ刑罰ヲ受クルトハ全ク刑罰ノ基本ヲ異ニス即チ教唆罪ナルモノハ他人ノ腦裏ニ犯罪ノ決心ヲ惹起セシメタル所爲ヲ以テ刑罰ノ基本トナシ實行罪ナルモノハ刑法第二編以下各條ノ犯罪行爲ヲ以テ刑罰ノ基本トナス如斯教唆罪ト實行罪トハ刑罰ノ根本ヲ異ニスルノミナラス教唆罪ハ刑法第百五條ニ依リテ刑罰ノ制裁ヲ受ク實行罪ハ第二編以下各本條ノ規定ニ依テ刑罰ノ制裁ヲ受クノ制裁ヲ受ク實行罪ハ第二編以下各本條ノ規定ニ依テ刑罰ノ制裁ヲ受クノ制裁ヲ受クハ是レ二個ノ所爲カ二個ノ明文ニ觸レタルモノニシテ之ニ對シ刑法上二個ノ犯罪成立ヲ認メサル可クヤ勿論ナリトス故ニ本件ノ如ク一人ニテ教唆實行ノ二所爲ヲ兼テタル場合ニ於テハ宜シク之レニ數罪俱發例ヲ適用シ一ノ重ニ從テ所斷セサル可ラサルヤ明カナリトス是レ余輩カ本件ニ對スル大審判決ヲ非ナリト云フ所以ナリ

〔附言〕

教唆ニ於ケル刑罰ノ基本ニ關シテハ類ル議論ノ生スル所ニシテ從來學者ノ説ク所ニ依レハ教唆ニ係ル犯罪ノ所爲ハ被教唆者之ヲ分担シ其ノ犯罪ノ故意ハ教唆者之ヲ分担ス即チ教唆者ハ犯罪ノ本人ニシテ被教唆者ハ所爲ノ本人ナリト今此ノ趣旨ヲ考フルニ教唆者ハ自ら之レヲ實行セサルモ犯罪ヲ製造シタルカ故ニ犯罪ノ原因アリ被教唆者ハ他人ニ犯罪ヲ製造セラレタルモ自ら之レヲ實行セタルカ故ニ犯罪ノ原因アリ警言セハ二者共ニ一犯罪ノ原因ヲ爲スカ故ニ刑罰ノ責任ヲ受ケト云フニ在リ今如斯キ觀念ヲ以テ教唆ノ故意ヲ考フルハ本件ノ場



合之レチ一犯罪トスルモ、誤認ノ諸論ニテ、即チ教唆者ニ於テ他人ノ罪ヲ製造シタルハ、外實行ノ所爲アリト雖モ、退テ其ノ全体ヨリ觀察スルハ、犯罪ノ實行ノ外ニ出テサルヲ以テ之レニ三ヶ以上ノ犯罪成立スト云フハ、到底理論ノ許サレハ、所ナレハナリ、然リト雖モ、近世ニ於ケル教唆ノ憲法ハ、如キ觀念ヲ許サ、ルチ如何セン夫レ犯罪ノ要素ハ、犯意及ヒ所爲ニテ、是ナリ、犯罪ヲツテ所爲ナケレハ、犯罪成立セス、所爲在テ犯罪ナケレハ、犯罪成立セス、而シテ犯罪所爲ハ、他人ノ爲メニ之レヲ代表スルコトヲ許サ、ルチ以テ、犯罪ヲ行ハ、犯罪及ヒ所爲ノ二要素ハ、各犯人ニ對シ各別ニ併存スルヲ得、サレバ、得テ、夫レ前論所説ノ如ク、教唆ヲ以テ犯罪ノ本人トナシ、被教唆者ヲ以テ實行ノ本人トナサ、被教唆者ハ、犯意アリテ所爲ナク、被教唆者ハ、所爲在テ犯罪ナク、共ニ犯罪ノ要素ヲ缺キ、從テ無罪タルニ至ラン、教唆ハ、教唆者自身ニ於テ犯罪アリ、被教唆者ハ、被教唆者自身ニ於テ犯罪アリ、犯罪アリトスルニテ、アラス、刑法上、兩者ヲ犯罪トシテ、同スルノ根據ナシ、然ラハ、則チ教唆者ニ於ケル犯罪犯行ハ、如何。

被教唆者ニ於ケル犯罪犯行ハ、如何。  
一、教唆者。教唆者ノ犯意ヲ解スレハ、則チ曰ク第一ニ刑法各條ノ罪ヲ犯サントスルノ決心。第二ニ此ノ決心ヲ實行セシムルノ決心。第三ニ他人ヲシテ實行セシムルノ決心。犯意ヲ通シテ他人ヲシテ實行セシムルノ決心。此ノ三決心ヲ綜合シタルモノ是レ則チ教唆ノ犯意ナリトス。教唆者ノ犯行(即チ所爲)ニ関シ、則チ曰ク教唆者ハ、以上ノ三點ニ依テ成立セル教唆ノ犯意ヲ實施スル爲メ、冒罪文章等ヲ用ヒ、被教唆者ヲ誘同承服セシムルノ制作是ナリ。  
二、被教唆者。被教唆者ノ犯意ハ、教唆者ノ教唆ニ依テ惹起セラレタリト雖モ、其ノ犯意ハ、則チ被教唆者ノ意思ナリ、冒罪セハ、其ノ犯意ノ本人ハ、教唆者ニ非シテ、教唆者タルナリ、而シテ、實行ノ所爲ハ、被教唆者ノ所爲ナルコト明白論ナリ、待テサル所ナリ。  
如斯教唆者及ヒ被教唆者ハ、各自犯意及ヒ犯行アルヲ認ムルハ、犯罪ノ要素ヨリ生スル當然ノ結果ニシテ、教唆者及ヒ被教唆者ノ刑罰ノ基本カ、各別個ノ關係アル所以ノ理、増々明カナルト同時ニ、一人ニテ之レヲ併行シタルト之ニ對シ、

スル法文ノ疑ハ、正ニ數罪併發ヲ以テセサル可ラサルノ理一會明カナルヲ得ン乎  
教唆ハ、教唆者自身ニ犯意アリ、犯行アリトナン、實行ノ所爲ト全々別個ノ關係ヲ有スルモノトセハ、何方故ニ教唆ノ刑ハ、教唆者實施シタル時、即チ自己ノ犯意ニ贊同承服セシメタルトニ之レヲ加ヘサル乎、又ハ、教唆者ヲ以テ實行ノ所爲ト分離シ得ヘキ別個ノ所爲ナリトセハ、何方故ニ之ヲ共犯ノ一種トナシタル乎、此ノ二點ヲ說明スルハ、教唆論ノ分限ニ於テ重要ノ問題ニ屬スト、雖モ、長文ニ涉ルノ恐アルヲ以テ、之ヲ略シ、茲ニハ、唯、教唆ノ實質ヲ說明シテ、本件ノ疑ハ、正ニ數罪併發ノ適用ニ出テサル可ラサルノ理ヲ明ニスルノミ。  
第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被 告 人 飯 島 次 郎 辯 護 人 高 木 益 太 郎  
右毆打創傷教唆被告事件ニ付明治三十三年三月九日東京控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮一年三月ニ處スル旨ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ、因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルト左ノ如シ  
上告趣意ハ、原院ハ事實ヲ不當ニ認メ法律ヲ適用シタル違法アリト云フニ在レトモ、○諸般ノ證據ヲ綜合シテ事實ヲ認定スルハ、原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ、原院ハ其判決ニ據クタル諸般ノ證據ヲ綜合シテ被告ニ毆打創傷教唆ノ所爲アリト認メ、其法條ヲ適用シタルモノニシテ、毫モ不當ノ廉アルコトナク、本論旨ハ、要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外、ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
辯護人高木益太郎辯明書ノ要旨ハ、原院文ニ採用シタル證人土屋松五郎豫審第一回調書ニ、單ニ毆打創傷教唆被告事件ニ付訊問ヲ爲ス旨ヲ記載シ、何人ノ毆打創傷教唆事件ニ付訊問ス、教唆ノ所爲ト實行ノ所爲ト一人ニテ併行シタル者ノ處分



ルモノナルヤヲ記載セス又之レニ屬スル宣誓書ニモ被告事件 表示ヲ爲サ、ルヲ以テ本案被告ニ對スル事件ニ付適式ノ宣誓ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス故ニ之ヲ適式ノ證人調書ト認ノ罪證ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レモ○右豫審調書ニ被告ノ氏名ヲ掲ケサルモ本案被告ニ對スル毆打創傷教唆事件ニ付土屋松五郎ヲ證人トシテ訊問シタル調書ナルコトハ訴訟記録ニ載シ明カナルノミナラス同人ノ宣誓書ニ被告事件ヲ表示セサルモ其豫審調書中本件ニ付同人カ宣誓ヲ爲シタル旨ヲ記載シ且ツ該宣誓書ヲ之レニ添付シアル上ハ本件ニ付同人カ適式ニ宣誓ヲ爲シタルコトモ亦明カナルヲ以テ土屋松五郎ノ豫審調書ニハ毫モ違法ノ虞ナキニ依リ本論旨ハ相立タス

同辯護人第二辯明書ノ要旨第一ハ原院カ第一審判決ヲ取消シタル理由ニ「原判決ヲ按スルニ(中略)如何ナル教唆ヲ爲セシヤヲ詳記セス恰モ被告カヤツクテ仕舞ヘト大喝セシテ教唆ト認定シタルカ如ク結局其理由不備ニシテ」トアレトモ第一審判決ニハ「前記嶋原秀吉等ヲ教唆シテ名ヲ工事検査ノ官吏出張ニ藉リ松五郎ヲ誘出シ之ヲ毆打セヨト企テ」ト掲ケアリテ毆打ノ教唆ヲ爲シタル事實ヲ明示シ毫モ理由不備ノ違法ナキノミナラス被告カヤツクテ仕舞ヘト大喝セシテ就テモ原判決ノ判斷ハ第一審ノ判斷ト全ク同一ナルニ拘ハラス第一審判決ヲ取消シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ヲ閱スルニ「前記嶋原秀吉等ヲ教唆シテ名ヲ工事検査ノ官吏出張ニ藉リ松五郎ヲ誘出シ之ヲ毆打セヨト企テ」ト掲ケアルモ右ハ被告ニ教唆ノ意思アルコトヲ判示シタル

●恐喝取財事件

明治三十三年九月二十九號  
明治三十三年四月十日判決 (破毀)

判 決 要 旨

警察署ニ於テ違警犯人トシテ取調ヲ受クルニ當リ自己ノ

遊藝師ノ訊問ニ於ケル被管人ノ氏名詐稱

ニ止リ如何ナル教唆ヲ爲シタルヤノ點ニ至リテハ其事實明瞭ナラサルヲ以テ原院カ理由不備ナリトシテ第一審判決ヲ取消シタルハ違法ニアラス

第二ハ被告ハ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シタル實行正犯ナルニ原院カ刑法第二百五條ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○假リニ次郎ノ行爲ハ教唆ノ外作カ實行ニ干與シタル事實アルモノトスルモ本件ノ如キ毆打ノ罪ニ付テハ尙ホ其教唆ノ罪ヲ以テ處斷セサルヘカラス何トナレハ若シ實行正犯者トシテ處斷セントスルトキハ刑法第三百五條ノ本文又ハ同第三百六條ノ規定ヲ適用セサルヘカラスナルリ而シテ右第三百五條ノ規定ニ從ヘハ次郎現ニ手ヲ下サルヲ以テ實行正犯ノ點ハ罪ノ論スヘキナシ又同第三百六條幫助シタル者ノ規定ヲ適用スルトキハ教唆罪ノ本刑ヨリ輕ク處斷セサルヘカラスナルヲ以テ反テ重キ刑ヲ免カル、ノ不權衡ヲ生スレハナリ即是等ノ場合ニ於テハ其輕キ行爲ハ重キ行爲ニ包含スヘキモノナルニ依リ原院カ教唆罪ヲ以テ處斷シタルハ相當トス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年四月十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス



氏名ヲ詐稱スルモ氏名詐稱罪ヲ構成スルモノニアラス

二百五十

説、明

違警罪ノ違犯者ト雖モ已ニ被告人トシテ訊問ヲ受クルモハ警察署ニ於テ  
スルト裁判所ニ於テスルトヲ問ハス之ニ辯護權ノ存在ヲ認ムハキハ猶ホ  
輕罪以上ノ犯人カ裁判所ノ訊問ヲ受クル場合ニ於ケルト異ナルナリ氏名  
ヲ詐稱シ自己ノ犯罪ヲ免カレントスルハ即チ辯護權ノ結果ニシテ犯罪ノ  
責任ヲ負フモノニアラサルナリ是レ本判決ノ生スル基本ナリトス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 吉澤 熊吉 辯護人 高木益太郎

右恐喝取財被告事件ニ付明治三十三年二月十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對  
シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑訴訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ  
如シ

上告趣意ノ第一乃至第三ノ要ハ被告ハ原判決ニ認メラレタル如キ恐喝取財ノ罪ヲ犯シタル  
コトナク毛利銀次郎ヨリ金員ヲ受取リタルハ任意上ノ貸借ニシテ被告ヨリ相當ノ返済期限  
ヲ付シタル受取書ヲ交付シ置キタリ假リ第二審ニ認メタル恐喝取財ノ事實アリトスル  
モ原判決事實ノ部ニ被告熊吉ハ梅次ト共ニ銀次郎ニ對シ言辭ヲ荒立テ云々銀次郎カ答辯ニ  
躊躇スルモ乘シ被告ハ手ニテ同人ノ頭部ヲ打擲シ云々トアリテ被告トハ熊吉ナルヤ將タ梅

六十四

次ナルヤ判然セサルモ判決理由ニ參照スレハ熊吉ナルコト疑ヲ容レス然ルニ右銀次郎及渡邊  
常次郎加藤政九郎カ警察ノ陳述ニ徴スレハ銀次郎ノ頭部ヲ手ニテ打擲シタルハ梅次ニシテ  
熊吉カ現場ヲ立去リタル後ノ行爲ニ係ル而シテ熊吉カ打擲シタリトセラレタルハ銀次郎ニ  
面會前ニ常次郎ニ對シ爲シタルモノ、如ク同人ノ陳述スル所ナリ獨リ熊吉カ銀次郎ヲ毆打  
シタルモノ、如ク陳述シアルハ公判始末書中銀次郎ノ證言ニ裁判長ノ問ニ對シ熊吉カ張リ  
マシタト答ヘタル一項アルノミ然レモ同人證言中受取書ヲ示サレ右ハ温飽屋ニテ梅次カ書  
キタルモノトノ陳述アリ右受取書ハ熊吉ノ筆記シタルモノナルニ銀次郎カ熊吉梅次ニ面識  
ナキヲ以テ名前ヲ錯誤シ居ルモノナリ又公判始末書中加藤政九郎ノ證言ニ裁判長ヨリ警察  
ニテ爲シタル聽取書ノ事實ハ聽取書ニハ熊吉ノ立去リタル後姓名不知男(梅次ヲ指ス)カ銀  
次郎ノ頭部ヲ毆テタルコトヲ陳述シアレハ同人證言ハ警察ノ陳述ト相違ナシトノ答辯ト抵觸  
セルニ依リ第一審判決ハ之ヲ援用セス梅次カ銀次郎ヲ毆テタルモノト認メラレタルニ拘ハ  
ラス原院判決ハ銀次郎ヲ毆打シタルハ熊吉ノ行爲ナル如ク認定セラレタルハ事實及理由錯  
誤アルモノナリト云フニ在レモ○事實ノ認定證據ノ判斷ハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナ  
レハ之ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ト爲スヲ得ス」第四ハ被告熊吉カ警察署ニ於テ違警  
罪事件ニ付取調ヲ受クル際菊池熊太郎ト稱セシハ通常ノ稱呼ヲ何心ナク陳述シタル迄ニテ  
故意アルニアラス假リニ故意アリトスルモ被告カ辯護權内ニ屬シ罪トナルヘキモノニアラ  
スト信スト云フニ在リ

違警罪ノ訊問ニ於ケル被告人ノ氏名詐稱

二百五十一

六十五



按スルニ本上告ハ其理由アルモノトス何トナレハ原判決ニ依レハ被告ハ警察署ニ於テ違警罪被告事件ノ被告人ノ取調ヘテ受クル際氏名ヲ詐稱シタルモノナレハ其詐稱タル自己ノ辯護權内ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス既ニ然レハ其詐稱ヲ以テ刑法ノ制裁ヲ負ハシムルヲ得サレハ原院カ之ヲ刑法第二百三十一條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ判決タルヲ免レズ辯護人高木益太郎辯明書ノ要ハ原判決中第一審公判始末書中毛利銀次郎カ關與シタル事實ニ付テハ前掲認定ト同趣旨ノ陳述ヲ同人カ爲シタル旨記載セリトフントモ同人ノ證言中ニハ原判文理由第一中ニアル如ク「山田宇吉カ渡邊常三郎ヨリ金圓ヲ借受クル保證ニ立ツ間ハレナシト云ヒ」トノ記載ナシ畢竟原判決ハ架空ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノト云フニ在レトモ○證言ノ趣旨ヲ解釋シテ前顯ノ如ク掲載シタルモノナレハ其認定ノ文詞ノ如キ證言アラサリシトテ之ヲ以テ架空ノ證據ヲ採用シタルモノト云フヲ得ス右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルヨト左ノ如シ

吉澤 熊吉

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ恐喝取財ノ一點ハ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該リ再犯ニ付同法第九十二條ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ加ヘ處分スヘキモノトス依テ被告ヲ重禁錮一年罰金拾圓監視六月ニ處ス  
氏名詐稱ノ點ハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ從ヒ無罪トス

其他公訴裁判費用及ヒ押收書類ノ還付ハ原判決ノ通り

明治三十三年四月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

官吏侮辱事件 明治三十三年九月第八十號 明治三十三年四月五日判決 (破毀)

判決要旨

官吏侮辱罪トシテ起訴セラレタル事件ニ對シ被告ヨリ誹毀罪ナリト主張シ告訴ナキテ理由トシテ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ事件ニ對シ官吏侮辱罪ナリヤ誹毀罪ナリヤヲ審理シ公訴受理スヘキヤ否ヤノ判決ヲ下サ、ル可ラス

說明

裁判所ハ公訴名義ノ如何ニ關シ何等羈束ヲ受ケサルヲ以テ或ハ竊盜名義ノ公訴ニ對シ詐欺取財罪ナリト主張シ若クハ冒認罪ノ公訴ニ對シ委託物消費罪ナリト主張スルモ之ニ對シテ何等裁判ヲ與フルノ義務ナク又々輕罪ヲ重罪ナリト主張シ重罪ヲ輕罪ナリト主張スルモ是レ唯訴訟手續ノ反更ヲ爲スニ止マリ其主張ニ對シ何等判定ヲ與フルノ義務ナキナリ唯リ官

公訴名義ノ判決



二百五十四  
吏侮辱罪トウ名義ノ公訴ニ對シ誹毀罪ナリト主張シ申告罪ノ理由ヲ以テ  
公訴不受理ノ申立ヲ爲スニ至テハ之レヲ侮辱罪トナスト誹毀罪トナスト  
ハ公訴權ノ消長ニ關スルヲ以テ則チ此ノ點ニ付キ判決ヲ爲サハルヲ得ス  
第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 永井正士

右官吏侮辱被告事件ニ付明治三十三年二月一日東京控訴院ニ於テ本件公訴受理スヘカラサ  
ル申立ハ之ヲ却下スル旨旨言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因リテ刑事訴  
訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意書ハ本件ハ官吏侮辱事件トシテ第一審即チ前橋地方裁判所ニ於テ有罪ノ判決ヲ受  
ク被告ニ於テ控訴ヲ爲シタル事件ニシテ官吏侮辱罪ヲ以テ問擬セラレタル上州新報第八百  
七十一號及第八百七十二號記載ノ官林拂下反對運動ト題スル記事ハ其實體ニ於テ官吏侮辱  
罪ヲ構成スルモノニアラスシテ誹毀罪ヲ以テ問擬セラレヘキ事件ト信シ若シ後段ノ趣意書  
以テ相當ナリトセハ被告人ノ誹毀セラレタリト云フ告訴ナキヲ以テ公訴不受理ノ判決ヲ求  
メタルニ原院カ之ヲ以テ本案ノ辯論ニ過キサルヲ以テ其當否ヲ論セス公訴不受理ノ理由ト  
爲スト得スト判決セラレタルハ左ノ不法アリト信ス

刑事訴訟法第八十六條及第八十七條ノ規定ニ由リ公訴不受理ノ申立ハ本案ト同時ニ申  
立ツルコトヲ必要トセス本案ノ辯論ト分離シテ申立ツルコトヲ得ヘキハ刑事訴訟法第八八  
六十九

六十九  
十七條ニ依リ明カナリ然ラハ本件ノ場合ニ於テ原院ハ新聞紙記載ノ事項ノ實體ヲ審究シ申  
立ノ當否ヲ判決スルヲ相當トス然ルニ原院カ前顛ノ如ク判示シタルハ不法ナリト云フニ在  
リ  
因リテ審案スルニ本件ハ官吏侮辱罪ノ公訴ニ係ルト雖モ裁判所ハ固ヨリ訴ヲ受タル事實ニ  
付キ判斷ヲ下スヘキモノニシテ訴名ニ拘束セラレ、モノニ非ラサルヲ以テ若シ本件ニシテ  
被告主張ノ如ク官吏侮辱罪ニ非ラスシテ誹毀罪ノ事實ナランニハ被害者ノ告訴ヲ待タサレ  
ハ公訴ヲ受理スヘカラサルモノトス故ニ原院ハ須ク本件カ果シテ官吏侮辱罪ナリヤ將タ誹  
毀罪ナリヤヲ審理シテ公訴ノ受理スヘキヤ否ヤヲ判決セサルヘカラス然ルニ原院ハ被告ヨ  
リ申立タル公訴不受理ノ理由ヲ以テ本案ノ辯論ニ過キスト爲シ其當否ヲ審理セスシテ職ク  
其申立ヲ却下シタルハ失當ノ判決ニシテ上告論旨ハ其理由アリ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ  
移ス

●私印盜用事件 明治三十三年四月二十四日判決 (棄却)

判決要旨

證據調ノ結果被告事件ノ一部無罪トナルモ其ノ證據調カ

公訴費用ノ負擔ヲ命スル裁判所ノ職權



有罪トナル部分ニモ關係ヲ有スル場合ニ於テハ被告ニ對シ其ノ費用ノ全部ヲ負擔セシムルモ一部ヲ負擔セシムルモ裁判所ノ職權ニ屬ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 神戸地方裁判所後山支部

第二審 廣島控訴院

被告人 大黒虎之助

辯護人 高木益太郎

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年二月二十一日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ第一點ハ詐欺取財ヲ構成スルニハ欺罔ノ所爲アルヲ要ス然ルニ原裁判所ニ於テ其判決書第一ノ犯罪ニ付被告カ松木好太郎ノ文肯ニ乘シ債務證書ヲ偽造行使シタルモノナリト事實ヲ認定シ且ツ本件ハ第一審ニ於テ證書騙取則テ詐欺取財罪トシテ起訴セラレタルモ原院ニ於テハ證書偽造行使詐欺取財トシテ刑法第二百八條第二項同第二百十二條ヲ適用セラレタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリ何トナレハ好太郎ハ契約履行ノ催告ヲ受ケシ其後テ謝罪ノ對價トシテ任意ニ松木竹造西村庄五郎ヲシテ金五拾圓又ハ參百圓ヲ出シ該

約定取消ヲ求メタルハ明ラカニ謝罪認定ヲ爲シタルモノナリ且ツ好太郎ハ一旦警察署ニ告訴ヲ爲セシ位ナル不信用ノ被告人ヘ渡ス可キ證書ヲ讀マスシテ渡スノ道理毫モアル筈ナシ假リニ讀マスレテ渡シタルモノトスルモ好太郎カ過失ト云ハサルヲ得ス從テ謝罪證書ノ授受ニ付テハ毫モ欺罔ノ手段ナシト云ヒ」其第二點ハ原裁判所ニ於テ其判決書第二ノ犯罪ニ付然ルニ其後伊三郎ハ右證書ハ單純ノ謄書ニアラサル事ヲ聞知シ福西市太郎松木恒助ヲシテ其取戻方ヲ被告人ニ談判セシメタル處被告人ハ同年四月十九日同郡古市村ノ内不來坂村ノ自宅ニ於テ市太郎恒助ニ右偽造證書ヲ示シ伊三郎ヲシテ金百圓ヲ出金スル事ヲ承諾セシメテ該證書ヲ同人ニ差戻シ翌二十日右被告人宅ニ於テ市太郎ノ手ヲ經テ伊三郎ヨリ金百圓ヲ騙取シタルモノナリト事實ヲ認定シ刑法第三百九十條ヲ適用セラレタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリ何トナレハ原裁判所カ認ムル如ク既ニ伊三郎ハ押收第九號ノ二ノ證書ハ偽造證書ナル事ヲ覺知シ其取戻シテ被告ニ嚴談シタルモノトセハ同人ハ更ニ欺罔ニ陥ルヘキ筈ナク又被告ニ於テ其際何等ノ欺罔ノ手段ヲ施シタル事實ノ認定ナクハ金百圓ハ和解ノ結果證書返戻ノ對價トシテ任意ニ出金ヲ承諾シタルモノト云ハサルヲ得ス殊ニ一件記録中ニモ伊三郎ヲ讀マシタルコトハ明ラカナリ從テ金百圓ノ授受ニ付テハ毫モ欺罔ノ手段ナシト云ヒ」其第三點ハ原裁判所ニ於テ其判決書第三ノ犯罪ニ付被告人ハ明治三十一年十月二十日前顯常右衛門方ニ至リ同人ニ對シ自分ハ地所賣買ノ周旋ヲナシタルニ付彦太郎ヨリ周旋料ヲ貸受クル約束ナクシテ貴殿ニ於テ代金悉皆支拂吳レサル爲メ周旋料ヲ受クル能

公訴費用ノ負擔ヲ命スル裁判所ノ職權



ハサルニ付代金悉皆支拂吳レヘテ彦太郎ヨリ其請求ノ委任ヲ受ケ居ル旨申欺キ即時常右衛門ヲシテ現金三十圓ト二十圓ノ小切手ヲ交付セシメ以テ之ヲ騙取シタルモノナリト事實ヲ認定セラレタリ故ニ被告カ彦太郎ヨリ代金請求ノ委任ヲ受ケ居リシヤ否ヤハ犯罪成否ニ關スル主要ノ争點ニシテ若シ被告ニ於テ其委任ヲ受ケ居タルモノトセハ假令代金請求ニ付周旋料ヲ受ケル能ハサルニ付代金悉皆支拂ヒ吳レヘテ旨ノ口述ヲ以テシタリト雖モ犯罪成立セサルヤ明カナリ尙ホ又常右衛門證言中ニ和解ノ結果被告ヲ持居リシ書類等ハ悉皆常右衛門ヨリ彦太郎ヘ返還シ此内委任狀アリシ云々然ルニ原裁判所ハ彦太郎ノ證言中金ヲ受取ル委任狀ハ渡シテハ居ラザリシ旨ノ供述ヲ援用シ前掲ノ如ク委任ナキニ委任アリシト申欺キタル如ク認定セラレタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○總テ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラザレハ上告適當ノ理由トナラス」其第四點ハ原裁判所ニ於テ其判決書第三ノ犯罪事實ヲ認定スルニ前田彦太郎ノ證言ヲ援用セラレタリト雖モ一件記録中前田彦太郎ノ證人訊問調書更ニ無之或ハ前田ハ藤田ノ誤記ナルカノ疑ヲ生スレトモ單ニ一個所ノミニアラヌシテ第三犯罪ニ關スル證據說明中數ヶ所前田彦太郎ト記載有之且ツ公判廷ニ於テモ前田彦太郎ノ訊問調書中云々ト有之旨讀取カサレタル様ニモ有之被告ニ於テハ不思議ナルコト、存シタル次第ニテ決シテ誤記ニ無之假リニ誤記ナリトセハ被告ニ藤田彦太郎ノ訊問調書ニ付辯解ヲ求メス證據ニ供セラレタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決原本ヲ見ルニ藤田彦太郎ノ訊問調書ヲ引用シアルモノ前田彦太郎ノ調書ナシ本

論旨ハ全ク明レナシ」其第五點ハ公裁判費用金十九圓四錢ハ被告ノ負擔トスト判決セラレタレトモ該公裁判費用ノ内一部分ハ第一審ノ第三第四ノ被告事件即チ無罪ノ判決ヲ受ケタル事項ニ關スル證人ノ日常旅費ヲ包含スルモノニシテ無罪ニ歸シタル被告事件ノ公裁判費用ヲ被告ノ負擔スヘキ理由ナキニ漫然理由ヲ付セス被告ノ負擔ト判決セラレタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第九項ニ該當スル不法ノ判決ナリト思料スト云フニ在レトモ○證據調ノ結果被告事件ノ一部無罪トナルモ其證據調力有罪トナリシ部分ニモ關係スル場合ハ其費用ノ全部ヲ被告ノ負擔セシムルモ又ハ其一部ヲ負擔セシムルモ固ヨリ原承審官ノ職權ニ屬スルモノナレハ本論旨モ亦上告適法ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎上告辯明ハ原院ハ立會檢事ヨリ第二ノ被告事件ニ對スル意見ヲ聽キタルノミニシテ其他ノ被告事件ニ對スル事實上ノ論告ヲ聽カスシテ結審ヲ告ケタルハ刑事訴訟法第二百二十條ニ違反スル不法アリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ見ルニ檢事ノ意見ヲ記載シタル部ニ「要スルニ原判決ハ事實誤認アルノミニナラス證據ノ内容ヲ示サ、ル不法ナルニ付云々」相當ノ處刑ヲ求ム云々」トアリテ事件全部ニ付意見ヲ陳ヘタルモノト認ム得ヘキヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年四月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス



●封印破毀事件 明治三十三年九月第六十七號 (棄却)

判決要旨

封印ノ法方ハ必スシモ物ノ開閉スヘキ部分ヲ封鎖スルニ限ラス故ニ執達吏カ馬ノ襟髪ニ施セル封印ハ法律上有效ノ封印ニシテ之レヲ破毀スルノ所爲ハ即チ封印破毀罪ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 長野地方裁判所松本支部

第二審 東京控訴院

被告人 三澤ミズエ

辯護人 播磨辰治郎

右封印破毀被告事件ニ付キ明治三十三年三月十二日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ棄却シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告ノ上告趣意ハ被告ハ封印ヲ破毀シタルコトナシ然ルニ原院カ刑法第七十四條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告カ封印ヲ破毀シタル實事ヲ認定

例判事刑卷一拾第報彙例判

シ右法條ヲ適用シタルモノナレハ毫モ不法ノ點ナク要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ナシ

辯護士播磨辰治郎ノ上告趣意擴張書ノ第一點ハ原判決ハ本件多數ノ封印破毀ハ被告ノ爲シタルモノト認定シタルニ止マリ其趣意ノ認定ヲ爲サスシテ刑法第七十四條ヲ適用シタルハ不法ナリ刑法ニハ惡意ヲ以テ破毀シタル場合ハ第七十四條ニ規定シ其惡意ニ出テス懈意ニ因リタル場合ハ第七十六條ニ規定スル所ニシテ等シク封印ノ破毀ナルモ其意思ニヨリテ刑ノ適用ヲ異ニセリ本件ニ付テハ「被告ハ封印ヲ破毀シタルコトナシト云フモ云々是等ヲ綜合シテ觀察スレハ右ニ表示セル封印ヲ悉ク破毀シタルモノト認定セサルヲ得ス」ト論定シ本件ノ封印破毀ハ被告ノ行爲ニ歸スヘキモノタルコトハ認定シタルモ其破毀ニ付テノ意思如何ヲ認定セサルハ事實ヲ確定セサルモノニシテ審理不盡ナリ而シテ此不確定ノ事實ニ第七十四條ヲ適用シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告ハ執達吏ノ施シタル封印ヲ擅ニ破毀シタル事實ナレハ其懈意ニ出テタルニ非スシテ故意ニ出タルコト固ヨリ疑ヲ容ルヘカラス故ニ原院カ右ノ所爲ニ對シテ刑法第七十四條ヲ適用シタルハ相當ナリ

第二點ハ民事訴訟法第五百六十六條ニ依レハ有體動産ニ關スル差押ハ「債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス其物ハ債權者ノ承諾アルモ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印



其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限り其效力ヲ生ス。トアリテ債務者ニ保管ヲ任  
ス。トモ得ルモ債務者以外ノ者ニ保管セシムルハ法律違背ナリ本件被告人ハ差押ニ付テノ  
債務者ニアラサレハ執達吏カ法律ニ違背シテ保管者ト爲スモ效力ヲ生スルモノニアラス。隨  
テ此無効ナル保管者被告ヲ以テ看守者ト爲ス可ラス。然ルニ刑法第四百七十七條(第四百七十四  
條ノ誤リナラン)第二項ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ本件  
ハ執達吏ニ於テ被告ノ占有ニ係ル物件ヲ差押ヘ被告ニ其保管ヲ命シタル事實ナリ而シテ物  
ノ占有者タル第三者ヲシテ保管セシムルコトヲ得ヘキハ民事訴訟法第五百六十七條ニ依リ  
明カナレハ本論旨ハ相立タス

第三點ハ原判決カ證據トシテ採用シタル執達吏ノ證言及甲號ト題シタル差押調書ヲ閱スル  
ニ封印又ハ標目ト記載シアリテ其封印ナルモノハ事實封印ニアラス其第七四號ニ明記アル  
如ク「鹿毛杜馬拾歳一頭襟髮ニ封印一个所」ト有之依テ執達吏ノ所謂封印ナルモノハ如此差  
押ノ徵憑ヲ施シタルニ止マリ封印ト云フヘキモノニアラス何トナレハ封印ナルモノハ開閉  
スヘキ部分ヲ封鎖スル行爲ヲ指ヌモノニシテ徵憑ト異ナレリ然ルニ本件執達吏ノ施シタ  
ト云フ封印ハ如右總テ差押ノ徵憑タルニ止マリ毫モ封印ノ實アルコトナシ然ルニ原院ハ之  
ヲ審究セシメテ封印破毀罪ニ問擬シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○封印ノ方法ハ  
必スシモ物ノ開閉スヘキ部分ヲ封鎖スルニ限ルモノニアラス而シテ本件ニ付執達吏ノ施シ  
タル方法ノ如キモ亦一ノ封印ナルヲ以テ原判決ハ不法トセス

公文書變造行使事件

明治三十三年四月九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

判決要旨

刑事カ被告ニ對シ其ノ利益トナルヘキ證據ヲ差出スヘキ  
コトヲ注意スル規定ハ被告ノ護辯權ヲ全カラシムルノ趣  
旨ニ出テタルニ外ナラス從テ其ノ注意ヲ爲ス以前被告人  
自ラ自己ニ利益ナル證據ヲ提出シタル以上ハ更ラニ之レ  
ヲ通知スルノ必要ナシ

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 裁判長ハ各證據ノ取調際リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤ問ヒ且利益トナルヘキ證據ヲ差出スヲ得ヘキ

コトヲ告知スヘシ(刑事訴訟法第百九十八條第一項)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 阿部五左衛門 辯護人 高木益太郎

證據提出ノ告知



右公文書製造行使被告事件ニ付明治三十三年三月六日宮城控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮二年監視六月ニ處シ押收文書中贗造ニ係ル部分ハ之ヲ沒收シ其餘ハ各差出人ニ還附ス公訴費用ハ被告ハ相被告ト連帶負擔トスル旨ヲ宣渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人高木益太郎ノ辯明書第二點ハ原院ニ於テ第一審判決ヲ不當ト認メ之ヲ取消ス理由ノ說明中「原審ハ公判始末書ニ依ルニ證據調ヲ爲シタル後被告共ニ對シ利益ノ證據ヲ提出シ得ル旨ノ告知ヲ爲サ、ル等失當ニシテ」云々トアレトモ第一審公判始末書ニ依レハ現ニ被告辯護士ヨリ進メテ反證ヲ提出シタル事蹟アリテ特ニ裁判所ヨリ其提出ノ告知ヲナスノ必要ナキノミナラス被告ハ最終ノ陳述トシテ何等ノ申立ナキ旨ヲ斷言シタルニ依ルモ第一審裁判所ノ審理手續上瑕疵ナキモノト云フヘク控訴ノ理由アリト認ムヘキモノニアラス故ニ原院カ右ノ說明ニ基キ第一審判決ヲ取消シタル乃チ法則ヲ不當ニ適用シタルナリト云フニ在リ

依テ第一審公判始末書ヲ查スルニ第一審裁判所ハ原判決ニ示ス如ク被告ニ對シ利益ノ證據ヲ提出シ得ル旨ノ告知ヲ爲サスト雖モ證據調終シタル後辯護人ヨリ被告利益ノ證據トシテ書類ヲ提出シ及ヒ數多ノ書類取寄ヲ申請シタルコトノ記載アリ而シテ刑事訴訟法第九十八條ハ被告ノ利益トナルハキ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知シ被告ノ辯護權ヲ全カラシムルノ法意ニ外ナラサレハ本件ノ如ク既ニ利益ノ證據ヲ提出シ及ヒ其申請ヲ爲シタル以上

ハ辯護權ヲ十分ニ行使スルコトヲ得タルモノナレハ更ニ告知スルノ要ナシ左スレハ第一審裁判所ノ審理ハ失當ノ點ナキニ原判決ニ於テ之ヲ以テ第一審判決ノ失當ナル點ノ一トシテ控訴ノ理由アリト判決シタルハ其當ヲ得サルモノニシテ上告ハ其理由アリトス既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ論旨ニ對シ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ事件ヲ東京控訴院ニ移ス

明治三十三年四月二十三日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●私印盜用公訴附帶私訴事件 明治三十三年四月二十九號 (棄却)

判決要旨

父カ其ノ子ノ行爲ニ對シ民事擔當人トシテ責ニ任スルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ盡サ、ル過失アル場合ニ限ルモノトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 戸谷佐五右衛門 訴訟代理人 小木曾庄吉

證據提出ノ告知



被上告人 伊藤景太

右當事者間ノ伊藤平重郎カ私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ公訴ニ附帶スル私訴事件ニ付明治三十三年二月七日東京控訴院ニ於テ控訴ヲ棄却ス第二審ノ訴訟費用ハ控訴人之ヲ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ民事原告人戸谷佐五右衛門ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告代理人辯護士小木曾庄吉ノ上告趣意ハ民事原告人カ伊藤平重郎ノ爲メ金員ヲ騙取セラレタルハ畢竟民事被告人ノ落度ニ原因スルコト明瞭ナル事實關係ナルニ其事實ヲ認メナカラ控訴ヲ棄却シタル原裁判ハ不法ナリト云ヒ「同追加理由書第一點ハ原審ニ於テハ民事被告人規則ヲ適用セサルノ違法アリ抑モ民事擔當人規則ハ身分ト年齢トニヨリテ責任者ヲ定メタルモノニシテ監督ノ如何ト辨識力ノ有無ヲ區別シテ規定シタルモノニアラス概シテ未丁年者ニ對シテハ其辨識力ノ有無ニ拘ハラズ監督ヲナス可キ父ニ民事擔當ノ責任アルモノト法定シタルモノナリ蓋シ家族制ヲ採ル我國ニ於テハ當然ノ法理ナルヘシ果シテ然ラハ假令平重郎カ其年齡十九年八個月ニモセヨ荷モ犯罪行為ノ爲メ上告人ニ損害ヲ蒙ラセタル以上ハ其監督ノ任アル被上告人ニ於テ賠償ス可キハ當然ナリトス然ルニ原判決ハ被控訴人カ監督ヲ怠リタル結果ニアラストシ賠償ノ責ナシトシタルハ民事擔當人規則ヲ適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○凡ソ民事擔當人トシテ他人ノ行為ニ付賠償ノ責ニ任スルハ

五十

民事擔當人ノ責任

其擔當人タル本人ニ責ムヘキ過失アルニ因ルモノナリ而シテ父カ民事擔當人トシテ其子ノ行為ニ付責ニ任スルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ盡ササルノ過失ニ基因スルモノナレハ其監督ヲ怠リタルト否トニ依リ賠償ノ責任有無ヲ斷セサルヘカラス故ニ原判決カ被上告人ノ長男平重郎ニ對シ損害ヲ被ラセタルハ被上告人カ父トシテ盡スヘキ監督ノ義務ヲ怠リタル結果ニアラス事實ヲ認メ因テ賠償ノ責ナシト判決セシハ相當ニシテ上告ハ其理由ナキモノトス「第二點ハ原審ノ判決ハ理由不備アリ乃チ判決前段ニ「又控訴人ノ援用シタル同記録中明治三十一年八月六日附被控訴人景太ノ豫審調書ニ記サレタル同人ノ陳述ニ依レハ同人カ平重郎ニ自己ノ實印ヲ託シテ種々ノ事件ヲ處辨セシメシコトハ之ヲ認ムルヲ得ルモ云々」トアリテ俗ニ「ツリカヘ」トモ云フ大切ナル實印ヲ嚴守セシメテ平重郎ニ託シタルコトノ過失ヲ認メナカラ忽チ後段ニ至リ「平重郎カ之ヲ盗用シテ控訴人ヨリ金員ヲ騙取シタルカ如キハ尤モ非常ノ事態ニ屬シ被控訴人ノ豫想シ得サル所ナレハ之ヲ以テ民事擔當人タル被控訴人カ其監督ヲ怠リタルノ結果ナリト云フヲ得サルモノトス」ト判決セシハ理由ノ粗語ナリ夫レ平重郎カ被上告人ノ實印ヲ盗用シタルハ其實印ヲ託シテ種々ノ事件ヲ處辨セシメタルノ結果ナレハ寧ロ被上告人カ促シテ盗用セシメタルモノト云フモ可ナリ縱令然ラストスルモ盗用ヲ容易ナラシメタル過失アルハ明カナリ又被上告人ハ民事擔當ノ責任者ナルコトハ原判文ニ於テ認ムル所ナリ然ルニ「民事擔當人タル被控訴人カ其監督ヲ怠リタルノ結果ナリト謂フヲ得サルモノトス」ト判決セシハ判決ニ理由ヲ付セサル違法ヲ免

五十一



レスト云フニ在レトモ○原判決ノ趣旨ハ被上告人カ平重郎ニ實印ヲ託シ種々ノ事件ヲ處辨セシメタルコトアルモ平重郎カ其實印ヲ盜用シタル所爲ハ被上告人ニ於テ豫想シ能ハサル事柄ナレハ監督ヲ怠リタル結果ニアラストスルニ在ルコト明白ナレハ毫モ阻礙ノ點ナク上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
上告ニ關スル訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十三年四月三十日大審院第一第二刑事聯合部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●謀殺及ヒ窃盜事件 明治三十三年第四一〇號 明治三十三年五月廿四日判決 (棄却)

判決要旨

一、二人ヲ殺害スルコトヲ豫謀シ果シテ二人ヲ殺害シタル所爲ハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノトス  
二、窃盜罪ヲ構成スルニハ必スシモ他人ノ占有内ニ在ル物件ヲ侵奪スルヲ必要トセス他人ニ屬スル物件ナルコトヲ知リテ之レヲ自己ノ占有ニ歸セシムルヲ以テ足レリトス

說明

一本項ハ說明ヲ要セス

二、窃盜罪ハ他人ノ占有中ニ在ル物件ヲ握取シ之レヲ自己ノ占有内ニ遷移スルノ所爲アルニアラサレハ成立セストスルノ學說ハ從來多數ノ學者間ニ唱道セラル、所タリト雖モ近時刑法學理ノ進歩ハ茲ニ一變シ窃盜罪ノ構成ハ必スシモ實形的ニ他人ノ占有ヲ侵奪スルノ所爲アルコトヲ要セス己ニ他人ノ物件ヲ横領スルノ所爲アルハ其ノ物件カ他人ノ占有内ニアルト占有外ニアルトヲ問ハス之レヲ以テ一種ノ窃盜罪トナスト云フニ至レリ我カ現行刑法ノ規定ハ未タ横領罪トシテ罪名ヲ認メスト雖モ明文ニ抵觸セサル限リハ窃盜ノ解釋ヲシテ此ノ學說ノ進歩ニ伴隨セシムルハ蓋シ解釋學ノ特尙タラスンハアラサルナリ是レ本判決ノ生スル所以ナリ

第一審 東京地方裁判所八王子支部 第二審 東京控訴院  
被告人 池谷龍藏 辯護人 磯部四郎 高木益太郎

右謀殺及竊盜被告事件ニ付明治三十三年三月二十三日東京控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ死刑ニ處シ押收品ハ各差出人ニ還付シ公訴費用ヲ被告ニ負擔セシムル旨旨言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ス

數罪俱發及ヒ窃盜罪ノ構成要素



ル左ノ如シ

被告ノ上告趣意ノ要旨ハ本件事實ノ真相ヲ知ルニ最モ必要ナル大野宮八小野源左衛門ヲ證入トシテ喚問ヲ請求シタルニ之ヲ採用セス他ノ薄弱ナル證據ニ依リ罪ヲ斷セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據ヲ取捨シ證據調ノ請求ヲ許否スルカ如キハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

辯護士磯部四郎ノ上告趣意書ハ原判決ヲ開スルニ被告カ神山サヨ及ヒ神山イネヲ殺害セル行爲ヲ二行爲ナリトシテ數罪俱發例ヲ適用シタルハ是レ違法タラサルニアラサルナキヤ蓋シ假令神山サヨ及神山イネノ兩人ヲ殺害シタリトスルモ原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告人ハ殺害ノ萌芽ヲ發セシ當初ヨリ既業ニ此兩人ヲ殺害スルノ意思タリシヤ明カナリ故ニ假令ヒサヨ一人ヲ殺害スルモ將タイネノ兩人ヲ殺害スルモ其犯罪意思タルヤ一ニシテニアラス荷クモ刑法上ニ以上ノ犯罪アリトスルニハ又ニ以上ノ犯罪意思アラサルヘカラス然ラハ即チ本件被告ノ意思ハ一ナリトセハ其犯罪タルヤ一ナリ之ニ對シ單ニ二人ヲ殺害シタルヲ以テ即チ刑法上ノ二所爲アリトシ數罪俱發例ヲ適用處斷シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル所ニ依レハ被告ハ神山サヨ及神山イネヲ殺害セシコトヲ謀リ先ツサヨヲ殺害シ續テイネヲ殺シタル事實ナレハ即チ被告ニ二個ノ犯罪決意ト二個ノ犯罪行爲アルコトヲ認メタルモノナリ故ニ原院カ被告ニ對シ數罪俱發例ヲ適用シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其理由ナシ

辯護人磯部四郎高本益太郎ノ辯明書第一ハ原判決理由ノ末段ニ第一審判決ノ失當ナル點ヲ舉ク「第一審判決ヲ開スルニ——非現行犯タル本件ニ付檢事ノ命令ニ因リ作リタル鑑定人林雅次郎ノ鑑定書ヲ其證據ニ供シタル等ノ不當アレハ云々」ト說示シアレトモ元來本件ハ明治三十一年三月三十一日東京地方裁判所八王子支部檢事馬渡多藏氏カ田無警察分署ノ急報ニ接シテ重罪現行犯アリト認メ即チ刑事訴訟法第四百四條ニ則リ同裁判所豫審判事ニ現行犯アルヲ以テ直チニ檢證スル旨ノ通知ヲナシタル上犯所ニ臨檢シ檢證調書ヲ作成シタルモノナル事ハ其通知書並ニ檢證調書ニ依リ明確ナリ是故ニ本件ハ其起頭ニ於テ既ニ現行犯トシテ假豫審處分ニ着手シタルモノナレハ同檢事カ鑑定人林雅次郎ニ命シテ鑑定書ヲ作ラシメタルハ決シテ越權ノ措置ニアラストス從テ第一審判決カ右鑑定書ヲ證據ニ採用シタルハ是又違法ニアラスナルナリ然ルニ原院ニ於テ前記ノ理由ニ基キ漫然第一審判決ヲ取消シタルハ即チ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○訴訟記録ニ依レハ本件犯罪ノ日ハ明治三十一年三月二十五日ニシテ檢事カ臨檢ヲ爲シタルハ同月三十一日ナレハ固ヨリ現行犯ト云フヘカラス故ニ檢事カ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シ鑑定人ニ命シ鑑定書ヲ作ラシメタルハ失當ニシテ其鑑定書亦瑕瑾アルヲ免カレサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ取消シタルハ相當ニシテ本論旨ハ謂レナシ

同第二點ハ原院ハ其判決理由ノ前段ニハ上告人カ人馬ノ往來ナキ山中ニ於テ神山「サヨ」同「イネ」ノ兩人ヲ殺害シタル事實ヲ認メナカラス其末段ニ至リ同人等ヲ殺害シタル後更ニ「サ



ヨ「カ所持シ居タル金五圓、イネ」カ所持シ居タル金二十二圓ヲ共ニ竊取シタリトナシ上  
 告人ニ竊盜ノ所爲アルモノト断定シタルハ不法ノ裁判ナリ何トナレハ死者ハ固ヨリ權利ノ  
 主體ニアラサレハ財物ヲ占有者クハ所有スヘキ譯合ナキヲ以テ「サロ」他一名カ死去ノ瞬間  
 ニ右ノ物件ハ其占有者ト與ヒタルニヨリ上告人カ「サロ」并ニ「イネ」ハ占有内ヨリ之ヲ竊取  
 セリトスルモ能ハサルニアラスヤ抑モ竊盜罪ハ他人ノ占有物件ヲ奪取スルノ所爲ニシテ必  
 ス其一面ニハ被害者アルヨトテ想像セサルヘカラサルノミナラス條文ニモ現ニ竊取ニ揭  
 シ他人ノ監督ヲ侵シ初メテ行ハル、所爲ナルヨトテ示スカ故ニ竊盜ノ目的物ハ他人ノ占有  
 内ニ存スル物タルヨトテ要スルハ勿論ナリ果シテ然ラハ原判決ハ前段ニ於テ占有者ナキニ  
 トテ認メナカラ後段ニ於テ尙竊取ノ罪アルモノト認メタルハ前後理由ノ齟齬スル違法アル  
 ヲ免レスト云フニ在レトモ○竊盜罪ヲ構成スルニハ必スシモ他人ノ占有スル物件ヲ奪取ス  
 ルヲ要セス他人ニ屬スル物件ナルヨトテ知テ竊ニ之ヲ己レノ占有ニ歸セシムルヲ以テ足レ  
 リトス而シテ本件ノ被害者サヨイネカ所持シタル金銀ハ固ヨリ他人ニ屬スル物ニシテ無主  
 物ニ非サルヤ辯テ俟タサル所ナレハ被告力之ヲ奪取シタルハ即チ竊盜ノ所爲ニシテ其占有  
 者ノ有無ハ問フヘキ所ニアラス故ニ本論旨亦理由ナシ

同第三點ハ豫審判事カ被告人ヲ訊問スルニハ豫審廷ニ於テ之ヲ取調フルヲ以テ原則トナシ  
 臨檢搜索等特ニ法律ノ認容シタル場合ニアラサレハ裁判所以外ニ於テ被告人ヲ取調フルコ  
 トヲ許サス左レハ本件ニ付豫審判事カ被告ヲ北多摩郡田無警察署ニ於テ第一回ノ訊問ヲナ

シタルハ違法ノ舉措ニシテ即チ其第一回豫審調書ハ有效ノモノニアラス故ニ之ヲ罪證ニ供  
 シタル原裁判ハ探證ノ法則ニ違反セリト云フニ在レトモ○豫審判事ハ裁判所外ニ於テ訊問  
 ヲ爲ヌヲ得ストノ禁令アルコトナケレハ裁判所外ニ於テ爲シタル訊問調書ヲ證據トシタル  
 ハ不法ニアラス

同第四點ハ神山權次郎ヨリ所轄警察署警部宛ノ始末書ナルモノハ豫審判事ノ集取シタル證  
 據憑憑ニアラサルヲ以テ刑事訴訟法第九十條第九十一條ニ依リ裁判上ノ證據ニ供スヘキモ  
 ノニアラス故ニ原裁判力之ヲ證據ニ援用シタルハ探證法ニ違反セリト云フニ在レトモ○刑  
 事訴訟法第九十條第九十一條ハ證據ヲ制限シタル規定ニアラサルヲ以テ尙モ不法ノ證據ニ  
 非ル以上ハ探テ以テ證據ト爲ヌヲ妨クス而シテ本件神山權次郎ノ始末書ハ不法ノモノニア  
 ラサルヲ以テ原院力之ヲ證據トナシタルモ不法ト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年五月二十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

●私印私書偽造行使委託物費消事件 明治三十三年五月四日判決 (棄却)

判決要旨

寺院ノ教務本所ノ印章竝ニ其ノ文書ヲ偽造行使シタル所  
 爲ハ其ノ教務本所ノ事務ニ付キ權義ヲ有スルモノ、私印



私書ヲ偽造行使シタルモノトス

二百七十四

説明

現行法上寺院ノ法人格ヲ有セサルハ民法施行法第二十八條及ヒ民法第三十三條ノ規定ニ依テ明カナリ而シテ刑法中私印私書偽造行使罪ハ人格アル他人ノ私印私書タルコトヲ要スルカ故ニ人格權ヲキ寺院ノ私印并ニ交書ハ之レヲ偽造行使スルモ刑法上偽造行使罪トシテ罰スルヲ得サルニ似タリ然レトモ元來寺院ニ於ケル教務本所ト云フハ寺院ノ事務ノ代名詞トシテ教務本所ノ印又ハ文書ハ教務事務ヲ行フノ權利義務アル者ノ印又ハ文書タルニ外ナラス故ニ之レヲ偽造行使スルノ所爲ハ則チ刑法上ノ私印私書偽造行使罪ニシテ同法第二百八條第二十條ノ制裁ヲ免カレサルコト勿論ナリトス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 古溪玄仲

右私印私書偽造行使委託物毀滅被告事件ニ付明治三十三年三月二十六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依リテ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要ハ第一刑事訴訟法第二百三條第一項ニ刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルベキ事實

五十八

五十九

及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示云々トアリ今原院判決書ニ依ルニ被告ニ對スル豫審調書(第三回調書ヲ除ク)ニ前掲事實中ニ記スル畫幅ヲ騙取スルノ意思アリタルコト及ヒ租寬ヲシテ畫幅ハ妙心寺ニ納付シタルモノ、如ク信セシムル爲メ賞狀印章等ヲ偽造行使シタルコトヲ除ク其他ノ事實ニ符合スヘキ趣旨ノ供述ノ記載アリト揭ケ如何ナル供述ヲ爲シタルヤノ記載ナキハ即チ同條ニ背キ證據ノ理由ヲ明示セシ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○前掲事實中畫幅ノ騙取云々ヲ除ク外其他ノ事實ニ符合スヘキ趣旨ノ供述トアレハ逐一其供述ノ文詞ヲ指示セザレハトテ證據ノ理由ヲ明示セサルモノト云フヲ得ス』同第二判決書中證人村田誠次郎ニ對スル同調書ニ古溪玄仲ヲ妙心寺ノ住持職云々トアルモノ一件記録中右誠次郎カ證人トナリ取調ヲ受タル調書ナクハ無實ノ證據ヲ揭示シタルモノニシテ證據ノ理由ニ不備アルモノナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ前田誠次郎トアリテ所論ノ如キ村田誠次郎ノ調書ヲ援用シアルコトナシ』同第三寺ハ民法施行法第二十八條ニ依レハ民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院ニ適用セストアリ然レハ本件妙心寺教務本所ノ印並ニ其文書ヲ偽造行使スルモ刑法第二百八條第二十條ヲ以テ處罰スル能ハス如何トナレハ同條ニハ他人ノ私印及ヒ私書ヲ偽造セシモノヲ罰スルモノニテ人格ヲ備ヒサル寺院ヲ違シテ人ト云フヲ得ザレハナリ民法第三十三條ニヨルニ法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニアラザレハ成立スルコトヲ得ストアリテ寺院ヲ法人ト爲ス特別法ノ規定ナクハ人格ヲ備ヒサルコト明ナリ然ラハ今日迄寺院ノ印並ニ書面ヲ偽造行使セシモノヲ罰スルノ

寺院ノ文書偽造

二百七十五



慣習ナリト論スルモノアルモ刑法上明文ナクハ之ヲ罰スルヲ得サルハ勿論ナルニ刑法第  
 二百八條第二十條ヲ適用處罰セラレタルハ擬律ノ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ○  
 教務本所ノ印並ニ其文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ即チ教務本所ノ事務ニ付權義ヲ有スルモ  
 ノ、私印私書ヲ偽造行使シタルモノナレハ民法上寺院ヲ法人ト爲スノ規定アラザリシトシ  
 テ本件被告ノ所爲ヲ罪實ナキモノト云フヲ得ス故ニ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ  
 右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十三年五月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立宣當告ス

誣告附帶私訴事件

明治三十三年五月三十一日判決

(破毀)

判決要旨

- 一、誣告ノ爲メ刑事被告人トナリタル者カ辯護人ヲ選任シ  
 タル爲メ之レニ支拂ヒタル辯護料ハ誣告ニ因リ生シタ  
 ル損害ナルヲ以テ誣告者ハ之レヲ賠償スルノ責任ヲ負  
 フモノトス
- 二、誣告ニ因リ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ名譽ヲ毀損  
 セラレタル場合ニ於テハ被害者ハ名譽回復ニ要スル費

用テ請求スルコトヲ得

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 宇都宮地方裁判所

私訴上告人 上野顯雄

私訴被上告人 龜田喜重

第二審 東京控訴院

訴訟代理人 佐久間長四郎

右原告被告事件ニ附帶スル私訴ニ付明治三十三年四月二十八日東京控訴院ニ於テ被告ハ原  
 告ニ對シ金八十圓十錢ヲ賠償スヘシ原告ノ其他ノ請求ハ却下ス訴訟費用ハ總額ヲ三分シ其  
 二ヲ被告ノ負擔トシ其一ヲ原告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ上野顯雄ヨリ上告  
 ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
 上告趣意書ハ原院ニ於テ原告ノ全部ノ請求ハ棄却シ其一部ナル金八十圓拾錢ヲ賠償スヘシ  
 ト判決シタレトモ辯護料損害新聞紙記載ノ損害並ニ手金流損害及其他ノ損害ハ皆被告人ノ  
 償却スヘキ責任アルモノナルニ原院ノ判決茲ニ出テサルハ不法ナルニ付原判決ノ一部破毀  
 ノヲソコトヲ請求スト云フニ在ルヲ以テ○其理由ノ有無ハ上告代理人佐久間長四郎上告趣  
 意擴張論旨ニ對スル說明ニ依リ了解ス可シ

上告代理人佐久間長四郎上告趣意擴張論旨第一ハ上告人ハ未決勾留日數百六十七日ニ對シ  
 一日金二圓七十五錢ノ割合ヲ以テ其損害ヲ請求シタルニ原院ハ原告ノ社會上ノ地位生活ノ

誣告被害者ノ損害賠償



程度等ヲ斟酌シ一日ノ收益ヲ金三十錢ト判定シタルトモ上告人カ家族九人暮シニシテ一日  
 金三十錢ヲ以テ生計ヲ立ツルコトノ實際出來得サルコトハ立證ヲ要セスシテ之ヲ知り得ヘ  
 ク又上告人ノ社會上ノ地位生活ノ程度等ヲ斟酌ストハ如何ナル事實ヲ採リ之ヲ標準トシテ  
 斟酌シタルヤ又一日金三十錢ト見積リタルハ如何ナル事實ヲ採テ之ヲ算定シタルヤ之レカ  
 理由ヲ付セサルハ判決ノ理由ヲ備ヘサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ニハ  
 「其金額ニ付テハ原告ノ社會上ノ地位生活ノ程度等ヲ斟酌シ一日ノ收益ヲ金卅錢ト見積リ  
 云々」トアリテ一日ノ收益ヲ金三十錢ト判定シタル理由ハ之ヲ明示シアルヲ以テ其理由ニ  
 對シ更ニ事實ヲ掲ク說明ヲ爲スノ要ナクハ後段ノ論旨ハ相立タス其他ハ原院ノ職權ニ屬  
 スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
 第二ハ慰籍料ハ人ノ苦痛ヲ受ケタル心意ヲ慰籍スル爲メノモノニシテ上告人カ勾留百六十  
 七日分ヲ一日金壹圓二十五錢トシテ請求シタルハ至當ノ請求ナリトス然ルニ原院カ金三十  
 圓ヲ以テ相當ト爲シタルハ普通ノ條理法則ニ違背シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ  
 ○右金額ニ付テモ原院ハ上告人カ社會上ノ地位生活ノ程度等ヲ斟酌シテ之ヲ判定シタルモ  
 ノナルコトハ原判文ニ徴シテ明白ナリトス而シテ本論旨ハ要スルニ該金額ニ付原院ト意見  
 ヲ異ニシテ原判決ヲ改環スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
 第三ハ上告人ハ被上告人ノ爲メ原告セラレ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ該判決ニ對シ控  
 訴ヲ爲シ第二審ニ於テ辯論ノ爲メ辯護人ヲ二名用非タレトモ其辯護料ハ一人分ニ制限シ即

辯護人磯部四郎ニ支拂フタル金八十二圓五十錢ヲ請求シタリ而シテ該費用ハ被上告人ヨ  
 リ原告セラレタル爲メ生シタルモノニシテ刑事訴訟上必要欠クヘカラサル所ノ損害ナリト  
 ス然ルニ原院カ辯護人選定ノ事ハ原告ノ隨意ニ出テタルモノニシテ原告ノ爲メ必然生シタ  
 ル費用ニアラスト爲シ其請求ヲ却下シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リテ○本論旨ハ其  
 理由アルモノトス何トナレハ原告ノ爲メ刑事被告人トナリタル者カ辯護人ニ支拂ヒタル辯  
 護料ノ如キハ原告罪ニ因リ生シタル損害ニ外ナラサルヲ以テ被上告人カ賠償ノ義務アルハ  
 當然ナルニ原院カ辯護人選定ノコトハ原告ノ隨意ニ出テタルモノニシテ原告ノ爲メ必然生  
 シタルモノニアラストシテ上告人ノ請求ヲ却下シタルハ不法タルヲ免レサルヲ以テナリ  
 第四ハ明治三十年十一月十日上告人ハ木藤若吉ト鐵石賣買ノ約束ヲ爲シ代金壹千圓ノ内貳  
 百圓ヲ手附トシテ相渡シ八百圓ハ明治三十一年二月十日支拂フヘク若シ違約スルハ手附  
 流ト爲スヘキ約束ヲ爲シタル處上告人ハ被上告人ニ原告セラレタル爲メ明治三十一年二月  
 九日栃木縣監獄署ニ收監セラレ其翌年十日該取引ヲ履行スル能ハサル場合ニ立チ至リ金貳  
 百圓ハ手附流ト相成リタリ故ニ其損害ハ原告ニ因リ生シタルモノナレハ被上告人ニ賠償ノ  
 責任アルハ勿論ナリ然ルニ原院カ上告人ノ請求ヲ却下シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在  
 レトモ○右取引不履行ニ因ル手附流ノ如キハ原告罪ニ因リ生シタル損害ナリト云フテ得サ  
 ルヲ以テ原院カ此點ニ關スル請求ヲ却下シタルハ不法ニアラス  
 第五ハ上告人ハ原告ノ爲メ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ名譽ヲ毀損セラレタリ故ニ之ヲ

原告被害者ノ損害賠償



回復スルハ當然ノ條理ナルヲ以テ新聞紙上露罪文ノ廣告ヲ求メ之ニ應セサルモ其廣告代  
 支拂フヘシトノ判決ヲ求メタルニ原院ハ原告ハ元來直接ニ人名譽ニ對スル非行ニアラ  
 サルヲ以テ云々トノ理由ヲ以テ之ヲ却下シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○本論旨  
 ハ其理由アルモノトス何トナレハ上告人カ刑事ノ被告人トナリ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ  
 受ルニ至リタルハ被上告人ノ原告ニ起因シタルモノナル上ハ上告人カ名譽ヲ毀損セラレタ  
 ルハ全ク被上告人ノ原告ニ因ルモノト云ハサルハカラサルニ原院カ原告ハ元來直接ニ人名  
 譽ニ對スル非行ニアラサルヲ以テ云々ト既示シテ上告人ノ請求ヲ却下シタルハ不法ナル  
 ヲ以テナリ既ニ此點並ニ第三點ニ依リ原判決ノ一部ヲ破毀スル上ハ單ニ割合ヲ以テ分擔ヲ  
 命シタル訴訟費用ニ付テハ本院ニ於テ之ヲ分割スルニ由ナキヲ以テ訴訟費用ニ關スル裁判  
 ハ全部之ヲ破毀セサルヲ得サル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ收監慰籍並ニ手附流ノ損害ニ關スル  
 本件上告ハ之ヲ棄却シ同法第二百八十六條第二百九十條後段ノ規定ニ從ヒ辯護料名譽回復  
 並ニ訴訟費用ニ關スル原判決ノ一部ヲ破毀シ事件ヲ宮城控訴院民事部ニ移ス

明治三十三年五月三十一日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●官文書變造行使事件 明治三十三年六月一〇號 (棄却)  
 明治三十三年五月廿一日判決

判決要旨

金庫ハ大藏大臣ノ管理ニ屬スル官署ナリ

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 札幌地方裁判所 第二審 函館控訴院  
 被告人 増澤榮作

右官文書變造行使被告事件ニ付明治三十三年四月十八日函館控訴院ニ於テ被告辯護士陸奥  
 原徹カ爲シタル公訴不受理ノ申立ヲ棄却シ原判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮三年ニ處シ八月ノ  
 監視ニ付ヌ押收物件ハ差出入ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因  
 テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ第一本件豫審請求書ト證據目錄トノ間契印ヲ欠キアルニ原院カ辯護士  
 陸奥原徹ノ公訴不受理ノ申立ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件豫審請求書  
 ト證據目錄トノ間契印アルコトナキハ論旨ノ如クナリト雖モ之カ爲メ該請求書ノ無効タル  
 ヘキ理由アルコトナクハ其公訴ハ完全ニ提起セラレタルモノナルヲ以テ原院カ公訴不受  
 理ノ申立ヲ棄却シタルハ相當ナリ

第二、第一審判決原本ノ末葉ト其他ノ殘葉トノ間ニ契印ヲ欠ケルハ刑事訴訟法第二十條ノ  
 規定ニ違背シ又宗谷雅内警察署長ノ告發ハ明治三十二年九月九日附ナルニ公訴不受理ノ申  
 立ニ對スル判決原本ニハ札幌檢事局檢事本郷榮ノ豫審請求書ハ明治三十二年九月五日附ヲ

金庫ノ法律上ノ地位



以テ起訴ノ手續ヲ爲シタル旨記載シテテ確實ナル起訴ト認ムルニ由ナキ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ハ原院ニ於テ既ニ之ヲ取消シタルモノナルヲ以テ假令該判決ハ他ニ尙ホ論旨ノ如キ瑕疵アリトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ズ而シテ又判決原本ヲ檢スルニ檢事本郷榮ノ豫審請求書ノ日附ハ九月十五日ト記載シテ論旨ノ如ク九月五日ト記載シアラサレハ後段論旨ハ判決勝本ニ十ノ字ヲ誤脱セル乎若シクハ被告ノ誤解ニ基クモノナルヲ以テ固ヨリ上告ノ理由トナラス

第三官文書トハ凡ソ官衙ヨリ人民ニ達スル命令書又ハ官吏ノ資格ヲ以テ人民ニ發布スル文書ニシテ是ニ官印ヲ捺捺シ及ヒ官ノ用紙ヲ用ユルヲ必要トス本案被告事件ノ供託證書ハ日本銀行ノ印ヲ捺シタルモノニシテ日本銀行ハ一ノ營業者ナレハ之ヲ以テ官文書ナリト云フコトヲ得ズ然ルニ刑法第二百三條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アル判決ナリト云フニ在レトモ○金庫ハ大藏大臣ノ管理ニ係ル官署ノ一ナルコトハ金庫規則ニ依リ自ラ明瞭ニシテ而シテ原院カ認ムル所ハ有體動産假差押命令申請ノ供託金ニ對スル札帳本金庫宗谷派出所ノ受領證ヲ變造シテ行使シタルモノトナスニ在リテ其證書ハ該金庫ノ名義ヲ以テ發シタルコトモ亦自ラ明カナリ然ラハ假令現ニ之ヲ取扱ヒタル者ハ日本銀行員ナルモ其證書ニシテ金庫ノ名義ヲ以テ發シタルモノナル上ハ官ノ文書ナルコト勿論ナリ上告人ハ該證書ニハ日本銀行ノ印ヲ捺捺シ云々ト陳辯スルモ原院ノ認メサル事實ナレハ之ヲ以テ上告論旨ノ適當ナルコトヲ確ムヘキ理由ト爲スヲ得ズ

第四ハ本件ノ證據ニ採用シタル司法警察官ノ告發書ハ法律上無効ノモノナリ何トナレハ司法警察官ハ刑事訴訟法第四百四條第四百四十七條第四百四十六條第五百九條第五十二條ニ依ルノ外其職務ヲ行フヲ得ズ又告發ヲ爲ス理由ヲ明示セザレハナリ然ルニ之ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件告發書ハ前掲第五十二條ニ依リタルモノナリ又告發ノ理由ハ詳カニ記載アルヲ以テ後段論旨モ共ニ附レナキモノトス

同辯明書ノ要旨第一第二ハ井口榮次郎等ノ陳述ハ不實ニシテ證據トナラス又告發書ハ司法警察官ニ於テ右榮次郎等ト共謀シテ作爲シタルモノナルニ原院カ右等ノ證據ニ依リテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○該告發書カ不法ニ作成セラレタリトコトハ見ルヘキモノアルコトナクハ畢竟本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル探證ノ當否ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第三ハ趣意書第二點ヲ敷衍シタルモノナルヲ以テ重テ説明ヲ要セス『第四ハ原院ニ於テ檢事ノ附帶控訴ニ依リ第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルニモ拘ラス被告ノ控訴モ理由アルモノト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○控訴ハ第一審判決ノ更正ヲ求ムルモノナレハ原院ニ於テ第一審判決ノ不法ヲ認メ之ヲ更正シタル上ハ其之ヲ更正シタル理由ノ如何ニ拘ラス本控訴附帶控訴共總テ理由アルニ歸スルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年五月三十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス



● 毆打創傷事件

明治三十三年五月十七日判決

(棄却)

判決要旨

管轄違ニ因リ公判ノ手續無効ニ屬スト雖モ爲メニ其ノ公判ニ於テ供述シタル證人ノ證言ハ無効ニ屬スヘキモノニアラス

說明 裁判所カ證人ヲ訊問スル上ニ於テハ夫レノ被告人ニ對シ犯罪事件ヲ訊問スルカ如ク嚴正ナル管轄權ノ作用ニ依ルモノニアラサルナリ若シ夫レ證人訊問カ管轄權ノ作用ニ依ルモノトモハ甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ證人訊問ノエトシテ囑托シテ證言ヲ徵スルハ全ク違法ノ處置ト云ハサルヲ得ス何トナレハ裁判所ハ他ノ裁判所ニ向テ管轄權ヲ附與スル權能ヲ有セザレハナリ夫レ然リ然ラハ則チ本件ノ如ク公判ノ手續ハ管轄違ノ爲メ無効ニ屬スルモ己ニ爲シタル訊問ノ効力ハ有効ニ留保スヘキコト勿論ナリトス

第一審 水戸地方裁判所下支部

第二審 東京控訴院

被告人 稻葉助三郎

辯護人 宮古啓三郎

右毆打創傷被告事件ニ付明治三十三年三月二十七日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告

ヲ重禁錮二月十五日ニ處シ公訴費用ヲ負擔セシムル旨旨言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルト左ノ如シ  
上告趣意書ノ主旨ハ原院ニ於テ被告明治三十二年九月十四日午後十時頃茨城縣眞壁郡勝波ノ江村大字秋田地内新橋ニ於テ同村松崎五郎ヲ下駄ヲ以テ毆打シ創傷ヲ負ハシメタリト認定セラレタルモ被告カ其當時其場所ニ在ラザリシトハ中山又市中山房吉等ノ供述ニ依リ明瞭ニシテ被告者五郎ノ證言ハ前後矛盾シテ毫モ信憑力ナクレハ當然無罪ノ判決ヲ爲スヘキ等ナルニ前掲ノ如ク認メ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ批難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ  
辯護人宮古啓三郎ノ擴張辯明書第一點ハ證人松崎五郎村上伸ノ證言日向元逸ノ診斷書ニ依レハ松崎五郎ノ創傷ハ二十日以下ノ疾病休業ナルコト明ニシテ二十日以上ヲ要シタリシハ全ク創傷ノ疾病休業ノ爲メニ非スシテ松崎五郎カ其治療ヲ怠リタルカ爲メニ生シタル餘病ニ過サルコト明ナリ故ニ兩證人ノ申立ニ松崎五郎ハ日向元逸ニ二十五日間治療ヲ受ケ其後ハ治療ヲ罷メ而シテ其後八九日ヲ經テ更ニ村上伸カ一日診察シ腦充血ナリト見テ四日間ノ投藥ヲ爲シタルコトノ記載アルナリ故ニ被告入辯護人ハ原院ニ於テ其事ヲ主張シ二十日以上ナリト云フハ治療ヲ怠リタルカ爲メノ餘病ニシテ是創傷ノ爲メノ疾病休業中ニ算入スヘキモノニ非サルコトヲ辯論シタルコトハ公判始末書ニ明ナル所ナルニ原院ハ之ニ對シ何等ノ說明モ與ヘス恰モ創傷ニ對スル直接ノ疾病休業二十日以上ナリシカ如ク判決セラレタルハ管轄違ノ公判庭ニ於ケル證人訊問ノ効力



判決ニ理由ヲ明示セサル違法アリト云フニ在レトモ○疾病休業二十日以上ナル事實ヲ認定シ其認定シタル理由ヲ證據ニ依リ説明シタル以上ハ判決ノ事實理由ニ欠クル所ナキヲ以テ辯護人ノ主張ニ對シ説明ヲ與ヘサルモ違法ナリトセズ

第二點ハ被害者タル松崎五郎ハ明ニ被告人ニハ單ニ肋ヲ蹴ラレタルモノナル旨證言シ醫師日向元逸ノ診斷書ニモ左肋骨ノ創傷ノ記載アリ而シテ村上伸ノ證言ニ依レハ腦充血ハ頭部ノ創傷ノ爲メニシテ肋部ノ創傷ノ爲メニ非ス同人カ診察シタル際ニハ肋部ハ既ニ全治ノ後ニシテ何等ノ異狀ナカリシトノコトナリサレハ共毆者カ現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲スノ輕重ハ明ニ知レ二十日以上トナリシ腦充血ハ被告人ノ創傷ノ爲メニ非ルコト疑アラサルナリ然ルニ原院カ四人共毆シテ傷ヲ爲シ其輕重ヲ知ル能ハサルモノト判決シタルハ被害者松崎五郎ノ前掲ノ證言ヲ遺脱シ事實ヲ不當ニ確定シタル違法アリト云フニ在リテ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ

第三點ハ原院カ被告人ノ斷罪ノ證據トシテ證人松崎五郎ノ供述ヲ引用シテ曰ク「證人松崎五郎ノ供述ヲ錄取セル部分ニ云々始メノ中打掛ツタノハ覺ヘ居ルモ後ニ打タレタノハ覺ナシ云々」ト然ルニ右證人ノ供述ノ部ヲ開スルニ「問其方ノ答ハ一々覺ヒ居ルカ多勢ニ打掛ラレテハヨト覺ヒテ居ラル、モノテナイ様ニ思ハル、カド」答「初メノ中打掛ツタコトハ一々覺ヒテ居リマヌ後ニハ覺ヒテ居リマセ」トアリテ前掲原判決記載ノ後ニ打タレタルハ覺ナシト云フト異レリ故ニ原判決ハ松崎五郎ノ證言ヲ誤認シ其誤認ヲ判斷ノ材料ニ供

シタル違法アリト云フニ在レトモ○證人ノ供述ヲ解釋スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス而シテ本論旨ハ原院ト證人ノ供述ノ解釋ヲ異ニスルモノニ外ナラサレハ上告ノ理由トナラズ  
第四點ハ原判決ニ「被告助三郎ハ第一審ノ相被告鈴木忠市中山支市中山房吉ト共ニ云々新橋ノ途上ニ於テ同村松崎五郎ト口論ノ末被告等ハ下駄等ヲ以テ五郎ヲ毆打シ云々」トアリテ下駄等トハ如何ナルモノヲ指スマ明ナラス而シテ其物件ハ犯罪ノ情狀ノ上ニ於テ相違ヲ求スヘキモノナルヲ以テ之ヲ明示セサルハカラサル筋合ナルニ原院カ單ニ「等」ト云フテ之ヲ明示セサルハ判決ノ理由ノ明示ヲ欠ク違法アリト云フニ在レトモ○原判決ニ等ノ字ヲ以テ下駄以外ノ物件ヲ省略スルモ本件ニ付テハ犯罪ノ構成ハ勿論其情狀ニ於テモ判文ニ明示スル所ニ依リ明カナレハ事實理由ニ欠クル所ナシトス

第五點ハ原院ハ被告人ノ斷罪ノ證據トシテ下妻區裁判所公判始末審中證人松崎五郎同村上伸ノ供述採用シタリ然ルニ下妻區裁判所ハ本件ニ關シ管轄裁判所ニ非ルコト、ナリ其手續ハ總テ無効ニ歸シタルモノナレハ新ニ起訴セラレタル管轄裁判所ニ於テ一切ノ手續ヲ更新セサルハカラス非管轄裁判所ノ審理ハ豫審ノ性質ヲ帶アルモノト爲スコト能ハサルハ勿論ナレハ其公判ニ於テ取調ヘタル證人ノ證言等ハ之ヲ斷罪ノ證據ニ供スルコト能ハサルモノト思料ス然ルニ原院カ之ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ左レトモ○管轄違ナルニ因リ公判手續無効ニ屬スト雖モ其無効ハ其公判ニ於テ供述シタル證人ノ證言ニ及ホスモノニアラサルヲ以テ原院カ下妻區裁判所公廷ニ於ケル證人松崎五郎外一名ノ供述ヲ採用シタルハ違



法ニアラス

第六點前段ハ證人ニ宣誓セシムルニハ刑事訴訟法第二百二十二條ニ依リ宣誓書ヲ讀聞カセタル上署名捺印セシメサルヘカラス然ルニ下妻區裁判所ハ松崎五郎村上伸ニ宣誓セシメタルモ宣誓書ヲ讀聞カセタル形跡ナシ是レ違法ナリ然ルニ原院カ其證言ヲ斷罪ノ證憑ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レモ○下妻區裁判所公判始末書ヲ查閱スルニ式ノ如ク宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載アリテ宣誓書ヲ讀聞セタルコト勿論ナレハ本論旨ハ謂ナキモノトス」後段ハ刑事訴訟法第九十條ニ依レハ公判ニ於ケル證人ニハ刑事訴訟法第一百五條以下ノ規定ヲ準用スヘキモノトスサレハ同法第三百一十一條ノ規定ニ依リ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ其供述ノ部分ヲ讀聞ク増減變更ノ申立アラハ之ヲ爲サシメサルヘカラス然ルニ下妻區裁判所ハ松崎五郎村上伸ニ對シ其供述ノ部分ヲ讀聞セタル形跡ナシ之レ違法ナリ然ルニ原院カ其證言ヲ斷罪ノ證憑ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○公廷ニ於ケル證人ノ供述ハ公判始末書ニ記載スルモノニシテ供述者ノ承認ヲ要スヘキモノニアラザレハ其供述ヲ讀ミ聞クサルモ違法ニ非ス依テ原院カ下妻區裁判所公廷ニ於ケル證人松崎五郎村上伸ノ證言ヲ採用シタルハ不法ナリトセス

第七點ハ公判始末書ノ整頓ハ判決言渡ヨリ三日内ニ爲サハルヘカラスルコトハ刑訴第二百十條ノ規定ナリ故ニ判決言渡以前ニ在リテハ公判始末書ヲ整頓スルコトヲ得ヌ又整頓セシトスルモ能ハサル業ニ屬ス然ルニ下妻區裁判所ハ明治三十二年十月二十五日ニ於テ即チ未

タ判決ヲササル以前ニ於テ公判始末書ヲ整頓シ判事申元吉書記某ハ之ニ調印セリ尙後ニ更替アリタル判事ノ審問ハ更ニ新ニ公判始末書ヲ調製セリ故ニ一箇ノ事件カ同一審ニ於テ前後二様ノ公判始末書アリテ孰シカ正當ノ者ナルヤ分明ナラス原院ノ採用シタル證人松崎五郎ノ供述ハ實ニ此前ノ始末書ニ記載セラレ同證人村上伸ノ供述ハ此ノ後ノ公判始末書ニ記載セラレタル者ナリ一事件カ同一審ニ於テ二個ノ公判始末書アルヘカラスルノミナリス整頓スヘカラサル時期ニ於テ整頓シタル始末書ハ有效トナスコトヲ得ヌ之ヲ採用シタル原院判決モ亦違法ナリト云フニ在レトモ○公判始末書ハ審理數日ニ涉ルトキノ如キハ其審理毎ニ整頓スルコトヲ得ルモノニシテ刑事訴訟法第二百十條ハ判決言渡前ニ在リテハ既ニ實行シタル審理ニ關スル公判始末書ヲ整頓スルコトヲ禁シタルモノニアラス故ニ同一審ニ二個以上ノ始末書ニシテ判決前ニ整頓シタルモノアルハ當然ナリ又證人村上伸ノ供述ヲ記載シタル公判始末書ハ前ノ審理ト日ヲ異ニスルヲ以テ別個ニ作製シタルモノニシテ記載ノ事項カ前始末書ト重複スルハ判事ニ變更アリテ審理ヲ更新シタルニ因ルモノナレハ一個ノ審理カ二様ノ公判始末書ニ記載シアルニアラス要スルニ所論公判始末書ノ作製ハ適法ニシテ之ニ記載シアル供述ヲ採用シタル原判決ハ違法ニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

●酒造税法違反事件

明治三十三年五月一日判決 (破毀)

開稅官吏ノ犯罪者訊問手續○被差押物ノ竊取

明治三十三年五月十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス



判決要旨

一、間税官吏カ税則違犯者及ヒ其ノ他ノ者ヲ訊問スルニハ  
 刑事訴訟法ノ規定ニ據ルヘキモノニアラス

二、稅務屬カ酒造稅法違反ノ證據トシテ帳簿ヲ差押ヘタル  
 場合ニ於テ被差押者カ其ノ帳簿ノ竊盜ヲ教唆シタル所  
 爲ニ對シ刑法第三百七十一條ヲ適用セサルハ違法ナリ

說明

一、間税官吏ハ司法警察事務ヲ行フト雖モ是レ刑事訴訟法上ノ司法警察官  
 ニアラス替言セハ間税官吏ハ刑事訴訟法以外ニ於ケル司法警察權行動  
 ハ機關ナルヲ以テ其職務ノ執行ニ關シ刑事訴訟法ノ規定ニ據ルヘキモ  
 ノニアラサルヤ勿論ナリトス

二、本項ハ說明ヲ要セズ

(參照) 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ  
 竊盜ナリト論ス(刑法第三百七十一條)

第一審 島取地方裁判所米子支部

第二審 大阪控訴院

被告人 宮西重義

辯護人

東 眞三郎  
高木益太郎

右酒造稅法違犯差押物藏匿教唆官ノ封印被毀教唆被告事件ニ付明治三十三年三月二十日大  
 阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十  
 三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ハ原判決ニ於テ有罪ノ判決アリタル部分ハ毫モ其證據存在セズ第一審判決ニ於テ  
 架空ノ事實ヲ設ク有罪トセラレタルニ付證據書類ニヨリ其確否ヲ明確ニシテ判斷ヲ仰キタ  
 ルニ拘ハラズ申立ノ論旨ニ對シ子細ノ辯明ヲ付セラレサリハ事實ノ認定ニ不法アルノミ  
 ナラス判決ノ手續モ亦瑕疵アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○被告ノ抗辯ニ對シ逐一説明  
 ヲ付スルノ要ナキモノナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法アルコトナシ

辯護人東眞三郎上告趣旨追加書ノ要ハ原院ハ檢事ノ控訴ナキニモ不拘罪質輕キ罪證隱滅罪  
 ヲ重キ竊盜罪ニ變更シタルハ不法ノ裁判ナリトス何トナレハ第一審ニ於テ罰セラレタル刑  
 ハ封印被毀罪ナルモ此點ハ原判決ニ於テ無罪トセラレ而シテ罪證隱滅罪ニ付テハ單ニ法條  
 ヲ適用シタルニ止マリ其刑期ヲ定メサルヲ以テ此場合ニハ一ニ罪質輕重ニヨリ其利不利ヲ  
 斷セサルヘカラサレハナリト云フニ在レトモ○被告ノ利不利ハ被告ニ科シタル刑ノ輕重ニ  
 付論スヘキモノニシテ罪質ノ如何ヲ標準トスヘキモノニアラス今本件ニ付原院カ科シタル  
 刑ハ重禁錮四月ニシテ第一審ノ刑ニ比較シ輕キ刑ヲ科シタルモノナレハ其處罰シタル罪ニ  
 彼此異ナル所アルモ之ヲ以テ原判決ハ被告ノ利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

辯護人高木益太郎ノ辯明書ノ第一ハ井田武八等ヲ臨檢ノ現場ニ於テ取調ヘタル稅務屬ノ臨

間税官吏ノ犯則者訊問手續ノ被差押物ノ竊取



檢調書ニハ立會人二名ノ連署之レナキヲ以テ乃チ無効ノ調書ナルニ之ヲ罪證ニ供シタル原  
 裁判ハ不効ナリト云フニ在レトモ○間稅官吏カ犯則者及ヒ其他ノ者ヲ訊問スルニ刑事訴訟  
 法ノ規定ニ據ルヘキモノニテラサルノミナラス間接國稅犯則者處分法第六條ニ犯則者及ヒ  
 其他ノ者ヲ訊問スルノ規定アルモ之レニ關シテハ別ニ立會人ヲ要スルノ規定ナキヲ以テ本  
 論旨ハ上告ノ理由トナラス」其第二ハ刑法第三百六十六條ニ所謂「人ノ所有物」トハ他人ニ  
 所有權アル物件ヲ指スモノトス然ルニ原判決ハ被告カ其所有帳簿ヲ稅務屬ノ差押中雇人ニ  
 命シ之ヲ取戻サシメタリトノ事實ニ對シ同法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用シタル  
 ハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ  
 依テ原判文ヲ查スルニ本件ハ稅務屬カ酒造稅法違犯ノ證據トシテ被告ノ仕込帳等ヲ差押ヘ  
 着用外套ノカクシ内ニ入レ之ヲ保有スルヲ被告カ雇人ナル多城友市郎ニ右帳簿ヲ竊取セシ  
 コトヲ教唆シ友市郎ハ之ニ應シ之ヲ竊取シタルノ事實ニシテ被告ノ所爲ハ即チ官署ノ命令  
 ニ因リ自己ノ所有物ヲ他人ノ看守シタルトキ之ヲ竊取セシコトヲ教唆シタルモノナレハ犯  
 罪ノ實行者タル友市郎ノ所爲ニ對シテハ普通ノ竊盜罪ニ問擬スヘキモ被告ノ所爲ニ付テハ  
 刑法第五百條第三百六十六條第三百七十六條ノ外尙ホ第三百七十一條ヲ適用處斷セサルハ  
 カラス然ルニ原判決玆ニ出テス同第三百七十一條ヲ適用セサリシハ擬律錯誤ノ判決タルヲ  
 免カレサルモノトス  
 右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チ

ニ判決スルコト左ノ如シ

宮西重義

原院ノ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ竊盜教唆ノ所爲ハ刑法第五百條第三百七十一  
 條第三百六十六條第三百七十六條ニ該當スルヲ以シ其刑期範圍内ニ於テ被告重義ヲ重禁錮  
 四月ニ處シ監視六月ニ付ス其他ハ總テ原判決ノ通り  
 明治三十三年五月一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●故殺未遂事件

明治三十三年第六九八號 (棄却)

判決要旨

未遂犯ニ對シ一等又ハ二等ヲ減刑スルノ標準ハ所爲ノ程  
 度ニ依ルヘキモノニシテ犯情ノ輕重ニ依ルヘキモノニア  
 ラス

說明

凡ソ未遂犯ノ刑カ已遂犯ノ刑ニ比シ一等若クハ二等ヲ減スト云フハ學者  
 ノ所謂客觀的減刑ノ一ニシテ即チ犯罪所爲ノ程度カ已遂ノ域ニ進マサル  
 カ故ニ從テ社會ニ及ス危害ノ程度モ亦タ已遂ニ比シ少カルヘシトノ理由

未遂犯罪ニ於テ一等若クハ二等ヲ減スルノ標準



ニ基クモノトス果シテ然ラハ等シク未遂犯ニシテハ一等ヲ減シ一ハ二  
等ヲ減シ互ニ其間ニ輕重ノ差ヲ設ケタルノ理由ハ則チ未遂犯ノ刑カ已  
犯ノ刑ニ比シ其ノ輕重ノ差アルト同一ノ理由ニ歸着セサルヲ得ス則チ未  
遂ノ刑カ已遂ノ刑ニ輕キハ所爲ノ程度カ已遂ノ域ニ進マサルノ理由ニ基  
クモノトセムニ等テ減スルモノ、所爲ハ一等ノ減スルモノ、所爲ニ比シ  
一會輕微ナルノ理由ニ基クモノト云ハサルヲ得サルナリ是レ本件判決ノ  
生スル所由タルナリ

第一審 靜岡地方裁判所濱松支部、第二審 東京控訴院  
被告人 赤堀茂作

右故殺未遂被告事件ニ付明治三十三年五月三十一日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ棄却シ  
タル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判  
決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ハ第一被告ハ精神錯亂ノ結果本件ノ所爲ヲ爲シタルモノナレハ法律上毫モ其責任  
ナキモノナリ故ニ原院ニ於テ辯護人ヨリ此事實ヲ證セシメ爲メ醫師ノ鑑定ヲ請求シタルニ開  
ハレナク之ヲ排斥シ有罪ノ判決ヲ與ヘタレタルハ不法ナリ第二假リニ被告ニ其罪アリトス  
ルモ殺意ヲ以テ爲シタルモノニアラス然ルニ何等ノ確證ナキニモ拘ハラヌ殺意アリタルモ  
ノト認定シ故殺未遂ヲ以テ論セラレタルハ不當ナリト云フニ在レモ○鑑定人ノ必要ト否ヲ

既別シテ其職問申請ヲ許否スルハ原院ノ職權ニ屬シ他ヨリ批難スルヲ得ス又原院カ認メタ  
ル事實ニ對スル證據ハ判文ニ明示シアレハ本論旨ハ畢竟原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採  
證ノ當否ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
辯護士擴張書第一點ハ酌量減刑ナルモノハ各本條ニ定ムル所ノ刑ヨリ從犯未遂犯其他法律  
上ノ減等ヲナスモ尙其刑重キ場合ニ於テハ減刑ヲナスモノナレハ本件テツニ對スル刑ヲ酌  
量減刑ヲナスニハ須ラク法律上ノ最下限即チ未遂ニヨリ二等ヲ減シ而シテ後減刑スヘキ審  
ナルニ單ニ一等ノミ減シタル刑ヨリ酌量減刑セラレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ  
裁判ナリト云フニ在レモ○未遂ニ付一等若クハ二等ヲ減刑スルハ其未遂ノ程度如何ニ依ル  
ヘキモノニシテ犯情ノ輕重ヲ以テ之カ標準ト爲スヘキニアラス故ニ原院カ未遂減刑ハ之レ  
ヲ一等ニ止メ更ニ犯情ヲ酌量シテ尙ホ一等ヲ減シタルモ不法ニアラス』第二點ハ本件第一  
審判決ハ公廷ニ於テ被告ニ示シ辯護セシメタルコトナキ木樵ヲ證據トナシタル違法ノ點ア  
ルニ原院ニ於テコレヲ取消サス第一審判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却セラレタルハ亦違法ノ裁判  
ナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テ完全ノ手續ヲ盡シ審判シタル上ハ第一審審理手續ノ當  
否ヲ論争シテ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノナルヲ以テ本論旨ハ不相立  
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年六月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

未遂犯ニ於テ一等若クハ二等ヲ減スルノ標準



●混成酒稅法違犯事件

明治三十三年六月七日發告

(棄却)

判決要旨

第一審及第二審ニ於テハ罰金以下ノ事件ニ對シ被告人ハ代理人ヲ差出シ審理ヲ受クルコトヲ得ヘシト雖モ代理人ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ得ス

說明

刑事訴訟法上罰金以下ノ事件ニ對シテハ例外トシテ代理人ヲ用ユルコトヲ得ヘシト雖モ而モ凡テノ訴訟的行為ヲ舉テ悉ク代理人ヲ以テ爲シ得ヘキモノニテアラス今刑事訴訟法第二百十四條ノ規定ニ依ルトキハ被告事件違犯罪又ハ罰金ニ該ルヘキ輕罪ナルトキハ代理人ヲ以テ出頭セシムルヲ得ヘキ旨ヲ規定セルヲ以テ該條ニ依リ代理人ヲ用ヒ得ヘキ場合ハ單ニ裁判所ノ呼出ニ應ジテ裁判所ニ出頭シ審理ヲ受クルノ點ニ限ルモノト云ハサルヲ得ス凡ソ裁判ニ故障ヲ申立テ上訴ヲ提起スルハ則チ裁判ニ對スル不服ノ申立ニシテ訴訟行為ノ一部タルヤ勿論ナリト雖モ裁判所ニ出頭シ審理ヲ受クルト其ノ關係ヲ同フセス然ラハ則チ第二百十四條ニ出廷及ヒ審問

ニ付キ代理人ヲ用ユルコトヲ得ルノ規定アル理由トシ上訴ヲ爲スニ付キ代理人ヲ用ユルコトヲ得ルヤ勿論ナリトス之レ本判決ノ由テ生スル所以ナリ

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 人 根 本 強

右混成酒稅法違犯被告事件ニ付明治三十三年五月十七日東京控訴院ニ於テ本件控訴ハ之レヲ棄却スル旨旨渡シタル判決ヲ不法トシ被告人ノ代理人鈴木濟美ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百三十八條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
罰金以下ノ刑ニ係ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ第一、二審ニ於テハ代理人ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨上告審ニ於テハ代理人ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ認許シタル法條ナキニヨリ本件被告ノ代理人鈴木濟美ノ爲シタル上告ハ適法ニ成立セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

●私書偽造行使詐欺取財并附帶私訴事件

明治三十三年六月四日判決 (棄却)

判決要旨

一、受寄ノ財物ヲ自己ノ物ナリト詐稱シ抵當典物トナシタル所爲ハ委託物消費罪ヲ構成ス

公訴ノ審理ニ對シ代理人ヲ用ヒ得ヘキ範圍  
受寄物消費罪ノ性質及ヒ民法實施以前ニ生シタル占有權



二、占有及準占有ハ民法實施以前ニ始マリタルモノト雖モ民法實施以後ハ民法ノ規定ヲ適用ス

說明

一、受寄ノ財物ヲ以テ抵當典物トナスハ則チ受寄ノ物件ニ對シ處分の行爲ヲ施スニ外ナラス而シテ費消罪ニ所謂費消ナル意義ハ處分の行爲ノ全體ヲ包含スルカ故ニ抵當典物ノ如キ再ヒ舊狀ニ復歸スヘキ關係ヲ有スルモノト雖モ其ノ行爲ノ性質已ニ處分的行爲ナル以上ハ之ニ對シ費消罪ヲ適用スル當然ナリトス

二、占有及準占有ハ民法實施以前ニ始マリタルモノト雖モ民法實施以後ハ民法ノ規定ニ從フヘキコト民法施行法第三十八條ノ規定スル處ナルカ故ニ別ニ說明ヲ附セズ

(參照) 民法施行前ヨリ占有及準占有ヲ爲スモノニ其ノ施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス(民法施行法第三十八條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴上告人 古谷章太郎 辯護人 横田千之助 高木豊三 小田五郎

私訴上告人 株式會社第百銀行

右法定代理人 高田 小次郎

私訴被上告人 大野孝七郎

右章太郎ニ對スル私書偽造行使詐欺取財並ニ之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治三十三年二月十九日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ第一審判決ヲ取消シ被告章太郎ヲ重懲罰二年罰金二十圓監視六月ニ處シ押收ノ書類ハ各差出人ニ還付ス私訴ニ付テハ第一審判決ヲ取消シ上告人ハ被上告人請求ノ通り横濱正金銀行第一新株一八一六四號ヨリ一八一七六番ニ至ル百圓券十三枚ヲ被上告人ニ引渡スヘシ訴訟費用ハ第一審第二審共ニ上告人ノ負擔トスル旨ヲ宣渡シタル判決ニ對シ被告古谷章太郎ハ公訴ニ付高田小次郎ハ私訴ニ付各上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
公訴上告ノ趣意ハ原判決ハ事實ヲ不法ニ確定シ法則ヲ違法ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○如何ナル點ヲ以テ違法ナリトスルヤ之ヲ指示セサルヲ以テ説明スルニ由ナク本論旨ハ結局上告ノ理由ナキモノトス  
辯護人横田千之助ノ辯明書第一點ハ原判決ハ被告カ株券ヲ費消シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十五條末段ヲ適用セラレタリト雖モ其事實理由ノ部ニ於テハ株券ヲ費消スルニ付キ何人ヲ欺キタルカヲ明示セサルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○偽造ノ委任狀ヲ添付シ第百銀行員及岡崎三次郎ヲ欺罔シ寄託ノ株券ヲ費消シタル事實ヲ認定シ之ヲ明示シアレハ事實理由ノ不備ナシトス

受寄物費消罪ノ性質及セ民法實施以前ニ生シタル占有權



第二點ハ原判決ハ刑法第三百九十五條ヲ適用シタルハ株券ヲ費消スルニ當リ第百銀行及岡崎三次郎ヲ欺キタルモノナリト云フニ在リトモ是即チ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云ハサルヘカラス何トナレハ如此場合ハ純然タル受寄物費消罪ニシテ刑法第三百九十五條末段ノ適用ヲ受クヘキモノニアラザレハナリ且第百銀行ヲ欺罔シタルモノナリトスルモ第百銀行ハ法人ナルヲ以テ法人自ラ欺罔セザルハモナリト云フ能ハサルハ勿論ナルヲ以テ第百銀行ヲ代表シテ何人カ欺罔セラレタルヤヲ明示セザル可ラス然ルニ此必要ナル被害者ノ明示ヲ欠キタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○偽造ノ委任狀ヲ使用シ寄託ノ株券ヲ費消シタル事實ナレハ即チ詐欺ノ所爲アルモノニシテ原院ハ刑法第三百九十五條末段ノ詐欺ノ所爲アルモノトシテ處斷シタルハ相當ナリ又原判決ニ偽造委任狀ヲ添付シ第百銀行ニ差入レタル事實ヲ揭擧シアルハ詐欺ノ所爲アルモノト明ニシテ現ニ欺罔セラレタル人ヲ示スヲ要セザルノミナラス銀行員ニ對シ詐欺ノ所爲アリタルコト判文上明白ナレハ理由ノ不備ナシトス

第三點ハ原判決ノ事實理由中(……賣渡代金計三千七百六十七圓十錢ニテ前記岡崎三次郎ニ賣渡シ「中略」歸京後同月七日自宅ニ於テ證書引換ニ右三次郎ヨリ前記賣渡代金ヲ騙取シタリ)又(……前記原野ノ内三十六筆此合反別九町四歩ヲ岡崎三次郎ニ賣渡シテ「中略」歸京後同月十日自宅ニ於テ賣渡代金トシテ金貳千五百圓ヲ三次郎ヨリ騙取シタリ)ト判示シ而シテ以上事實認定ノ理由トシテ(第三ノ一、二、三ノ各金員ヲ「中略」夫々三次郎ヨリ被

告ニ交付シタルコトハ岡崎三次郎ノ豫審調書ニ其旨ヲ記載アルト云々ト説明セラレタリト雖モ翻テ岡崎三次郎ノ豫審調書ヲ調査スルニ同人ハ明治三十年十一月七日ニ於テ三口ノ賣渡代金合計三千七百六十七圓十錢ヲ被告ニ交付シ明治三十一年三月十日ニ於テ賣渡代金トシテ金二千二百五十圓ヲ被告ニ交付シタル旨ノ供述アリト雖モ原判文ニ示スカ如キ金額ヲ被告ニ交付シタル旨ノ供述之ナキコト記録ニ由リ明白ナリ果シテ然ラハ原判決ハ虛無ノ證據ニ依リ不法ノ事實ヲ認定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ「第三ノ一、二、三ノ各金員云云交付シタルコトハ岡崎三次郎ノ豫審調書ニ其旨ヲ記載」トアレハ右調書ノ趣旨ヲ解釋シタル者ニシテ其調書ニ原判決ニ掲ケタル金額ノ記載アリト云フニアラサルヲ以テ其金額ヲ調書ノ記載ト異ナルモ虛無ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタル者ト云フヲ得ス辯護人高木豊三小出五郎ノ擴張書第一點ハ記名株券ニ白紙委任狀ヲ添付シテ賣買讓渡其他一般ノ流通ニ供スルコトハ我國一般ニ行ハル所ノ事例ナリ故ニ他人名義ノ株券ニ其白紙委任狀ヲ添付シテ自己ノ債務ノ擔保ニ差入レタル事實ノミニテハ當然他人所有ノ株券トシテ差入ルハモノト知り得可カラサルハ勿論寧ロ普通ノ事例ニ於テ自己所有ノ株券トシテ差入ルハモノト見ルヲ當然トス然ルニ本件ニ付原判決ハ被告ノ第一第二ノ所爲ニ於テ單ニ被告カ孝七郎ノ株券ニ同人ノ白紙委任狀ヲ添付シテ擔保ニ差入レタル事實ノミヲ説明シ被告カヤニ付テ何等ノ理由ヲ付セザルヲ以テ其事實ノ如何ヲ知ル能ハサル者ナリ然ルニ若シ被告

受寄物費消罪ノ性質及ヒ民法實施以前ニ生シタル占有權



カ之ヲ自己ノ物トシテ差入レタリトセハ或ハ冒認罪タルヘキモ決シテ原判決擬律ノ如キ受寄物費消罪ヲ構成スルモノニアラス然ルニ前項ノ如ク原判決ハ被告人カ本件ノ株券ヲ擔保ニ差入ルル際果シテ何人ノ所有ナリトシテ差入タルヤノ理由ヲ付セズシテ漫然受寄物費消罪ヲ以テ處斷シタルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シ理由不備ノ不法アルコトヲ免カレサルモノナリト云フニ在レトモ○株券賣渡ニ付名義書換等ニ關スル孝七郎名義ノ白紙委任狀ヲ添付シ被告ノ借入金ノ擔保トシテ差入レタル事實ヲ明示シアレハ被告カ自己ノ物ナリトシテ差入タルコト明白ナリ然レトモ受寄ノ財物ヲ自己ノ物ナリト稱シ抵當典物トナシタルトキハ其抵當典物トナスハ費消ノ手段ニ外ナラスシテ冒認罪ヲ以テ處分スヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ本件ヲ委託物費消罪ヲ以テ處斷シタルハ相當ナリトス

第二點ハ刑法第三百四十三條末段ニ規定セル詐欺ノ所爲アル受寄物費消罪ヲ構成スルニハ詐欺ヲ施シ人ヲ誤惑ニ陥ラシメタル結果受寄者ニ返還セザルモノナルコトヲ要ス然ルニ原判決ハ上告人ノ第一第二ノ所爲ハ偽造委任狀ヲ添付シテ株券ヲ費消シタルハ何レモ費消罪ヲ犯スニ當リ詐欺ノ所爲アリシモノナルニ依リ各刑法第三百九十五條末段ニ該當スルモノナリト論セリ然レトモ被告ノ第一第二ノ所爲ハ判決書記載ノ事實ニ據レハ被告人ハ自己ノ金借ノ爲メ委任狀ヲ偽造シ受寄ノ株券ヲ擔保ニ差入レタルモノニシテ其株券ヲ返還セザルハ決シテ詐欺ニ因リ人ヲ誤惑シタル結果ニ非ラサルコト明ラカナルヲ以テ原院カ刑法第三百九十五條末段ニ該當スルモノナリト論シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○委託物費消

罪ハ其物件ヲ費消シタル時ニ於テ成立スルモノナレハ本件ノ株券ヲ擔保トシテ他人ニ差入ルニ因リテ費消罪ハ成立シ其際詐欺ノ所爲アル以上ハ刑法第三百九十五條ノ末段ニ該當スルヲ以テ原判決ノ擬律ハ失當ニアラス

第三點ハ原判決ハ被告カ第一第二ノ所爲ニ付キ何レモ株券ヲ費消シタル事實ヲ認定セリ而シテ其證據說明ノ部ニ於テ單ニ株券ヲ擔保ニ差入レタル事實ノミヲ說明シ擔保ニ差入ル、當時ノ意思如何ニ付テハ何等ノ說明ヲモ爲サ、ルモノナリ然レトモ質物ニ差入レタル事實カ直ニ費消トナルト否トハ全ク當初ノ意思如何ニ依リテ決定セラル、モノナルコトハ學理上ノ定論ナリ然ルニ其意思如何ヲ說明セザルハ理由不備ノ不法アリト云フニ在レトモ○被告カ費消スルノ意思ヲ以テ擔保ニ差入タル事實ハ判文ニ掲擧シタル證據ヲ綜合シテ認定シタルモノナルコトハ第一第二ノ事實ニ關シ事實理由ニ記スル如ク私印ヲ盗用シ委任狀ヲ偽造シ之ヲ添付シテ株券ヲ費消シタルコト判然ナル旨ノ說明アルニ依リ自カラ明カナレハ證據ノ說明ニ於テ欠クル所ナシトス

第四點ハ原判決ハ被告ノ第二ノ所爲ニ付キ被告カ大野孝七郎ヨリ同人ノ實印ヲ預リタル事實ヲ確定セリ而シテ此點ニ對スル證據說明ノ部ニ掲タル所ヲ見レハ被告カ「株券ト共ニ孝七郎ノ實印ヲ預カリシコト」ハ孝七郎ノ豫審調書中其旨ノ記載アルニ因リテ認定セル旨ノ說明アリ因テ孝七郎ノ豫審調書ヲ精査スルニ此點ニ對スル問答ハ「問其後チニ印ヲ預ケタルコトハナイカ答郵船株ノ拂込金ヲスルト云フテ直ニ株ヲ持テ行キ其時私ハ印ヲ渡シタ覺



ハハアリマセカ其時持テ行キマシタカ何ウモ記憶カアリマセカ其後チニハ御座リマセカ  
 同郵船株三十株渡シタノハ何ツノタカ答信州ヨリ歸ツテ來テカラテ昨年八月半ハ頃ト思ヒ  
 升間其トキニハ印形ヲ渡シタカ渡サナイカ答夫レハ覺ヘテ居リマセカ株券ハ拂込入用ト云  
 ラテ持テ行キマシタカ其時印ヲ持ツテ行ツタカ何アカ覺エテ居リマセカ以上ノ如ク孝七  
 郎ハ二回迄モ實印ヲ預クタルコトハ覺ヘナキ旨陳述セリ而シテ此間答以外ニ郵船株金拂込  
 ノ際實印ヲ預クタル事ノ有無ニ干スル問答ハ絶テナシ故ニ原院カ孝七郎ノ實印ヲ預クタル  
 事實ハ同人ノ豫審調書中ニ其旨ノ記載アリト説明シタルハ罪トナルヘキ證據ニ因ラスシテ  
 犯罪ヲ認定セシモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル不法アリト云フニ在レ  
 トモ○原判文ニハ株券ト共ニ孝七郎ノ實印ヲ預クシコトハ孝七郎ノ豫審調書中其旨ノ記載  
 アルニヨリトアリテ其豫審調書ノ意義ヲ解釋シタルモノナレハ證據ニ依リ認定シタル理由  
 ヲ説明シアリテ論旨ノ如キ違法ナシトス

第五點ハ原判決第三第四ニ掲クル點ニ干シテハ最初孝七郎カ被告人ニ地所賣渡ノ全權ヲ與  
 ヘタルコトハ疑ヒナキ事實ニシテ被告ハ孝七郎ヨリ白紙委任狀ヲ預リタルト申立テ孝七郎  
 ハ實印ヲ預クタルト申立タリ而シテ原判決ハ孝七郎ノ申立ヲ採用シ被告カ孝七郎ヨリ預リ  
 タル同人ノ實印ヲ盜用シ同人ノ委任狀ヲ偽造行使シタルモノナリト説明スレトモ其委任狀  
 作成ノ時期如何ニ干シテハ明白ナル説明判斷ヲ爲シタル所ナシ故ニ右委任狀作製ノ時ハ被  
 告カ果シテ委任狀作製ノ權限アリタル時ナルヤ否ヤヲ知ルコト能ハス又從テ印章使用ハ其

當時之レヲ使用スル權限アリタルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルモノナリ若シ被告カ孝七郎ノ  
 實印使用ノ權限アリ又委任狀作製ノ權限アリレ時ニ之レヲ使用シ作製セシモノナルニ於テ  
 ハ假令後日之レヲ不當ニ利用スルモ或ハ他ノ犯罪ヲ構成スルコトアル可シト雖モ毫モ印形  
 盜用私文書偽造罪ヲ構成セサルモノナルヲ以テ原判決カ委任狀作製ノ時期如何ニ干シ事實  
 及ヒ證據ニ因リ説明ヲ與ヘサルハ理由不備ノ違法アリト云フニ在レトモ○印影盜用罪ハ其  
 印影ヲ利用シタル時文書偽造罪ハ其文書ヲ行使シタル時ニ於テ成立スルモノナルヲ以テ孝  
 七郎カ被告ニ對シ明治三十年十一月ニ地所賣買ノ周旋ヲ謝絶シタル後曩キニ孝七郎ノ實印  
 ヲ押捺シタル白紙委任狀ヲ利用シタル以上ハ其押捺ノ當時ハ被告ニ押捺スヘキ權限アリト  
 スルモ盜用罪ヲ構成スルモノトス又委任狀ノ偽造ハ右周旋謝絶ノ後ニ在ルコトハ判文上自  
 カラ明白ナレハ文書偽造罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ理由ノ不備ナシ而シテ原判決ノ證據  
 説明中ニ第一審公判始末書中大野孝七郎ノ供述ヲ引キ各委任狀ハ孝七郎ノ實印預リ中押捺  
 シ置キタル白紙ヲ用ヒテ偽造シタルモノト認ムル旨ヲ明記シテハ證據ニ依リ理由ヲ附セ  
 サルノ違法ナシトス

私訴上告趣意ハ係争ノ株券ノ抵當ハ民法實施前ノ成立ニ係ルモノナルニ民法ヲ適用シタル  
 ハ不法ナリト云フニ在リ○而シテ本件ノ株券ノ抵當ハ民法施行前ニ在リト雖モ本件ノ争點  
 ハ上告人カ記名株式ヲ目的トシタル實權ヲ有スルヤ否ニ在リテ即チ其實權ナル財產權ノ準  
 占有ニ關スルモノナリ而シテ民法施行法第三十八條ハ占有及ビ準占有ハ民法施行前ニ始マ  
 受寄物受領ノ性質及ビ民法實施以前ニ生シタル占有權



リタルモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ民法ヲ適用スルモノト規定シタルヲ以テ原院カ民法施行後ニ在リテ判決スルニ當リ民法ノ法條ヲ適用シテ處斷シタルハ違法ニアラス」追加理由書ハ原院ハ記名株券ヲ以テ普通債權ト看做シ我民法ニハ債權ノ即時効ヲ認ニス從テ返還ヲ拒ムヲ得スト判示シタルモ記名株券ナルモノハ我國現時ノ慣習上其使用效果無記名株券ト同一ニシテ民事訴訟法ノ如キモ之ヲ動産ト看做セリ尙キ民法實施後ト雖モ動産トシテ判決セラルタル次第ナリ故ニ原判決ハ慣習ニ反シ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在リトモ○前院說明ノ如ク民法施行法第三十八條ニ依リ民法ヲ適用スル以上ハ占有ト準占有ヲ民法ニ依リ區別セサルヘカラス而シテ民法ニ依レハ記名株券ハ之ヲ動産トナサズ從テ其占有ハ準占有ニシテ純然タル占有ニ非ス而シテ第九十二條ハ純然ノ占有ニノミ適用スヘキモノニシテ準占有ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ原判決ニ本件ノ株券ハ動産ニ非サルヲ以テ上告人カ民法施行法第三十九條ニ基キ株券ノ取還ヲ拒ムハ其當ヲ得スト判示シタルハ違法ニアラス」越意追加書ノ要旨ハ被上告人カ公訴被告人章太郎ニ拂込金額ノ記入ヲ爲ス爲メ株券ヲ委託シ併セテ實印ヲ渡シタリトノ事ハ被上告人ノ自陳スル所ナリ然ルニ拂込金額記入ノ爲メ實印ヲ要スル理由ナクレハ抵當ニ差入ル爲メ寄託シタルモノナルコトハ掩フヘカラスル事實ナルニ原院カ此矛盾シタル陳述ヲ取リ株券ハ拂込金額ノ爲メニ寄託シ實印ハ被告章太郎カ盗用シタルモノト認メ其認定ニ基キ上告人ハ被上告人ノ請求ヲ拒ムヲ得スト判決セシハ失當ナリト云フニ在リテ○要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難

スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス  
私訴上告ニ關スル訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス  
明治三十三年六月四日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

●詐欺破産事件 明治三十三年六月八日判決 (棄却)

判決要旨

詐欺破産ノ共犯ニ對シテハ刑法總則ノ共犯例ヲ適用セス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大坂控訴院

被告人 永江熊次郎

右詐欺破産被告事件ニ付明治三十三年五月八日大坂控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルニト左ノ如シ  
上告趣意ノ要旨ハ大阪貨物倉會社カ長谷川丑松ヨリ金七拾九圓ノ約束手形支拂請求ヲ受メ其支拂停止シタルニモ係ハラス坂本長之助ヨリ明治三十二年六月十九日二十二日二十七



日ノ三回ニ皮百二十枚ヲ代金六百拾二圓九拾三錢ニ買取リタルハ詐欺ノ所爲ナリトノ斷定ヲ  
辨リタルモ其擔當者タル被告米澤由造ノ行爲ナルコトハ記録ニ徴シテ明瞭ナルモ上管入永江  
熊次郎カ予與シタル證據ナキニテ原院判文ニ理由ノ明示ヲ欠キタルハ刑事訴訟法第  
二百六十九條第九項ニ當ル上告理由アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ  
「被告熊次郎ハ前記由造ト共謀シ現金取引ノ如ク裝ヒ云々賣主坂本長之助ヘハ該代金ノ支  
拂ヲ爲サス云々右事實ハ被告永江熊次郎豫審調書ニ云々證人坂本長之助豫審調書ニ云  
々」トアリテ即チ被告ノ所爲ニ對スル事實理由及ヒ證據ヲ示シタルコト明カナレハ論難ハ  
謂ハレナシ」同擴張第一點ノ要旨ハ原判決ヲ閱ミスルニ被告ハ其業務ヲ執ル大阪荒物合資  
會社カ支拂ヲ停止シタルニ拘ハラヌ坂本長之助ヨリ皮百二十枚ヲ買取ク之ヲ他人ニ質入シ  
テ長之助ニハ該代金ノ支拂ヲ爲サスト云フニ止リ被産者タル會社ノ利益ノ爲ニ行ヒタリト  
見ルヘキ事蹟ナシ抑モ被告ヲ以テ商法第五十二條末段ニ該當スルモノト爲サンニハ此點  
ハ尤モ欠クヘカラサル要件ナルニ原判決茲ニ由テ前陳ノ事實ニ對シ直チニ詐欺被産ノ刑  
ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ見ルニ被告熊次郎ハ云々大阪荒物合  
資會社ニ於テ專ラ業務ニ從フ中云々代金辨濟ノ目的ナキニモ拘ハラヌ現金取引ノ如ク裝ヒ  
坂本長之助ヨリ皮百二十枚ヲ買取ク該代金ノ支拂ヲ爲サス云々トアリテ即チ被告ハ荒物合  
資會社ノ業務ニ從事中該會社ノ利益ノタメ其辨濟ノ目的ナキニ拘ハラヌ皮ヲ買入レ他ニ質  
入シ其代金ヲ支拂ハサリシ事實ヲ認メタルニアルヤ明カナリ此點ノ論難モ亦謂レナシ」同

七十二

第二點ノ要旨ハ原判決ハ被告ヲ以テ訴外由造ノ共犯ナリト認メタルニ拘ハラヌ單ニ詐欺被  
産罪ニ問據シ刑法總則共犯ノ規定ヲ參酌セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○商法第五  
十二條ニハ第五十條ノ罰則ハ被産管財人及ビ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ク又ハ有罪行爲  
ヲ被産者ノ利益ノ爲ニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ストアレハ原判決ノ認メタル本件被告ノ  
行爲ニ對シテハ當然該末段ニ依リ處斷セラルヘキモノナルヲ以テ刑法總則共犯ノ規定ヲ適  
用セサルハ相當ニシテ論告ハ其理由ナシ

七十三

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年六月八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

豫謀毆打創傷事件

明治三十三年七月二號 (棄却)  
明治三十三年六月十八日判決

判決要旨

刑法第二百二條ニ依リ後發ノ刑ヲ以テ前發ノ刑ニ照シ其ノ  
輕重ヲ比較通算スルハ專ラ前發ノ主刑ト後發ノ主刑トヲ  
以テ比較ノ標準トナスモノニシテ附加刑ハ之レヲ比較通  
算スヘキモノニアラス

說明

刑法第二百二條ニ依リ比較通算ノ範圍



本件ハ説明ヲ要セス

(參照) 一審前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該シ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス(刑法第百二條第一項)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告 人 島田彦三郎

右豫謀毆打創傷被告事件ニ付明治三十三年五月二十五日東京控訴院ニ於テ原判決中被告彦三郎ニ關スル部分ヲ取消シ被告ヲ重禁錮八月ニ處ス但シ前發ノ刑ヲ通算ス押收ノ木劍二本ハ之ヲ沒收シ被告ハ第一審ノ共同被告タル齋藤芳藏高橋篤吉能勢倉之助黒澤常太郎ト連帶シ公訴裁判費用ノ全部ヲ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ第一點ハ原判決ヲ按スルニ其正文ニ於テ被告ヲ重禁錮八ヶ月ニ處ス但前發ノ刑ヲ通算ストアリ所謂前發ノ刑トハ明治三十三年三月十四日賭博ノ科ニ依リ千葉地方裁判所ニ於テ言渡サレタル重禁錮五月罰金二十圓ノ刑ヲ指示シタルモノナルヘシ而シテ其裁判ノ理由ヲ見ルニ「云々被告ヲ重禁錮八月ニ處シ而シテ前發ノ刑タル重禁錮五月ハ之ヲ通算スヘク云々」ト明記シアルヲ以テ見レハ先キニ賭博ノ科ニ依リ處セラレタル餘罪ノ刑ニ付テハ重禁錮五月ノミヲ通算シ罰金二十圓ハ之ヲ通算セサルモノト云ハサル可ラス之レ一方

ニ重禁錮五月罰金二十圓ノ刑ナルコトヲ認メナカラ單ニ重禁錮ノミヲ通算ストセルハ據律ヲ錯誤ナリト云マニ在レトモ○刑法第百二條ニ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ云々其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ云々後發ノ刑ニ通算ストアリ而シテ其輕重ヲ比較スルニハ前發ノ主刑ト後發ノ主刑トヲ以テ標準トスヘキモノトス然ラハ同條但書ノ前發ノ刑罰金科料ニ該リ云々後發ノ刑期ニ通算ストアルハ同條本文ノ「其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ」トアル場合ニ於タル處分法ニシテ附加罰金ノ如キハ通算スヘキ限ニテラス故ニ原院カ本件ニ付附加罰金二十圓ヲ通算セサルハ違法ニテラス

其第二點ハ凡ソ沒收ノ言渡モ亦刑ノ言渡ノ一種ナル以上ハ刑事訴訟法第二百三條ニ依リ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ原判決ヲ閱スルニ「押收ノ木劍二本ハ之ヲ沒收ス」トノ主文ヲ掲ケナカラ被告ノ所有タル證據ハ一モ之ヲ舉示スルコトナシ之レ刑事訴訟法第二百三條ニ違背セル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ查閱スルニ證據說明ノ部ニ「被告黒澤常太郎ノ豫審調書ニ(中略)彦三郎カ夫レナラハト云フテ五本程ノ木刀ヲ渡シ遺ツタ事實ハ云々」當院公廷ニ於テ被告ノ爲シタル(中略)宅ニ木刀ハ澤山アリトノ趣旨ノ供述ヲ綜合シ之ヲ豫審第一二號證ノ木劍ニ對照シ云云之ヲ認定ス」ト明記シアレハ押收ノ木劍ハ被告ノ所有ナリシコトヲ證據ニ依リ說明シアリテ上告論旨ハ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス



明治三十三年六月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●約束手形偽造行使事件 明治三十三年七月九日判決 (棄却)

判決要旨

満期日ヲ記載セサル手形ニ擅ニ満期日ヲ記入シタル所爲  
ハ手形ノ偽造罪ヲ構成ス

手形ニ満期日ヲ記載セサルハ之ヲ以テ一覽拂ノ手形トナスコト法文ノ  
明示スル所アリ然レトモ若シ是レニ満期日ヲ記入スルトキハ一覽拂ノ手  
形ヲ變ノ定期拂ノ手形トナルヲ以テ満期日記入ノ一事ハ則チ一覽拂ノ手  
形ニ以テ定期拂ノ手形ヲ作成スルノ結果ヲ生ス即チ眞實ヲ偽リタル一種  
ノ手形偽造ニ對シテナルナリ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院  
被告人 山民吉 辯護人 高木益太郎

若約束手形偽造行使被告事件ニ付明治三十三年五月二十五日東京控訴院ニ於テ原判決ヲ取  
消又被告民吉ヲ輕重懲役六年ニ處ス前發ノ刑ヲ本刑ニ通算ス押收ノ約束手形其ノ他ノ書類  
ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法

第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告諭旨ハ原院ハ本案被告事件ニ付キ手形法ヲ適用スヘキニ之ヲ適用セス他ノ法律ヲ適用  
シタルハ據律錯誤ノ裁判ナリ手形法ニ手形ニ満期日ヲ記載セサルトキハ其手形ハ一覽ノ時  
満期トナルトアリ蓋シ我立法者ハ満期日ヲ記載セサル手形ハ所持人ニ其便利ニ從ヒ之ヲ記  
入セシムル機能ヲ與ヘタルモノナリ東京地方裁判所ハ満期日ノ記載ヲキ約束手形ハ一覽ノ  
日ヲ以テ満期日トナスヘキコトハ法ノ規定スル所ニシテ此種ノ手形ニ其所持人ニ於テ一定  
ノ満期日ヲ記入スルハ所持人ノ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハズ違法ノ事柄ニ非サルヲ以テ  
被告ニ於テ其騙取シタル満期日ノ記載ヲキ壹万円ノ約束手形ニ明治三十年九月三十日ヲ滿  
期日ト爲ス旨ヲ記入シタリトテ之ヲ以テ手形ヲ偽造又ハ變造シタルモノト云フテ得ズ隨テ  
之ヲ他人ニ裏書讓渡スルモ偽造又ハ變造シテ行使シタルモノト爲ステ得ズ即チ被告ノ所爲  
ハ犯罪ヲ構成セサルヲ以テ云々ト判決セリ右ノ如キ理由タルニ拘ハラス原院ハ被告ヲ有罪  
ナリト判決シタルハ不法ナリト云フニ在リ  
依テ按スルニ我商法ニ於テハ(其新法タルト舊法タルトヲ問ハズ)裏書人ノ署名ノミヲ以テ  
裏書シタル場合ニ限り所持人ニ於テ裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ其手形ニ  
記入スルコトヲ得ヘキモノトスレトモ其他ノ場合ニ於テ所持人カ擅ニ手形上ノ要件ヲ記入  
スルカ如キ機能ヲ認メタルコトナシ尤モ手形ニ満期日ヲ記載セサリシトキハ一覽ノ日ヲ以  
テ満期日トナスヘキ旨ノ規定アリト雖モ右ハ該手形ノ満期日ニ付テハ之ヲ一覽拂ト同視ス

手形ノ偽造行使



ハント云フニ在リテ之カ爲メ所持人ニ滿期日記入ノ權能ヲ與ヘタルモノニ非ズ則チ滿期日  
 配入キ儘之ヲ支拂人ニ呈示スルニ於テハ一覽拂手形ト同一ノ效果ヲ生ズハト云フ  
 外ナラス而シテ原判文ニ依レハ被告ハ約束手形ノ手裏ニ存スルヨリ惡意ヲ生シ云々該約束  
 手形ノ支拂期日ヲ記入スヘキ處ニ據ニ「明治三十年九月三十日」ノ文字ヲ記入シ支拂期日ナ  
 キモノニ其期日ヲ明治三十年九月三十日ト定メ云々トアリテ被告カ惡意ヲ以テ滿期日ノ配  
 入ヲ爲シタルモノトセリ由是觀之被告ハ一覽拂手形ヲ變シテ定期拂ノ手形トナシ  
 以テ其眞實ヲ偽ハリタルノミナラス抑モ一覽拂ノ手形ハ日附後二年内ニ呈示スルヲ以テ  
 足レルモノナレハ該手形ノ日附タル明治三十年八月三十一日ヨリ二年内即チ明治三十年  
 九月三十日以後一年十一个月間ハ債務者ニ於テ支拂ノ請求ヲ免カシ得ヘキ期望ヲ有シタル  
 ニ拘ハラズ該變更ノ爲メ明治三十年九月三十日ニ於テハ之カ請求ヲ免カル、ニトテ得サル  
 モノトナリ爲メニ期望ノ利益ヲ害セラル、ニ至レリ其他滿期日前ノ支拂ニ付キ支拂人カ危  
 險ヲ負擔スヘキ規定ノ適用ニ付テモ滿期日ノ變更ニ因リ支拂人ニ意外ノ損失ヲ生スヘキ場  
 合ナシトセズ故ニ該變更ニ付テハ固ヨリ實害ナシト云フヲ得スシテ要スルニ原院カ認メタ  
 ル被告ノ行爲ハ手形偽造罪成立ノ要件ニ付キ一モ欠クル所ナキヲ以テ該行爲ニ對シ刑法第  
 二百九條第一項ヲ適用セタルハ相當ナリトス」辯護士高木益太郎辯明第一點ハ原判決主文  
 ニ「原判決ヲ取消ス被告民吉ヲ輕懲役六年ニ處ス但シ前發ノ刑ヲ本件ニ通算ス」トアレトモ  
 其通算スヘキ刑期ヲ明示セザリシハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決理由中前發

三百十四

ノ刑ハ重禁錮一年六月ナル旨ノ明記アルヲ以テ更ニ主文ニ掲クルノ要ナシ」同第二點ハ上  
 告人ハ疑キニ原院ニ於テ約束手形ヲ騙取シタル事實アリト認メラレ有罪ノ判斷ヲ受ケ既ニ  
 確定シタルコトハ其判決理由冒頭ノ記載ニ依リ明白ナリ而シテ該判決以前ニ手形ノ所持人  
 タル上告人カ右約束手形中期日ヲ記入スヘキ處ニ明治三十年九月三十日ノ文字ヲ記入スル  
 モ我カ手形法ニ於テ滿期日ヲ記載セサルトキハ其ノ手形ハ一覽ノ時ニ滿期日トナルトノ規  
 定アルヲ以テ滿期日ノ記入ハ固ヨリ手形ノ偽造又ハ變造ト認ムヘキモノニアラス而シテ該  
 所爲ハ畢竟手形騙取罪ノ結果ニ過キサルヲ以テ別罪ヲ構成スヘキモノニアラサルナリ故ニ  
 原裁判ハ據律錯誤ノ違法アルモノトスト云フニ在レトモ○滿期日ノ記入カ罪トナルヘキ理  
 由ハ被告ノ上告論旨ニ對シ説明セシ所ノ如シ而シテ手形面ノ金額ヲ領收スルハ手形騙取ノ  
 結果ニ過キスト雖モ之ヲ領收スル爲メ新ラタニ手形ヲ變造シタル行爲アルニ於テハ其行爲  
 タル則チ新ナル一罪ヲ構成スヘキモノナルヲ以テ此點ニ付テモ原判決ニ瑕瑾アリト云フヲ  
 得ス

五十一

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年七月九日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

竊盜事件

明治三十三年九月第七十號  
明治三十三年七月二日判決

(破毀)

判決要旨

取贓品ノ收取



甲者乙者ト料理店ニ於テ對酌飲酒中乙者カ金錢在中ノ財袋ヲ取落シ心附カサルニ乗シ之レヲ收取シタル所爲ハ窃盜罪ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 菊田孫藏

右竊盜被告事件ニ付明治三十三年六月五日宮城控訴院ニ於テ本件控訴ハ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ又本院檢事モ附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如ク  
上告趣意書ハ宮城控訴院ノ判決ハ據律ノ錯誤アルモノナリ追テ趣意擴張スト云ヒ上告趣意擴張書ノ要旨ハ本件ハ小野寺「トメ」ニ於テ金錢在中ノ小袋ヲ料理店島山文作方ニ於テ對酌飲酒中其座ニ取落シタルモノナルコトハ原判決理由ノ部ニ於テ明白ナリ左レハ該物品ハ島山文作ノ占有物ナリト云フヲ得ヘタレハ竊盜罪ヲ構成スルモノ、如キモ素ヨリ竊取ノ意思ナキヲ以テ竊盜罪ハ構成セス又金錢在中ノ小袋ヲ拾得シタル事實ハ相違ナキモ隱匿スルノ意思ナシ何トナレハ原判決ニ明示スル如ク遺失物ヲ拾得スルヤ否ヤ巡査出張取調ヲ爲シ

タルモノナレハ隱匿スルノ決意ヲ生セシヤ否ハ頗ル疑問ニシテ拾得ト巡査出張トノ間ニ多少ノ時間アリトスレハ或ハ所有主ニ還付スルカ又ハ官署ニ申告スルヤモ難計之ヲ決スル甚タ困難ナレトモ寧ロ隱匿ノ意思ナキモノト斷言スルヲ憚ラス元來本件ノ起因ハ深キ事情ノ存在スルモノニシテ且ツ隱匿ノ意思ナキ被告ヲシテ刑法ノ責任アリシトテ刑罰ヲ加ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前段論旨ニ付テハ本院檢事附帶上告趣意ニ對スル說明ニ讓ルヲ以テ該說明ニテ了解ス可シ後段論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告適法ノ理由ナシ

本院檢事附帶上告趣意ハ原判決ニハ被告ハ小野寺清五郎妻「トメ」ト共ニ料理店島山文作方ニ於テ對酌飲酒中「トメ」カ帶ノ間ニ挿ミ携帶シタル一圓紙幣云々在中ノ小袋ヲ其座ニ取落シ心付カサル間ニ之ヲ拾上ケ云々トノ事實ヲ認メタリ而シテ其心付カサルトハ所有者ノ占有ヲ離脱セサル状態ヲ意味シ拾上ケトハ收取シタル事ヲ云フ故ニ被告ハ「トメ」ノ占有内ニ在ル小袋ヲ收取シタルモノニシテ即チ被告カ取得シタル當時ニ於テ既ニ竊盜罪成立スヘキモノナルニ原院カ遺失物隱匿罪ヲ以テ論シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ

○因テ原判決ヲ査スルニ被告ハ明治三十三年二月二十日夜小野寺清五郎妻「トメ」ト共ニ宮城縣本吉郡氣仙沼町宇南町料理店島山文作方ニ於テ對酌飲酒中「トメ」カ帶ノ間ニ挿ミ携帶シ行キタル一圓紙幣四枚五厘銅價十三枚文久錢四枚一厘錢十二枚在中ノ小袋ヲ其座ニ取落シ心付カサル間ニ被告ハ之ヲ取得シテ同家ヲ立出テ云々ト認定シテ此事實ニ依リ之

取落品ノ收取



ヲ審按スルニ同座對酌中トシテ、於テ假令該物品ヲ其座ニ取落シタリト雖モ之レ等ハ直  
チ以テ同人ノ占有ヲ離脱シタルモノニ非サルヲ以テ之ヲ遺失物ト云フヲ得サルノミナラ  
ズ「ト」カ取落シタルコトヲ覺知セサル間ニ乘シ被告ハ竊カニ之ヲ取得シタルモノナル  
上ハ即チ他人ノ所有物ヲ竊取シタルコト明瞭ナルヲ以テ該行為ニ對シテハ須ラク竊盜罪ニ  
問攝スヘキモノナルニ原院カ遺失物法第十六條ニ依リ處斷シタルハ本院檢事附帶上告諭旨  
ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院  
ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

右

菊田 孫藏

原院カ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照ラスニ被告ノ行為ハ刑法第三百六十六條第三百七  
十六條ニ該當スルモ所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ  
二等ヲ減シ其範圍内ニ於テ處斷スヘク押收物件ハ同法第四十八條ニ依リ處分スヘキモノト  
ス依テ

被告孫藏ヲ重懲罰一月ニ處シ監視六月ニ付ス  
押收ニ係ル金錢ハ假下ノ儘小野寺「ト」ニ還付ス

明治三十三年七月二日於大審院第二刑事部公廷檢事小宮三保松立會宣告ス

●監守盜事件 明治三十三年八月二十四號 (破毀)

判決要旨

監守盜罪ヲ以テ問擬スルニ當リ被告人ニ監守ノ職責アル  
コトヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

說明

監守盜ハ官吏トシテ且ツ監守ノ職責アル者カ其ノ監守セル財物ヲ竊取ス  
ルニ由テ成立ス故ニ官吏タル身分アリト雖モ之レヲ監守スル職責ナキト  
キハ假令官ノ財物ヲ竊取スルモ監守盜ヲ構成セサル也故ニ苟モ監守盜ヲ  
以テ論セシニハ其ノ主觀的要件トシテ(一)官吏ノ身分ヲ有スルコト(二)監守  
ノ職責アルコトノ二點ヲ證明スルニアラスンハ監守盜罪ヲ以テ論スルヲ  
得サルナリ

第一審 札幌地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 山子 義令

右監守盜被告事件ニ付明治三十三年六月十五日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被  
告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ  
上告趣意ノ第一ハ原院カ「被告ハ稅務屬ノ職ヲ奉シ空知稅務署長トシテ同署ニ在勤中明治  
監守盜罪ノ要件



三百二十  
卅一年三月ヨリ同年四月迄ノ間ニ管内幾春別村井上榮次郎外四百七十九名ヨリ徵收シタル  
戸數割金二百卅七圓廿五錢云々明治卅一年三月ヨリ同年七月迄ノ間ニ在リテ空知稅務署内  
ニ於テ自己ノ監守中禮ニ之ヲ費消シタル者ナリト判斷シタルハ理由不備ナリ蓋收入官吏  
ハ國庫ノ歳入ニ屬スル徵收事務ヲ管掌スル職責アルモ地方稅收入官吏ニ於テ管掌スル職責  
ナシ然リ而シテ地方制度普通ノ方則ニ依レハ戸數割ハ全然地方自治體ノ稅源ニシテ國家ノ稅源  
ニアラサルコトハ一般ノ事理ニ屬スルカ故ニ此普及ノ事理ニ反スル戸數割ヲ以テ收入官吏ノ  
管轄トナサンニハ須ク被告ノ奉職所在地即北海道ハ戸數割カ何故ニ收入官吏ノ管掌ニ屬ス  
ル乎ノ理由ヲ附セサル可カラス然ルニ原判決ハ茲ニ出テサル瑕瑾アレハナリト云フニ在リ  
因テ按ヌルニ監守盜罪ノ成立ニハ官吏ニシテ法律上監守ノ職責アルコトヲ要ス然ルニ原判  
決ニハ當時被告ハ國稅事務ヲ管掌スル稅務署長ノ職ニ在リナカラ何故ニ戸數割ノ如キ地方  
稅ヲ徵收シ之ヲ監守シタルモノナルヤ之カ監守ノ責任アル事實ヲ判示セス職守ノ監守盜罪  
ニ問據シタルハ上告所論ノ如ク理由不備ノ不法アリテ全部破毀ヲ免レス故ニ此點ニ於テ原  
判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ上告論旨ニ付テハ逐一説明ヲ與フルノ要ナキモノトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則テ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ  
移ス

明治三十三年八月二十一日大審院休暇部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス  
●刑ノ執行ニ對スル疑議事件 明治三十三年(二)第五號 (取消)  
明治三十三年六月四日判決

判決要旨

被告人カ負擔ヲ命セラレタル公訴裁判費用ノ點ノミニ對  
シ上訴ヲナシタル場合ト雖モ其ノ上訴ヲ理由アリトシ判  
決ヲ更正シタルトキハ被告人ニ對スル刑期ノ起算ハ刑法  
第五十一條第一號ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ起算スヘキモ  
ノトス

說明

刑法第五十一條第一號ノ規定ハ被告人ノ爲シタル上訴ニシテ理由アリタ  
ル凡テノ場合ニ適用スヘキ規定ナルカ故ニ假令裁判費用ノ點ノミニ係ル  
上訴ト雖モ正當ノ理由アルトキハ則チ同條ノ適用ヲ受クヘキヤ勿論ナリ  
トス

(參照) 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起  
算ス(別法第五十一條第一號)

原 審 宮城控訴院  
被 告 人 泉 直 清

本案ハ宮城控訴院ニ於テ被告ノ控訴ニ對シ第一審判決中公訴裁判費用ノ一部ヲ取消シ其餘



ノ控訴ヲ棄却シタル判決確定ノ末刑ノ執行ニ付被告ヨリ疑義ノ申立ヲ爲シ明治三十三年二月十六日同院ニ於テ右判決ハ刑ノ言渡ニ對スル控訴ハ棄却シタルモノナレハ刑ノ執行ハ後判宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノナリトシ右疑義ノ申立ヲ棄却シタル決定ニ對シ被告ヨリ抗告ヲ爲シタルモノナリ因テ刑事訴訟法第二百九十七條ノ定式ヲ履行シ決定スルコト左ノ如シ

抗告ノ要旨ハ曩ニ原院カ言渡タル判決ハ假令公訴裁判費用負擔ノ點ノミニ付第一審判決ヲ取消シ之ヲ更正シタルモノナルモ結局被告ノ控訴ハ理由アリタルモノナルヲ以テ刑ノ執行ハ前判宣告ノ日ヨリ起算セサルヘカラス然ルニ原院カ之ニ反スル決定ヲ與ヘタルハ不當ナリト云フ在リ○因テ之ヲ審究スルニ本案ニ付曩ニ原院カ爲シタル第二審ノ判決ハ假令公訴裁判費用ニ關スル點ノミニ付第一審判決ヲ更正シタルモノナルモ荷モ之カ更正ヲ爲シタル上ハ一部更正ニ係ルト全部ナルトニ拘ラズ被告ノ上訴ハ理由アリタルモノナルヲ以テ刑法第五十一條第一號前段被告ノ上訴正當ナル時ハ云々トアルニ從ヒ其刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算セサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ後判宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノトシ疑義ノ申立ヲ棄却シタルハ失當ナリ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第三百條前段ニ從ヒ原決定ハ之ヲ取消ス本刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スヘシ  
明治三十三年六月四日大審院第二刑事部ニ於テ宣言ス

●詐欺取財事件

明治三十三年七月三十一日判決

(棄却)

判決要旨

被告ノ控訴ニ依リ第一審判決ヲ取消シタルトキハ被告ハ控訴ノ目的ヲ達シタルモノナルヲ以テ其ノ取消理由ニ不當ノ點アルヲ理由トシ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 山口地方裁判所 赤間關支部

第二審 府島控訴院

被告人 阿武專一

辯護人 高木益太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十三年三月十九日府島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シテ依テ裁判所構成法第四十一條刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ上告人ハ明治三十一年山口縣告示第七十六號種牡牛購入獎勵費下與規程ニ基キ獎勵費ノ下附ヲ受ケタルニ相違ナキモ此下附ヲ受ケタル獎勵金ハ上告人ニ於テ決シテ詐取スル念慮アリテ受取リタルモノニアラス抑モ上告人カ獎勵費ノ下附ヲ受ケタル種牡牛ハ明治三十一年十一月中土野泰輔ヨリ代金二百五圓ニテ買取ノ豫約ヲ爲シテ引連レ來リ

一審判決取消ノ理由



タルモノニシテ土野泰輔ニ於テ替リ種牡牛サヘアレハ賣渡シ吳ル、約束ナリ故ニ獎勵費下  
 附出願ノ際ニ於テハ完全ノ所有權ハ得タルモノニアラサルモ早晩上告人ノ所有ニ歸スヘキ  
 モノナリ是ヲ以テ縣廳ニ對シテ自己ノ所有ナリトシテ金員下附ノ出願ヲ爲シタルモノナレ  
 ハ單ニ金員下附ノ目的ヲ以テ假裝物ヲ持ヘタルモノニアラサレハ欺罔ノ意思アリシト云フ  
 事得ス且又上告人カ眞正ニ牡牛事業ニ從事シ之レカ蕃殖ヲ謀ラント爲シタルコトハ明治三十  
 二年七月中精田政平ヨリ牡牛一頭代金百五十圓ニテ買入レタル事跡ニ依ルモ明カナリ抑モ  
 山口縣告示種牡牛購入獎勵費下與規程ノ精神ヲ按ズルニ斯ル牡牛熱心者ヲ補助スルノ目的  
 ニ外ナラス左スレハ上告人カ該金員ノ下附ヲ受ケタルハ敢テ縣知事ヲ欺ムキタルモノニア  
 ラスシテ寧ロ其告示ノ精神ニ適當シタル行爲ト云ハサルヲ得ス假リニ數歩ヲ讓リ上告人ノ  
 行爲ヲ以テ欺罔ノ所爲ナリト看做スモ其意思ヲ推究スレハ毫モ獎勵費ヲ騙取スルノ意思ア  
 リシト云フヲ得ス然ルニ原院ハ漫然欺罔ノ事實アリテ財物ヲ騙取シタリトシテ有罪ノ判決  
 ヲ下サレタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○右ハ  
 全ク原院ノ認定ニ副ハサル事實ヲ主張シテ漫然不服ヲ唱フルニ過キス依テ上告適法ノ理由  
 トナラス

辯護人高木益太郎辯明ノ第一ハ第一審判決ノ事實理由中「明治三十一年山口縣告示第七十  
 六號種牡牛購入獎勵費下與規程アルニ乘シ——被告カ天長組代表者ノ名義ニテ明治三十  
 一年十二月十日附種牛登錄下附願ヲ山口縣知事ヘ提出シテ検査ヲ受ケタル後同月二十三日附

テ該登錄ノ下附ヲ受ケタルヨリ茲ニ於テ同月二十五日附——該獎勵費下與ノ義ヲ山口縣知  
 事ヘ申出テ爲シ右知事ヲシテ之ヲ信セシメタル末明治三十二年三月十日附ヲ以テ該獎勵費  
 金五十六圓ヲ下與セラレタル儘之ヲ騙取シタリ」ト載セアルニ依レハ被告カ犯罪實行ノ日  
 時ヲ揭ケアルモノト解セサルヲ得ス然ルニ原院決カ此點ニ對シ金員ヲ騙取シタル犯罪實行  
 ノ日時ハ果シテ何レノ年月日ナルカ知ルニ由ナキ云々ト判示シタルハ不當ニシテ如此不當  
 ノ說明ヲ第一審判決取消ノ一理由トナシタルハ法則違犯ノ裁判ナリト云フニ在リテ○要ス  
 ルニ原院カ第一審判決ヲ取消シタル理由由テ不當ナリトシテ原院決ノ破綻ヲ求ムルニアリ然  
 ルニ原院ハ被告ノ控訴ニ依リ受理審判シタル者ナレハ原院カ第一審判決ヲ取消シタル理由  
 ハ當否ニ關セズ被告ハ其控訴ノ一段ノ目的ヲ達シタルモノト云フヘシ故ニ此點ニ對シテハ  
 不服ヲ唱フヘキ筋合ニアラサルヲ以テ假令原院カ第一審判決ヲ取消シタル理由由カ本論旨ノ  
 如ク不當ナリトスルモノ之ヲ以テ被告ニ於テ上告ノ理由トナシ得ヘキモノニアラス」其二ハ  
 原院決理由ノ說明中「山口縣知事ヨリ金員ノ下與ヲ得タルハ——公共心ニ出テタルモノニ  
 シテ徒ラニ一身ヲ福セントノ慾心ヨリ事爰ニ至リタルモノニ非スト陳辯スレトモ——被告  
 專一カ——遂ニ獎勵費トシテ金五十六圓ヲ騙取シ——トノ事實ハ被告專一ノ豫審第三回訊  
 問調書第十三問ノ答ニ其旨ノ記載アリ——前記被告專一ノ自白ト是等ノ諸證トヲ綜合考覈  
 ヲ遂クルニ——前記事實ノ部ニ掲クル如ク事實ヲ認ムルニ充分ナリトス」トアレトモ右被  
 告ノ調書第十三問ノ答ニハ却テ「私ハ官ヲ欺ムキテ僅々獎勵金ヲ取ラント云フ考テハアリ

一審判決取消ノ理由



マセシト明記シテ被告ノ行働ハ決シテ騙取ノ意思ニ出タルモノニアラサルコトヲ斷言セリ故ニ原判決カ右供述ヲ尙ホ被告ニ於テ騙取シタルコトノ自白ヲナシタルモノト掲クタルハ架空ノ自白ヲ證據ニ援用シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○該圖書記事ノ趣旨ヲ解釋シテ其認定ヲ資料トセシモノナレハ要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ歸スルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決マルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年七月三日大審院第一第二刑事聯合部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

●監守盜及ヒ正數外租稅徵收事件 明治三十三年第六七二號 (藥劫)

判決要旨

- 一、公訴不受理ノ申立テアリタルトキハ裁判所ハ是レニ對シ直チニ判決ヲ下スヘキモノトス
- 二、公訴不受理ノ申立ニ對スル判決ハ實質上及ヒ形式上ニ於ケル一部判決セリトス
- 三、一部判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ其

ノ以外ニ涉リ判決ヲ爲スコトヲ得ス

說明

刑事裁判ニ於テ公訴不受理ノ申立テアリタルトキハ裁判所ハ他ノ審理ニ先チ直チニ裁判ヲ爲スヘキハ刑罰第八十六條ノ規定スル所ナリ而シテ此判決ハ一タノ事件ニ對シ公訴ヲ許スヘキ否ヤノ點ニ付キ判決ヲ下スモノナルカ故ニ之ニ對スル控訴ノ提起モ亦タ此ノ點ニ關スル復審ノ請求ニ外ナラス果シテ然ラハ此ノ場合ニ於テ控訴裁判所ノ裁判ハ其請求ノ範圍ニ限定セラレ其以外ニ涉リ裁判ヲ爲ス可ラサルヤ勿論ナリトス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 稻毛田儀藏

右監守盜及正數外租稅徵收被告事件ニ付明治三十三年五月十五日東京控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告ヲ無罪トスル旨宣渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢事長横田國臣ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本件ハ水戸地方裁判所豫審判事カ刑法第百條ヲ適用シテ處斷スヘキ三個ノ犯罪事實ニ付公判ニ移スノ決定ヲナシタルモノナルニ水戸地方裁判所ハ第一項ノミニ付審理判決シ檢事ハ其判決ニ對シテ東京控訴院ニ控訴ヲ爲シタルモノナリ抑モ刑法第百條ヲ適用スヘキ俱發犯罪ニ付同時ニ起訴ヲ受ケタルトキハ之ヲ一事件トシテ審理判決スヘキモノニ

公訴不受理ノ申立及ヒ之ニ對スル裁判ノ性質



三百二十八

シテ之ヲ分割シテ一罪毎ニ判決スルヲ得サルモノナリ即チ本件ニ於テ第一審裁判所ノ爲メ  
 タル判決ハ實質上一部ノ判決ナルモ訴訟ノ形式上ハ全部ノ終局判決ニシテ法律上事實全體  
 ナ其裁判所ヨリ脱離セシムヘキモノナリ故ニ此判決ニ對シテ檢事ヨリ控訴アリタル以上ハ  
 殊ニ此點ヲ以テ控訴ノ一理由ト爲シタル以上ハ事件全部ヲ控訴裁判所ニ歸屬スヘキモノナ  
 リ第一審裁判所ヲ實質上一部ノミニ付判決シタルコトヲ理由トシテ其一部ノミニ付審理判  
 決スヘキモノニ非ス然カルニ本件ニ於テ東京控訴院カ豫審終結決定書ノ第一項ノミニ付判  
 決シ他ノ點ニ付裁判ヲ與ヘス殊ニ檢事ヨリ全部ノ審理判決ヲ求メタルニ拘ハラズ此點ニ付  
 何等ノ判斷ヲ與ヘサルハ失當ニシテ破毀ノ理由アルモノト思料スト云フニ在レトモ○刑事  
 訴訟法第八十六條ニ依レハ公訴不受理ノ申立ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナ  
 レハ此申立アリタル場合ニ於テハ其事件ノ本案ハ勿論俱ニ發セル他ノ犯罪ニ付テモ其取調  
 前右ノ申立ニ付テ直チニ判決ヲ爲スヘキモノトス而シテ本件正數外租稅徵收事件ニ付第一  
 審ニ於テ辯護人ヨリ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルモノナレハ此場合ニ於テ同裁判所カ爲シ  
 タル判決ハ審ニ實質上ニ於ケルノミナラス形式上ニ於テモ亦其一部判決ナリ從テ檢事ノ控  
 訴モ其一部判決ニ對スルモノナルコト勿論也トス故ニ原院カ控訴理由ノ如何ニ拘ハラズ一  
 判決トシテ處斷シ他ノ犯罪ニ付何等ノ判決ヲ爲サ、リシハ相當ナルヲ以テ上告ハ理由ナシ  
 右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年六月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

六十四

商標條例違犯事件

明治三十三年七月十九日 判例三十三卷七月五日判 決 (棄却)

判決要旨

他人ノ登録商標ナルコトヲ知テ其商標ノ表示シタル卷烟  
 草ノ空函ヲ買求メ之レニ自己ノ製造シタル卷烟草ヲ入レ  
 販賣シタル所爲ハ商標條例第二十三條第一項ニ違背スル  
 モノトス

說明

本件ハ說明ヲ要セズ

(參照) 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ノ同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之レヲ販賣シタル者又ハ情

ヲ知リ其ノ商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ罰金又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(商

標條例第二十三條第一項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 仲川 金藏

右商標條例違反被告事件ニ付明治三十三年六月十三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ  
 不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル  
 コト左ノ如ク

商標條例ノ違犯



●私書偽造行使事件

明治三十三年七月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

（破産）

上告趣意書ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ判決ナリ抑モ本件ハ登録商標類似ノ商標ヲ  
 附着シタル包装容器ヲ使用シタル事實行爲ナルモ舊商標條例中之ヲ罰スヘキ明文ナク新商  
 標法ハ始メテ之ヲ規定シタレトモ法律不遑及ノ原則ニ基キ新法ノ效力ヲ及ホスヘキモノニ  
 アラス舊法ニハ正條ナキ故是亦罰スヘカラサルヤ言ヲ待タズ然ルニ原院カ有罪ノ判決ヲ下  
 シタルハ最モ不法也ト云フニ在レル○商標條例第廿三條第一項ニハ「他人ノ登録商標ナル  
 ヲトヲ知り之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者ハ云々十五日  
 以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリ而シテ原判決ノ認メタ  
 ル所ニ依レハ被告ハ「アメリカカンパニー」カ豫テ其製造ニ係ル「ビンヘット」及「  
 「オールドゴルド」ノ二種ノ烟草ニ對シ日本帝國商標條例ニ因リ商標登録ヲ受ケ居ル事實ヲ  
 知リナカラ明治三十一年十月以後其商標ノ表示アル空函ヲ買集メ禮ニ之ニ自己製造ノ香烟  
 草ヲ容レ眞正ノ「ビンヘット」及「オールドゴルド」ノ如ク裝ビ明治卅一年十二月十六日以  
 後翌三十二年一月迄ノ間ニ於テ之ヲ販賣シタル事實ナレハ即チ他人ノ登録商標ナルコトヲ  
 知り之ト同一ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ原院  
 カ被告ノ所爲ニ對シ右法條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
 明治三十三年七月五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀廉造立會宣告ス

判決要旨

無筆者タル故ヲ以テ單ニ捺印ノミヲナサシメ代署ノ手續  
 ナ爲サ、ル豫審調書ハ刑事訴訟法第二十一條ノ二ノ第三  
 項ヲ遵守セサル違法ノ調書ナリトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告 人 小野三之助 辯護 人 村松山壽

右三之助ニ對スル私書偽造行使被告事件ニ付、明治三十三年三月二十日宮城控訴院ニ於テ  
 言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ  
 履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護人村松山壽ノ上告趣意擴張書第一點ハ參考人蛭田クニ豫審調書ヲ見ルニ「右讀聞カセ  
 タル處相違ナキ旨申立左ニ署名捺印セシメントシタル處無筆ニシテ實印ナシト申立テ唯捺  
 印ノミヲ爲シタリ」トアリテ單ニ捺印ノ形跡ヲ存スルノミ元來官吏公吏ノ面前ニ於テハ本  
 人署名スルコト能ハサル場合ハ官吏公吏代署シテ其事由ヲ附記スヘキ者ナルニ前掲調書ニ  
 ハ其代署ヲ爲サ、ル者ニシテ刑事訴訟法第二十一條第二項ノ規定ニ背キタル違法ノ書類ナ

代署ヲ爲サ、ル豫審調書



レハ採テ斷罪ノ資ニ供シタル原判決ハ尖當チ免レスト信スト云フニ在リ  
因テ右調査ヲ查閱スルニ單ニ摺印セシメタルノミニシテ代署ヲ爲サルハ論旨ノ如ク刑事  
訴訟法第二十一條ノ二ノ第三項ヲ遵守セザル違法ノ調査ナレハ原院カ之ヲ採テ犯罪ノ證據  
ト爲シタルハ不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免カレヌ既ニ此點ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘキモノト  
認ムル以上ハ他ノ上告論旨ニ對シ逐一説明スルヲ要セズ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ東京控訴院ニ  
移ス

明治三十三年五月七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●詐欺取財被告事件ニ附帶スル私訴事件 明治三十二年(七)第一四一九號 明治三十三年十月四日判決 (棄却)

判決要旨

公訴不受理ノ判決ハ當然其ノ效果ヲ私訴ニ及スヲ以テ公  
訴不受理ノ理由ヲ以テ私訴不受理ノ判決ヲ下スモ理由不  
備ノ裁判ニアラス

說明

刑事裁判所ニ於ケル私訴ノ訴ハ公訴ノ訴ト相對峙スル者ニアラス公訴ニ

附帶シテ始メテ提起セラルヘキモノナルコト刑事訴訟法第四條ノ規定ス  
ル所タリ公訴ニ附帶スト云フハ附從ト其意義ヲ同フスルカ故ニ公訴ト  
私訴トノ間ニ於ケル訴訟法上ノ關係ハ常ニ主從ノ關係アルモノト云フヲ  
得ヘシ已ニ主從ノ關係アル者トセハ從ハ則チ主ニ從ノ原則ニ依リ公訴ニ  
シテ已ニ不受理ノ判決アルハ此ノ判決ハ當然私訴不受理ノ原因タルヘ  
キヤ勿論ナリトス是レ本判決ノ基本ナリトス

〔附註〕

判決ノ要旨ニ依レハ公訴不受理ノ判決ハ當然其ノ效果ヲ私訴ニ及スヲ以テ單ニ公訴不受理ノ理由ヲ以テ  
私訴不受理ノ判決ヲ爲スモ理由不備ノ裁判ニアラスト云ヘリ之レ顧ル余輩ノ觀念ト相反ス抑モ公訴ト私訴トハ  
訴訟ノ形式ヨリ考アルハ其ノ間體カニ主從ノ關係ヲ有スト雖モ其ノ實體上ヨリ觀察スルハ二者各獨立ノ  
地位ヲ有ス則チ公訴ハ或ル所爲カ社會ニ危害ヲ及シタル理由トシテ行爲者ニ刑罰ノ適用ヲ求ムルヲ以テ目的ト  
ナシ之ニ反シテ私訴ハ或ル所爲カ私人ノ私益ヲ害シタル理由トシテ之レカ回復ヲ求ムルヲ以テ目的トナス故  
ニ或ル一所爲ニ對シ公訴私訴ノ併起スルハ則チ其ノ所爲ノ一面カ社會ニ危害ヲ及スト同時ニ他ノ一面ニ於テ一  
私人ノ私益ヲ害スルニ由ル而シテ凡ソ判決ノ目的ハ原則上實體的的法律關係ヲ確定スルニアルヲ以テ如斯公訴私  
訴各其ノ實體上ノ法律關係ヲ異ニスル以上之レカ判決ニ對スル罪實及ヒ法律上ノ理由モ亦各別ノ存在ヲ要  
スルニ似タリ是レ余輩カ本件ニ對シ満足ヲ表スル能ハサル所以ナリ

東京市淺草區四三筋町五十六番地平民銀行役員

私訴上告人 水 慶 嘉 吉

秋田縣北秋田郡大館町四十二番地平民農

私訴被上告人 岩 崎 忠 一

外二名

公訴ノ裁判ト私訴ノ裁判トノ關係



右石田兼吉外二名詐欺取財被告事件ニ附帶スル私訴ノ控訴事件ニ付明治三十二年十月二十八日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ民事原告人水藤嘉吉代理人八木橋榮吉ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書第一點ハ原判決ハ本案私訴ノ附帶シタル詐欺取財事件ノ公訴ハ適法ニ成立セサルニヨリ之ニ附帶セル本件私訴モ亦タ從テ成立セサルモノトシテ本件私訴ヲ受理セスト旨渡シタルモ何故ニ主タル公訴ハ不成立ナリシヤ毫モ其理由ヲ明示セサルニヨリ上告人ニ於テハ如何ナル理由ニヨリ私訴ヲ受理セラレサルヤ之ヲ知ルコトヲ得ヌ則チ判決ノ當否ヲ鑑定スルニ由ナキ理由不備ノ判決ナリト云ヒ第二點ハ假令公訴判決ニ於テ公訴不受理ノ理由ヲ明示シタリトスルモ公訴判決ハ上告人ノ干與セサルモノナリ然ルニ原裁判所ハ私訴上告人カ之ニ干與シ該判決ノ効果ヲ受クヘキモノ、如ク説明シタルハ法則ノ適用ヲ觀リタル不注ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○私訴ハ公訴ニ附帶スルモノナルヲ以テ公訴判決ニ於テ公訴不受理ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其効果ハ當然私訴ニ及フヘキモノナルヲ以テ原院カ公訴判決ノ理由ヲ説明シテ私訴ヲ受理セスト判決シタル以上ハ理由不備若クハ法則ノ適用ヲ觀リタル不法アルコトナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件私訴上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

明治三十三年十月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀藤造立會宣告ス

●監守盜私書偽造行使事件

明治三十三年(九)第八三五號  
明治三十三年九月十七日判決

(棄却)

判決要旨

- 一、町村ノ收入役ハ府縣稅ノ納稅ヲ領收スルノ職務ヲ有ス從テ亦タ之レヲ管守スルノ職責アルモノトス故ニ收入役カ其ノ領收ノ納稅金ヲ竊取スルノ所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス
- 二、犯罪遂行ノ手段ト雖モ法律ノ明文ニ抵觸スルキハ特別ノ定メナキニ限り別罪ヲ構成ス

說明

一本項ハ説明ヲ要セズ

二本項ニ於テ刑法上一罪ナル乎數罪ナル乎ヲ區別スル標準ヲ説明スヘシ

犯罪ノ一罪ト數罪トヲ區別スル標準如何

犯罪所爲ニ二個以上ノ存在ヲ認メ而シテ是ニ對スル刑罰ノ規定各異ナルトキハ特ニ本問ノ講究ヲ待タサルモ法律上ノ論結ハ太々明カナリト雖モ若シ一個ノ所爲ニシテ同時ニ二以上ノ法文ニ抵觸スルトキハ是レ

監守ノ職責○一罪ト數罪トノ區別



ヲ以テ一罪トナス乎數罪トナス乎頗ル法理ノ分析ヲ要スルニ似タリ乞フ左ニ之レヲ説ク

凡ソ犯罪ハ法律違犯ノ所爲ナルカ故ニ如何ナル種類ノ犯罪ニモ必スヤ犯罪事實(即チ)ノ存在ヲ要スルコト論ヲ待タス然レトモ此所謂所爲タルヤ各犯罪毎ニ各別ニ併存スルヲ要セス數個ノ事實併存スルモ之レヲ濫合シテ始メテ一罪ヲ構成スル場合アルト等シク一個ノ犯罪事實モ亦タ數個犯罪ノ共同事實タルニ於テ法理上毫無妨クル所ナシ何トナレハ一且甲罪ノ事實トナリタル所爲ハ之レヲ以テ直チニ乙罪ノ事實ト爲スヲ得ストノ理ナケレハナリ然ラハ則チ一罪トテ數罪トチ區別スルノ標準ハ事實上ノ所爲カ一個ナリヤ數個ナリヤニ依テ決スヘキニアラシテ專ラ犯罪所爲ノ刑事的法規ニ抵觸スル方面カ一個ナリヤ數個ナリヤノ觀念ニ據テ決スヘキモノトナササルヲ得ス故ニ假令事實上一個ノ所爲ナリト雖モ若シ法律ニ抵觸スルノ方面數個アルトキハ則チ數罪タルト同時ニ又タ假令數個ノ所爲併存スルモ之ヲ濫合シテ始メテ一罪ヲ構成スルトキハ數罪ニアラスシテ一罪タリ要是ニ刑法上一罪ト數罪トチ區別スルノ標準ハ事實的所爲ノ一個ナルヤ數個ナルヤニ據ルニアラシテ專ラ法律違犯ノ方面ニ着眼シ其ノ一個ナルヤ數個ナルヤニ依テ定メサ

ルヲ得ス然レトモ茲ニ一ノ注意スヘキハ刑法各條中ニ獨立セル二個以上ノ犯罪所爲ヲ一箇ノ條文ニ併合シ之レヲ以テ一罪ト認ムル場合アルコト是ナリ之レ則チ本判決要旨中其ノ後段ニ特別ノ規定云々ニ該當スルモノニシテ例ハ刑法第三百九十九條第二項第二百二十八條第二百八十九條乃至第三百十二條ノ規定ノ如シ其ノ詳細ハ更ラニ他日ヲ俟テ大ニ論スル所アラントス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

公訴私訴上告人 紫村勘左衛門

私訴被上告人 日向 靖

右監守盜及私書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月十六日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決ヲ取消ス被告勘左衛門ヲ輕懲役七年ニ處ス差押金品ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴費用ハ全部被告ノ負擔トス私訴ニ付テハ原判決ヲ取消ス控訴人ハ金三百四十六圓六十五錢ヲ被控訴人ニ賠償ス可シ私訴費用ハ第一二審トモ控訴人ノ負擔トスト言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告趣意書ハ原判決ハ其認定シタル事實ニ從フモ委託金費消罪ヲ構成スルニ過キサルモノナルニ監守盜ノ罪ニ間擬シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ヲ免レサルモノト云フ

監守罪ノ構成〇一罪ト數罪トノ區別



ニ在レトモ○原判決ハ被告ハ其城縣行方郡潮來町收入役奉職中其管守ニ係ル賦錢ヲ竊取シタル事實ヲ認メタルモノナレハ此事實ニ對シ監守盜罪ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタルモノニアラス

私訴上告趣意書ニ公訴上告趣意書ニ申立ツル如ク上告人ハ納稅者ヨリ委託ヲ受ケタル金圓ヲ費消シタル實ヲ免レスト雖モ本件民事原告人ヨリ私訴ノ請求ヲ受クヘキ關レナキモノト云フニ在レトモ○前說明ノ如ク被告ハ管守ニ係ル稅金ヲ竊取シタルモノナレハ其被害者ハ本件ノ民事原告人ニ在ルヲ以テ同人ヨリ私訴ノ請求ヲ爲スハ當然ナレハ上告ハ其理由ナシ

辯護士擴張書一點ハ原判決ニ所謂娼妓賦金ハ府縣稅ニシテ市町村ハ府縣稅徵收法第一條ニ因リ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アリ而シテ同法第八條ニ依レハ市町村長ノ發スル徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人ハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ムヘキコトヲ規定ス此規定ハ納稅人ヨリ納稅ノ便宜手段トシテ其市町村ノ收入役ヲ經由スヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ法制上管理ノ職責收入役ニ存スルコトヲ明カニシタルニ非ラサルハ法文上疑ヲ容レズ副院ハ管テ町村制第七十一條ノ規定ニ關シ本條ハ町村收入役ガ町村ノ收入支出ヲ掌ルコトヲ規定スルニ止マリ町村有ノ財產ヲ管理スルハ素ヨリ町村長ノ職ニ屬スト解釋セラレタリ町村有ノ財產ニシテ猶且ツ然リ一時行政上ノ便宜ノ爲メ收入役ニ於テ徵集シ更ニ町村ノ名義ニ於テ府縣ニ納稅スヘキ府縣稅ノ如キ其管理ノ職責收入役ニコレア

ルハカラサルハ自明ノ理ナリ然ルニ上告人ニ據スルニ監守盜犯トシテ刑法第二百八十九條ヲ以テシタルハ據律ノ錯誤タルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○收入役ハ府縣稅徵收法ノ規定ニ基キ各納稅人ヨリ拂込ミタル稅金ヲ領收スル職務ヲ有スルモノナルヲ以テ已ニ職務上之レヲ領收シタル以上ハ該金ニ對シ其管守ノ職責アルコト勿論ナリトス而シテ被告ハ其管守ニ係ル令員ヲ竊取シタルモノナレハ原院カ監守盜罪ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ據律錯誤ニアラス」其第二點ハ原判決ハ漫然上告人ヲ刑法第二百八十九條ニ問擬シタレトモ果シテ同條第一項ニ依リタルモノナルカ將タ同條第二項ニ依リタルモノナルカ明カニセサルノ不法アリト云フニ在レトモ○原判決ハ被告ハ其管守スル所ノ稅金ヲ竊取シタル事實ヲ認メ刑法第二百八十九條ヲ適用シタルモノナレハ同條第一項ニ依リタルコト自カラ明カナルヲ以テ之ヲ示サ、ルモ不法ニアラス」其第三點ハ原判決ハ上告人ニ娼妓賦金竊取及ヒ私書偽造變造行使ノ二所爲アルモノトシテ各刑法第二百八十九條及ヒ第二百十條第二項ヲ適用シ同條百條ニ則テ重キ監守盜ノ罪ニ從ヒ處斷セラレタリ然レトモ按スルニ本件第二ノ所爲タル私書偽造變造ニ必須欠クヘカラサル手段ニ供セラレタルモノニ過キスレテ處分上第一ノ所爲ニ吸收セラレルヘキモノニ屬ス監守盜ヲナスニ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタル場合ノ處分ハ別ニ刑法第二百八十九條第二項ニ規定セラレ別罪ヲ構成スルヤ勿論ナリ云ヘトモ私文書ニ關シテハ別ニ何等ノ規定ナシ乃チ刑法ハ如斯場合ヲ別罪ト看做サ、ルモノナルコトヲ知ル原院カ此二所爲ニ對シ別罪トシテ法則ヲ適用シタルハ不法タリト信スト



云フニ在レトモ〇假令犯罪遂行ノ手段ナリト雖モ荷モ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テ特別ノ定キ限リハ刑ニ之ヲ問據スヘキモノナリ而シテ本件ノ私文書偽造行使ハ別個ノ犯罪行為ニシテ監守罪ニ吸收セラルヘキモノニアラス故ニ原院カ二個ノ所爲ヲ認メ刑法第百條ニヨリ處斷シタルハ相當ナリトス」其第四點ハ原判決事實認定理由ノ部ニ掲クル第四十一第四十二第四十三ノ三項ヲ檢案スルニ何レモ描改ノ痕迹ヲ印セリト旨斷シタルノミニシテ其描改ハ果シテ上告人ノ所業ニ係レリヤ否ヤヲ知ラシムルニ足ル證據ヲ示サスカクノ如キハ不當ニ事實ヲ認定シタル不法アルモノナリト云フニアレトモ〇原判決ニ列舉シタル各證據ノ理由ヲ說明シ其結尾ニ於テ前說明ノ如ク屆書中多數ハ被告ノ自筆ニ係リ若クハ被告ノ印影ヲ捺捺シタルヲ以テ被告ノ偽造變造ノ所爲ヲ確ムルニ足ルト其認メタル理由ヲ掲ケアレハ證據ニ依ラスシテ不當ニ認定シタルモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件公訴私訴ノ上告ハ之レヲ棄却ス私訴上告費用ハ被告人ノ負担トス

明治三十三年九月十七日大審院第二部刑事公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

●竊盜及官文書偽造行使事件

明治三十三年(九)第九百五十二號  
明治三十三年九月二十八日判決 (棄却)

判決要旨

郵便爲替ヲ窃取シ其ノ券面記載ノ金圓ヲ收受スルニ當リ

之レヲ變造行使シタル所爲ハ竊盜并ニ官文書變造罪ノ二罪ヲ構成ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス前判決ノ說明ヲ參照スヘシ

第一審 德島地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 吉成 經藏 辯護人 井出 勝己

右竊盜及官文書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月卅日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ辯護人井出勝己ハ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ハ本案ハ第一審裁判所ニ於テ輕罪ナリト處斷シタルヲ檢事ハ之ヲ重罪ナリトシテ控訴シ原院ハ其控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ重罪ニ問據シタルモノナリ斯ル場合ニハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ規定ニ依ルヘキハ明斷タルニモ係ハララス原院ノ處置茲ニ出テサリシハ同法ヲ適用セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇右第二百六十四條ハ第一審ニ於テ輕罪事件トシテ審判シタル場合ニ適用スヘキ規定ナリトス而シテ本件ハ第一審ニ於テ輕罪ナリト判決シタルモ其事件ハ重罪トシテ審理シタルモノナルヲ以テ原院ニ於テ刑事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ盡セハ足ルモノニシテ同第二百六十四條ヲ當行セザリシハ當然ナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

郵便爲替ヲ窃取シ之レヲ變造行使シタル者ノ處分



上告趣意擴張書第一點ハ原院ニ於テ竊盜罪ノ外尙官文書ノ變換行使罪ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリトス何トナレハ他人ノ名義ヲ以テ郵便局ヨリ金員ヲ受取ラシメタルハ假令如何ナル手段方法ヲ用ヒタルニモセヨ畢竟小爲替券在中ノ郵便信書ヲ竊取シタル結果ニ過キザレハナリ故ニ別ニ他ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○本件小爲替券ノ金圓ヲ收受スルニ付之ヲ變換行使シタル上ハ小爲替券竊取罪ノ外尙ホ他ニ犯罪ヲ構成スヘキコトハ勿論ナレハ原院カ之レヲ二罪トシテ處罰シタルハ相當ナリトス

第二點本案ノ事實ハ果シテ小爲替券其モノ、要部ヲ變換シタルモノナリト云フヘキヤ抑モ小爲替ハ其條例ノ定ムル所ニ依リ政府カ一人ヨリ全員ヲ一時預リ之ヲ或ル指定人ニ拂渡スヘキ義務ヲ負フニ過キスシテ其支拂局ノ如キハ同シク義務者タル政府ノ一部ノ事務ヲ取扱ヘキ一ノ支局ナリ果シテ然ラハ東京トアルハ大阪順慶町ト變換スルモ權義ノ創設若クハ消滅ニ干スルモノニアラサレハ決シテ要部ト云フヘカラス況ンヤ自己カ自由ニ記載シ得ヘキ受取人ノ指定ニ於テチヤ然ルニ原院ニ於テ右事實ヲ官文書變換罪ナリトシテ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト確信スト云フニ在レトモ○原判旨ニ依レハ被告ハ竊取シタル小爲替中ニ記入シアル東京ノ字ヲ大阪順慶町ト變換シ受取人無指定ナリシヲ大阪用違合資會社ト記入シ其文書ノ眞實ヲ詐リ之ヲ行使シタルモノナレハ官文書變換行使罪ヲ構成スヘキハ言フ俟タサルナリ故ニ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十三年九月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

●私印私書偽造行使事件 明治三十三年(九)第九二號 (棄却)

判決要旨

刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ依リ證憑ノ取調ヲ爲スニ當リ被告ニ向テ辨解ヲ求ムルハ被告ニ對シ不利益ナル證據ニ限ルモノトス從テ被告ニ利益ナル證據ハ之レカ辯解ヲ求メサルモ違法ニアラス

說明

被告ニ利益ナル證據ノ調査ハ之レニ辯護權ノ主張ヲ必要トセサルヲ以テ此ノ種ノ證據ヲ取調アルニ當リ被告ノ辯解ヲ求メサルモ違法ニアラサルナリ

(註) 裁判長ハ各證據ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益トナルトキ證據ヲ差出スヘキト告知スヘシ又證據物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ(刑事訴訟法第九十八條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 淺香忠五郎

右私印私書偽造行使被告事件ニ付明治三十三年六月廿九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判

證據物件ノ辯解



決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左  
ノ如シ

上告趣旨書ノ要旨ハ原院ハ本件審理ノ起頭ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサルハ法  
律規定ニ違反セリト云フニアントモ○本件ハ被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ被告ヨリ先ツ其控訴  
ノ趣旨ヲ陳述スルハ當然ノ順序ナレハ原院ニ於テ先ツ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサリ  
シハ不法ニアラス  
辯護人ノ辯明書第一點ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ニヨレハ裁判長ハ證憑物件ハ被告  
人ニ示シテ辯解ヲナサシメサルヘカラストアリ而シテ該證憑トハ明文上何等ノ制限ナキカ  
故ニ被告ノ利益ノ證憑ヲモ包含セルハ勿論ナリ然ルニ原院公判始末書中「安齊辯護人ハ此  
時書面ヲ提出シ左ニ申立ヲ爲シタリ安齊辯護人曰其書面ハ安五郎ノ利益トスルモノニシテ  
八月四日ノ公正證書ノ事ニ付テハ安左衛門ト云ハ當時發表セス忠五郎丈ト信シ居リタルコ  
トヲ證ス(中略)裁判長ハ辯護人等ヨリ提出シタル書面ヲ列席判事ト閱覽ノ後檢事ニ示シ了  
テ各差出人ニ下及シタリ」トアリテ辯護人ノ差出シタル被告人利益ノ證憑ニ付キ辯解ヲナ  
サシメサリシハ法律ニ違背セリト云フニ在レトモ○同條ノ規定ハ犯罪ノ證憑即チ被告人ニ  
對シ不利ナル證憑ハ之ヲ被告ニ示シ辯解セシムヘシトノ趣旨ニシテ被告ノ利益ノ證憑ハ之  
ヲ被告ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナキヲ以テ原院ノ手續ハ不法トセス  
同第二點ハ原院ハ公判ノ際被告ニ示サ、ル委任狀ニ通テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ

ト云フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ査閱スルニ押收目錄中封書一通ト記シタルモノニ通アリ又  
書類ニ通添ト記シタルモノ一通アリ果シテ何レカ委任狀ナルヤ判明ナラスト雖モ原院公判  
始末書ニヨレハ「裁判長ハ茲ニ於テ押收目錄列記ノ證據悉皆ヲ示シ辯解スル事アラハ申立  
目ト告ク被告忠五郎曰委任狀ノ印ハ宮城サウカ作リ押シタルモノトテ被告金之助曰ク云  
々」トアリテ被告ヨリ委任狀ニ付テ辯解シタル事跡アルニ依レハ裁判長ヨリ被告ニ示シタ  
ル證憑中委任狀モ亦之アリタルコト疑ナシ故ニ原判決ハ被告ニ示シテ辯解セシメサル證憑  
ヲ採用シタル不法アリト云フヘカラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス  
明治三十三年九月二十四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事小宮三保松立會宣告ス

●私書偽造行使并附帶私訴事件 明治三十三年(七)第九八二號 (破毀)

判決要旨

一、債務者カ債權者ヲ偽罔シ債權ノ擔保物ヲ騙取シタルト  
キハ債權者ハ期限ノ如何ニ不拘直チニ其ノ債權ノ請求  
ヲ爲シ又ハ擔保物ノ回收ヲ求ムルコトヲ得ルモ損害賠  
償トシテ公訴ニ附帶シ其ノ債權ノ元本及ヒ利息ノ請求

擔保物ノ騙取及ヒ刑法第三百九十條第二項ノ罪



チ爲スニトナ得ス  
二詐欺取財ヲ爲スニ當リ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實  
質上一罪ヲ以テ論スヘキモノトス從テ私書偽造ノ點ニ  
付キ與ヘタル裁判ハ詐欺取財モ亦々是レニ包含ス

說明

一刑事裁判所ニ於テ公訴ニ附帶シテ民事上ノ請求ヲ爲スコトヲ許スハ刑  
事訴訟法第十三條第十四條ノ規定ニ基ク賠償ノ訴ヲ除クノ外犯罪ヲ原  
由トシテ償還ヲ求ムル私訴ノ訴ニ限ル債務者カ債權者ニ提供セル債權  
ノ擔保物ヲ騙取スルモ爲ニ債權關係ハ消滅スルモノニアラサルヲ以テ  
此債權ノ請求ヲ以テ公訴ニ附帶シ刑事裁判所ニ爲スコトヲサルヤ勿論ナ  
リトス

二是レ刑法第三百九十條第二項ノ解釋ニ依テ決スルヲ得ヘシ同條項ノ規  
定ニ依レハ依テ官私ノ文書ヲ偽造又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本  
條ニ照シ重キニ從テ處斷ス下規定シ其ノ處分ノ刑ヲ直接ニ定メサルヲ  
以テ本項ノ規定ハ詐欺取財ノ手段ニ文書ノ偽造變造ノ行爲行ハレタル  
トキハ詐欺及ヒ文書偽造變造罪ノ二罪ヲ構成スルモノニアラサル乎ノ

感ナキニアラスト雖モ其ノ實然ラス本條ノ所謂云々各本條ニ照シ重キ  
ニ從テ處斷ストハ是レ詐欺ノ手段ニ文書ノ偽造變造ノ所爲アリタル場  
合ニ於テ刑罰ノ標準ヲ定メタルモノニシテ此ノ點ヲ以テ直チニ欺罪  
俱發ノ論定ヲ試ミルハ少シク大早計ノ非難ヲ免レス若シ夫レ本項ヲ解  
シテ詐欺取財ノ外文書偽造變造ノ罪ヲ構成ストハ各本條ニ照シ重キ  
從テ處斷ス一旬ハ全ク書辭ニ歸セン何トナレハ本條ノ規定ヲ待タ  
サルモ總則第百條ノ適用ニ依リ當然此ノ結果ヲ生ス可クハナリ要是  
ニ本條規定ハ刑法第三百三十五條第三百二十四條第三百四十五條等ノ  
規定ト其ノ精神ヲ同フスルモノニシテ則チ一罪ヲ以テ論スヘキモノタ  
ルナリ

第一審 山形地方裁判所鶴岡支部

第二審 宮城控訴院

公訴私訴上告人 五十嵐孝義

辯護人 村松山壽

公訴上告人 五十嵐庄三郎

私訴被上告人 岡田 竣

右被告孝義庄三郎兩名ニ對スル私書偽造行使事件並ニ之レニ附帶スル私訴事件ニ付明治三  
十三年七月十日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告孝義庄三郎ヲ各重禁錮五月罰金  
七圓監禁六月ニ處ス押收ノ豫審第一號ノ一中偽造ニ係ル部分ハ之ヲ沒收シ餘ハ其他ノ書類  
擔保物ノ騙取及ヒ刑法第三百九十條第二項ノ解



ト共ニ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用中金八圓三十二錢ハ被告孝義ノ負擔トシ被告庄三郎一名ニ關スル部分即チ再起訴以後ノ部分ハ庄三郎ノ負擔トス檢事ノ附帶控訴ハ之ヲ棄却ス被告孝義ハ庄三郎ト連帶シ民事原告人請求ノ通り金三百六十五圓七十五錢ニ其貸借當日ヨリ本件判決執行ノ日マテ百圓ニ付日歩三錢八厘ノ割合ヲ以テ遲滞ノ損害ヲ加算シ之ヲ民事原告人ニ辨濟スヘシ私訴費用中第一審分ノ半額及第二審分ハ被告孝義ノ負擔トスト言渡シタル處公訴判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ私訴判決ニ對シ被告孝義ヨリ上告ヲ爲シタリ又原院檢事長川目亨一ハ被告庄三郎ニ對スル公訴判決ニ對シテ上訴ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告孝義ノ上告趣旨書第一點ハ本件ニ於テハ金三百六十五圓七十五錢ノ借用證書(豫第一號ノ一)中五十嵐喜七五十嵐兵右衛門菅原平五郎ノ氏名ヲ記入スルニ方リ自分カ關係シタル所アリヤ否ヤヲ判定スルコトヲ要ス而シテ原判決ノ說明ニヨレハ右ノ記入ハ皆相被告庄三郎ノ取計タル所ニ係リ自分カ庄三郎ヲシテ斯クナサシメタリトスル事實アルコトナシ果シテ然ラハ自分ニ於テハ刑事上何等ノ責任ナク又民事上何等ノ賠償義務ナキヤ明白ナル筋合ナリトス故ニ原院カ自分ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘ又損害ノ賠償ヲ命シタルハ失當ナリト信ス尤モ原判決中自分並ニ庄三郎ハ共謀シタル旨記載シアルモ共謀トハ如何ナル事ヲ云ノ意ナルヤ知ルニ由ナキヲ以テ結局損益スル所ナシト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ依レハ被告孝義庄三郎ノ兩名ハ共ニ私書ヲ偽造行使セシメト謀リ庄三郎ニ於テ右共謀ニ基キ

私書ヲ偽造シ之ヲ行使シタル事實ナレハ孝義ハ自カラ手ヲ下シテ文書偽造行使セスト雖モ共謀者ノ一人庄三郎ノ手ニ依リ其犯罪ヲ實行シタル者ナレハ固ヨリ其罪責ヲ免カレサルヲ以テ原院カ被告ニ對シ私書偽造行使ノ罪アリトシテ處斷シタルハ相當ニシテ公訴ニ關スル本論旨ハ理由ナシ其私訴ニ關スル點ハ第二點ノ說明ニ讓ル  
被告孝義ノ辯護人村松山壽ノ擴張書第一點ハ原判決ハ證人若生富治ノ豫審調書ヲ斷證ニ供セラレタルモ右調書ハ五十嵐庄三郎被告事件ノ證人調書ナリトセンカ同人ト民事原告人トノ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ訊問セサル者ナリ而シテ右ハ庄三郎孝義兩名ニ對スル被告事件ノ調書ナリトセンカ原院ハ之ヲ被告ニ讀聞クサル者ナリ即チ無効ノ證人調書ヲ斷證ニ供シタルニアラザレハ讀聞クサル證據ニ因リ斷罪シタル者ニシテ原判決ハ失當ヲ免カレズト信スト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ閱スルニ證人若生富治豫審調書ヲ朗讀シタル旨ノ記載アレハ同人ノ豫審調書ハ總テ之ヲ朗讀シタルコト明カナリ而シテ庄三郎被告事件ノ同人豫審調書ニ依レハ「問五十嵐庄三郎ト刑事訴訟法第二百二十三條各項ノ關係ナキカ此時判事ハ該條ノ各項ヲ說示シタリ答關係ナシ」トアリテ用語妥當ナラサルノ嫌アリト雖モ刑事訴訟法第二百二十三條ノ各項ヲ說示シ其干係ノ有無ヲ問ヒタル以上ハ即チ民事原告人トノ干係ヲ問ヒタルコト亦疑ヲ容レサルヲ以テ右調書ハ不法ニアラス故ニ本論旨ハ總テ其理由ナシ

同第二點ハ籍葉信吉五十嵐兵左(左ハ右ノ誤ナラン)衛門同喜七菅原平五郎豫審調書ハ原院

擔保物ノ攝取及ヒ刑罰法第二百九十條第二項ノ罪



ニ於テ被告大ニ讀聞クサル者ナリ故ニ之ヲ斷證ニ供シタル原判決ハ失當ノ裁判ナリト信ス  
ト云フニ在レトモ○原院公判決始末書ニ依レハ「次ニ田中榮次西村庄左衛門稻葉新(新ハ  
信ノ誤記ト認ム)吉福本隆義五十嵐兵右衛門菅原平五郎五十嵐喜七小池榮城伊藤治助被告  
孝義ノ原公判始末書及ヒ云々岡田俊ノ各豫審調書原公判始末書等ヲ朗讀セリ」トアリ而シ  
テ訴訟記録中信吉兵右衛門平五郎喜七等ノ豫審調書アルモ同人等ノ公判始末書アルコトナ  
クレハ原院公判始末書ノ記載ハ「被告孝義」ノ上ニ「豫審調書」ノ數文字ヲ遺脱シタルモノニ  
シテ同人等ノ豫審調書ヲ朗讀シタルヤ明カナレハ本論旨亦謂レナシ

第三點ハ原院ハ「證人岡田俊ヲ被告庄三郎ニ對スル事件ノ豫審調書」ヲ斷證ニ供セラレタリ  
然レトモ同人ハ明治三十二年十月中本件ノ民事原告人トナリ右調書ノ日附即チ同三十三年  
二月十七日ニハ證人タル資格ナキ者ナリ而シテ現ニ參考人トシテ取調ヲ受ケタル者ナルニ  
原判決ノ如ク之ヲ證人調書トナシ罪證ニ供セラレタルハ失當ノ裁判ナリト信スト云フニ在  
レトモ○原判決ニ證據トシタル證人岡田俊ノ豫審調書ハ同人カ未タ民事原告人トナラサル  
以前ノ調書ニ係リ論旨ニ擧グル所ノ明治三十三年二月十七日ノ調書ニアラサルヲ以テ原判  
決ハ失當ニアラス

同第四點ハ原判決ハ「庄三郎ニ對スル事件證人木村正ノ豫審調書」ヲ斷證ニ供セラレタルモ  
該調書ニヨレハ豫審判事ハ同人ト本件民事原告人間ノ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ訊  
問セサル者ナリ故ニ該調書ハ證據ノ效ナキヲ以テ之ヲ採用シタル原判決ハ失當ノ裁判ナリ

ト信スト云フニ在レトモ○同人ノ豫審調書ヲ閱スルニ第一點ニ於テ說明シタル若生富治ノ  
豫審調書ト同シク「問五十嵐庄三郎ト刑事訴訟法第二百二十三條各項ノ關係ナキヤ」トアルヲ  
以テ民事原告人トノ關係モ亦之ヲ問查シタルヤ明カナレハ本論旨ハ相立タス

被告孝義ノ上告趣意書第二點ハ本件ノ私訴ハ自分等ニ於テ偽造證書ヲ行使シ擔保品ヲ取戻  
シタル故ヲ以テ損害ノ賠償ヲ求ムト云フニ在リ而シテ擔保品ノ詐取ハ或ハ期限到來ノ原因  
タル可ク或ハ新ニ擔保ヲ求ムルノ原因タル可シト雖モ貸借ノ關係ヲ全然滅却セシムルノ效  
力ナキモノナレハ損害賠償ノ訴權ヲ發生セサルヤ論ナキ所ナリトス何トナレハ債權者ハ貸  
付タル元利金ノ外ニ別ニ損害ヲ受クルノ謂ハレナキヲ以テナリ故ニ民事原告人ノ請求ハ  
本來失當ヲ免レサルモノトス又原院ハ自分等ニ於テ債務ノ履行ヲ免レタルヲ以テ損害ヲ賠  
償セサル可カラスト判決シタルモ遺ハ元來民事原告人ノ訴旨ニ副ハサル判決ニシテ其理由  
ニ於テ失當タルノミナラス貸金返濟ノ不履行ハ爲メニ損害賠償ノ訴權ヲ發生セサルコト明  
白ノ筋合ナルヲ以テ原判決ハ結局夫當ヲ免レスト思料ス加フルニ金參百六十五圓七十五錢  
ハ金參百貳拾圓ニ對スル元利金ノ合計ニシテ謂フ所ノ偽造證書ニヨリ初メテ生シタル金額  
ナルヲ以テ此金額ノ全部ニ對シ更ニ日歩三錢八厘ノ利子ヲ付スヘシトノ判決ハ偽造證書ノ  
行使ヲ以テ義務不履行ノ事實ナリトスル前段ノ判旨ト正シク矛盾スルノ不法アルモノト信  
スト云フニ在リ

因テ按スルニ本件ノ私訴ハ民事原告人ニ於テ被告等ノ偽計ニ陥リ抵當物ヲ奪ハレタルヲ以  
擔保物ノ攝取及ヒ刑法第三百九十條第二項ノ解



テ其損害賠償トシテ被告等ニ對スル貸金ノ元利ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如ク債務者ノ行為ニ因リ債權者ヲシテ擔保ヲ失ハシメタル場合ト雖モ貸金ノ債權ハ依然トシテ存在スルヲ以テ債權者ハ爲メニ貸金ノ元利ヲ損失シタルモノト云フヘカラス唯債權者ハ擔保ヲ失ハタルカ爲メ債務不履行ノ場合ニ損害ヲ被ルノ虞アルヘキヲ以テ直ニ貸金辦濟ノ請求ヲ爲スヲ得ヘク或ハ擔保物ノ回收ヲ求ムルヲ得ヘシト雖モ損害賠償トシテ公訴ニ附帶シ貸金ノ元利ヲ求ムルハ固ヨリ失當ノ請求ト云ハサルヘカラス然ルニ原院カ其請求ヲ理由アリトシテ被告ニ其辦濟ヲ命シタルハ不當ノ判決ニシテ本論旨ハ其理由アリ已ニ此點ヲ以テ私訴ニ對スル原院判決ヲ破毀スル以上ハ私訴ニ干スル他ノ論旨ニ付説明スルノ要ナシ

原院檢察長ノ上告趣意書第一點ハ本案ハ原院判決ノ認ムル如ク被告庄三郎ト相被告孝義ト共謀シ債權證書ヲ偽造シ右偽造證書ヲ以テ庄内銀行ヨリ被告等ニ係ル債務ノ擔保ニ供シ同行支配人岡田淺ヲ欺キ前ニ右債務ノ抵當(質物ノ意)トシテ同銀行ニ差入レ置キタル麥酒及ヒ葡萄酒ヲ取戻シ抵當替ヲ爲シタリト云フニ在リテ詐欺財産ノ所爲ハ元ト私書偽造行使ノ所爲ト實質上一ノ罪ヲ構成スヘキモノナレハ曩ニ本案ニ付山形地方裁判所鶴岡支部カ與ヘタル再起訴許可ノ決定モ亦本案全部ニ付與ヘタルモノナルハ明白ニシテ再起訴許可ノ決定ニ於テ特ニ詐欺取財ノ點ニ付起訴ヲ許サストノ明示ナキ以上ハ詐欺取財ノ點モ亦許可決定ニ包含セラレタルモノトスト解スルハ當然ナルニ本院ハ其判決理由中「又庄三郎ニ對スル再起訴ヲ許スノ決定モ亦孝義ニ對スル判決理由ニ基キタルモノナレハ已ニ確定シタル詐欺

取財ノ點モ亦併セテ復起セシムルノ趣旨ニ非サルヤ明ナリ云々」ト説明シ詐欺取財ノ點ニ付再起訴ノ許可ナキモノト爲シタルハ再起訴許可ノ範圍ヲ不當ニ限定シタルモノト謂ハサル可ラス加之本院ハ右許可決定カ孝義ニ對スル判決ニ基キタル理由トシ右ノ如ク許可ノ範圍ヲ制限スヘキモノト爲シタルハ最モ不當ナリ蓋シ孝義ニ對スル判決書ハ檢事ヨリ再起訴ヲ求ムル爲メ本件ノ新證據トシテ同支部ニ提出シ同支部モ亦之ヲ證據トシテ再起訴ヲ許スル爲メ判斷ノ資料ト爲シタルモノニシテ判決書自體ハ本案全部ニ付起訴ヲ許スヘキ新證據タルニ止マリ特ニ再起訴許可ノ範圍ヲ減縮セシムル材料タルヘキモノニ非ス故ニ許可決定カ該判決ニ基キタレハトテ直ニ詐欺取財ノ點ハ許可ナキモノト解スルヲ得ス若シ該判決カ許可ノ範圍ヲ制限スヘキ理由トナリタルモノトスレハ特ニ其理由ヲ説明セサル可ラス然ルニ原院ハ此點ニ付何等ノ説明ヲ與ヘサルハ裁判ニ理由ヲ付セサル失當アルモノト謂ハサル可カラスト云フニ在リ

因テ原院判決ヲ關スルニ被告庄三郎ハ被告孝義ト共謀シテ證書ヲ偽造シ之ヲ庄内銀行支配人岡田淺ニ交付シ以テ被告等カ同銀行ニ對スル債務ノ擔保ニ供シタル麥酒及葡萄酒等ヲ取戻シタル事實ナリ而シテ本訴訟記録ヲ査閱スルニ初メ鶴岡支部檢事ハ本件被告庄三郎ニ對シテ私印私書偽造行使詐欺取財ノ罪アリトシテ豫審ヲ求メタル處同支部豫審判事ハ被告カ私印私書偽造行使ノ犯罪ノ證據十分ナラスシテ免訴ノ旨渡ヲ爲シ詐欺取財ノ罪ニ付テハ別ニ免訴ノ旨渡ヲ爲サ、リシト雖モ詐欺取財ヲ爲スニ因リ私書ヲ偽造行使シタルトキハ實際上ニ



罪ニシテ二罪ニテナルヲ以テ已ニ私書偽造行使罪ニ付免訴ノ言渡ヲ爲シタルトキハ之ト  
 實質上一罪タルヘキ詐欺取財罪モ亦共ニ免訴ノ言渡中ニ包含スルモノト云フヘク隨テ同支  
 部檢事ノ再起訴許可決定請求並ニ之レニ對スル同支部ノ再起訴許可決定モ共ニ被告庄三郎  
 カ私書偽造行使事件ノミヲ表示スルモ之亦同一ノ理由ニ依リ詐欺取財事件ヲ包含スルモノ  
 ト云ハサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ再起訴ヲ許ス決定中ニ詐欺取財事件ヲ包含セストシ  
 テ檢事ノ附帶控訴ヲ棄却シタルハ失當ニシテ上告論旨ハ其理由アリ已ニ此點ニ付原判決ヲ  
 破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ檢事長ノ他ノ上告論旨及被告庄三郎ノ上告論旨ニ對シテハ  
 一々說明ヲ與ヘス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ被告孝義ノ公訴上  
 告ハ之ヲ棄却シ同第二百八十六條ニ依リ被告庄三郎ニ對スル原判決ヲ破毀シ事件ヲ函館控  
 訴院ニ移シ同第二百八十七條ニ依リ私訴判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ  
 民事原告人ノ請求相立タス  
 私訴費用ハ總テ民事原告人ノ負擔トス  
 明治三十三年九月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事古賀隆造立會宣告ス

●新聞紙條例違犯事件

明治三十三年(レ)第一〇二一號  
明治三十三年十月十一日判決 (破毀)

判決要旨

一新聞紙條例第三十三條ノ所謂風俗ヲ壞亂スル事項トハ世

人ヲシテ一見羞耻厭惡ノ感情ヲ起サシムヘキ猥褻ノ記  
 事ニシテ善良ノ風俗ヲ破壞スルモノヲ謂フ  
 二善良ノ風俗ヲ破壞スルモノナルトキハ其ノ記事ノ直實  
 ナルト否トヲ問フヲ要セス  
 三醜行者ノ何人ナル乎ハ風俗壞亂罪ノ成否ニ關係ナキヲ  
 以テ其ノ氏名ヲ判決文ニ揭示セサルモ理由不備ノ判決  
 ニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ懲罰額又ハ二十  
 圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

東京市京橋區三拾間堀二丁目一番地平民

高初報發行兼編輯人

被告 人 田中市太郎

四十五年

右新聞紙條例違反被告事件ニ付明治三十三年七月十八日東京控訴院ニ於テ控訴棄却ヲ言渡  
 シタル判決ニ對シ原院檢事長横田國臣ハ上告ヲ爲シ本院檢事ハ附帶上告ヲ爲シタリ依テ刑

新聞紙條例第三十三條解



事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ  
 上告趣意ハ被告人ヨリ萬朝報ニ發行兼編輯人トシテ該新聞ニ「俳優ト婦人」ト題シ掲記シタル  
 事項ハ一面ニ於テ社會ノ風俗ヲ壞亂シ一面ニ於テハ社會ノ秩序ヲ壞亂スル記事ナリト思料  
 ス第一ニ風俗ヲ壞亂スルモノハ猥褻事項ニ外ナラス原判決ニ認ムルカ如ク「今ノ俳優ハ恰  
 モ藝妓カ者ヲ嚮テ營業ノ如クスルト一般婦人ヲ墮落セシメ之ヨリ金ヲ吸取ルニ勉ム」ト  
 論シ「上ハ顯官ヨリ下ハ一商賈ニ至ル者ノ妻妾後家處女等カ俳優ニ狎レ竊ニ侍合又ハ料理  
 店ニ於テ俳優ト姦通シ或ハ私通シタル實例一ヲ連續掲記シタルハ男女異性ノ交通ニ關シ現  
 時ノ風教上ノ觀念ニ墮ミレハ世人ヲシテ耻辱厭惡ノ感情ヲ惹起セシムルニ足ルヲ以テ猥褻  
 事項ノ掲記ナリ或ハ現時ノ社會ニ於テ上記ノ如ク惡風現ニ行ハル、ヲ以テ右記事ハ風俗ヲ  
 壞亂スルモノニ非スト爲スカ如キハ其標準ヲ誤リタルモノナリ何トナレハ法律ニ於テ保護  
 スル風俗ハ社會ニ存スル善良ナル美風ニシテ上記ノ如キ惡習ハ是レ即チ猥褻事項ニ屬シ社  
 會ノ善良ナル風俗ヲ壞亂スルモノナリ此惡習ノ事例ヲ連續掲記スルモ亦風俗ヲ壞亂スルモ  
 ノト謂ハサル可カラス要之風俗ヲ壞亂スルトキハ善良ナル美風ヲ破壞シ又ハ破壞スルノ危  
 險アルコトヲ指シタルモノニシテ之ヲ破壞スル原因ハ世人ヲシテ耻辱厭惡ノ感情ヲ惹起セ  
 シムル猥褻事項ナリ本件記事ハ乃チ之ニ屬ス第二ニ社會ノ秩序ヲ壞亂スル事項ハ法律上  
 ノ平和ヲ侵害シ又ハ侵害スルノ危險アルモノニシテ社會公衆ヲシテ或ル利益ニ付法律ノ保  
 護ヲ受タルヲ得サルカ如キ不安ノ念ヲ生セシムルヲ云フ原判決ニ認ムル如ク上ハ顯官ヨリ

下ハ一商賈ニ至ルマテノ妻妾後家處女等カ俳優ニ姦スル者ノ人名ヲ指示シテ連續掲記スル  
 ハ上顯官ヨリ下商賈ニ至ル者ハ勿論其他ノ公衆ヲシテ其地位及名譽ニ付法律ノ保護ナキ不  
 安ノ念ヲ懷カシムルモノナリ本件ハ新聞紙條例第三十三條ニ該當スルコト上述ノ如クナル  
 ニ原判決ニ於テ之ニ據セサルハ據律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在リ  
 依テ新聞紙條例第三十三條ヲ案スルニ社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルト  
 キハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ廿圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ストア  
 リ而シテ原判決ニ認ムル如ク俳優カ婦人ヲ墮落セシメ之ヨリ金ヲ利得スルノ實例トシテ上  
 顯官ヨリ下ハ一商賈ニ至ル者ノ妻妾後家處女等カ俳優ニ狎レ竊ニ侍合又ハ料理店等ニ於テ  
 俳優ト姦通シ我ハ私通シ居ルモノアル旨ヲ以テ一々其事項ヲ指示シ數號ノ紙上ニ連續掲記  
 發行シタリトスレハ其記載ノ事項ハ世人ヲシテ一見羞耻厭惡ノ感情ヲ起サシムヘクシテ猥  
 褻ノ記事ニ外ナラサレバ善良ナル風俗ハ之カ爲メ破壞セラル、モノト謂ハサルヲ得、故ニ  
 被告ノ所爲ハ前記法條ノ所謂風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルモノトス然ルニ原院カ法律  
 上罪トナラストテ無罪ヲ言渡シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス  
 本院檢察ノ附帶上告ノ趣旨ヲ要スルニ本件ノ記載事項中姦通若クハ私通シタリトスル人ヲ  
 指摘シテ之ヲ明示スルニ非レハ新聞紙條例第三十三條ヲ適用ス可キ事實ヲ具備シタルモノ  
 ニアラス然ルニ原判決ハ其人名字省略シタルヲ以テ理由不備ナリト云フニ在レトモ前段說  
 明スル如ク原判文ニ記載スル所ニ依リ本件新聞紙所載ノ事項カ善良ナル風俗ヲ害スヘキ事



實アルコト明カナル以上ハ履行アリトスル人ノ如何ハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ヲ有セサルヲ以テ原判文ニ其氏名ヲ掲擧セサルモ理由不備ナシトス  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

右

田中市太郎

原判決ニ認定シタル事實ニ依リ被告ノ所爲ハ新聞紙條例第三十三條ニ該ルヲ以テ全法條ニ依リ輕禁錮五月ニ處ス

押收ノ新聞紙廿枚ハ差出人ニ還付ス

●窃盜及監視規則違反事件

明治三十三年(九)第九五四號  
明治三十三年九月二十八日判決

(棄刑)

判決要旨

檢事カ刑事訴訟法第二百十八條第二項ニ依リ爲スヘキ被告事件ノ陳述ハ第二審ノ公判ニ適用スヘキノニアラス

說明

檢事カ刑事訴訟法第二百十八條第二項ニ基キ公判開始ノ始メニ於テ爲スヘキ被告事件ノ陳述ハ辯論ノ終リニ爲スヘキ意見ノ陳述ト其ノ性質ヲ同

マセズ則チ檢事カ辯論ノ終リニ爲スヘキ意見ノ陳述ハ其ノ目的トナル處專ラ判事ノ判斷ノ資料ニ供スルニアリト雖モ辯論開始ニ際シ爲スヘキ被告事件ノ陳述ハ則チ之レト異ナリ判事ニ向テハ審判ノ範圍ヲ指示シ被告ニ對シテハ攻撃防禦ノ範圍ヲ知ラシムルヲ以テ目的トナス故ニ此ノ點ヨリ觀察スルトキハ辯論開始ニ於ケル檢事ノ陳述ハ第一審ニ止マラス第二審以上ニ於テモ亦之レヲ要スルヤ論ヲ待タヌ大審院ノ判決茲ニ出テサルハ少シ遺憾ノ法理ニ抵觸スル所アルカ如シ

(參照) 檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ(刑事訴訟法第二(百十八條第二項))

第一審 福岡地方裁判所久留米支部

第二審 長崎控訴院

被告人 森 福太郎

右竊盜及監視規則違反被告事件ニ付明治三十三年六月三十日長崎控訴院ニ於テ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮四年監視一年ニ處シ贓物ハ假下ノ儘所有者ニ還付スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要ハ第一原判決ノ事實ニ依レハ被告ハ被害者ノ店頭ニ至リ反物ヲ買入ル、如キ體ヲ示シ反物ヲ差出サシメ之ヲ持去リタルモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキニ竊盜ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○店頭ニ反物ヲ差出シタルハ被告ニ交付シ

第二審ニ於ケル公判開始ノ方式



タルモノニ非サルヲ以テ竊カニ之ヲ取去リタル所爲ハ竊盜ニシテ詐欺取財ニアラス』第二  
贓物ヲ返還スルニハ刑法第四十八條ヲ適用スヘキニ何等ノ法律ヲ適用セザルハ不法ナリト  
云フニ在レトモ○贓物還給ノ旨渡ハ刑ノ旨渡ニアラサルヲ以テ其適條ヲ明示セザルモ不法  
ニアラス』第三原院ハ第一審判決ヲ取消スニ當リ第一カ審重禁錮二年ヲ旨渡シタルハ何故  
ニ失當ナルカヲ明示セザルハ不法ナリト云ニ在レトモ○原判決ニハ本件被告ノ所爲ニ對シ  
テハ重禁錮四年ニ處スヘキモノナルコトヲ判示シタルヲ以テ第一審判決ノ失當ナル理由ハ  
明示シアルモノト謂ハサルヲ得ス』第四原院ハ公判開廷ノ際檢事ヨリ被告事件ノ陳述ナキ  
ニ拘ラス事實ノ取調ニ取掛リタルハ刑事訴訟法第二百十八條第二項ニ背反スル不法ノ判決  
ナリト云フニ在レトモ○同條規ハ第一審公判ニ適用ス可キモノニシテ第二審公判ニ適用ス  
ヘキモノニアラス

同辭明書ノ要ハ第一原判決中前科ノ部ニ明治三十一年八月竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月同  
三十二年八月贓物收受罪ニ依リ重禁錮六月ニ處セラレタルモノトセリ然ラハ其主刑滿期ハ  
共三十二年二月ナリ然ルニ被告カ竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月ニ處セラレタルハ三十一  
年八月ニアラスシテ同年十二月ナルコトハ一件記録及原判文中「本年五月十一日主刑滿期  
云々トアルニ依リテ明瞭ナレハ原判決ハ前後理由ノ齟齬ヲ免カレスト云フニ在レトモ○原  
判決ヲ閱スルニ被告カ竊盜罪ニ依リ重禁錮一年六月ノ處分ヲ受ケタル年月ハ三十一年十一  
月トアルヲ以テ其滿期ハ三十三年五月ニ當リ而シテ贓物收受罪ハ竊盜罪ノ餘罪ニ係リ輕キ

ヲ以テ不問ニ付セラレタルコトハ一件記録中犯罪人名標抄本ニ照シ明白ナレハ本論旨ハ謂  
レナシ』第二原判決前科ノ部前段ニハ三十一年八月ニ重禁錮一年六月ニ處セラレタルモノ  
ノ如ク後段ニハ三十二年八月ニ贓物收受罪ニ依リ重禁錮六月ニ處セラレタルカ如ク判示シ  
アリテ最初ノ刑期內即在監中ニ贓物ヲ收受シタルカ如ク判定シ之ヲ以テ本件ノ證據トシ事  
實ヲ認定シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○贓物收受罪ハ竊盜罪ノ餘罪ナルコトハ前項  
ノ說明ニ依リ明瞭ナレハ本論旨モ亦謂ハレナシ』第三本件ノ贓物ハ中村廣吉ヨリ買受ケタ  
ルコトハ一件記録ニ依リ明白ナルヲ以テ刑法第三百九十九條ヲ適用處斷スヘキモノナルニ  
竊盜罪ト認定シタルハ擾律ノ誤錯ナリト云フニ存レトモ○事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬ス  
ルヲ以テ他ヨリ容喙スルコトヲ許サス』第四原院ニ於テハ證據物件及證據書類ヲ取調ヘタ  
ル毎ニ被告ニ意見ヲ問ヒ且ツ利益トナルヘキ證據ヲ差出ヌヲ得ルコトヲ告知スヘキニ此手  
續ヲ爲サリシハ失當ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ檢スルニ右手續ヲ履行シ  
アルヲ以テ本論旨ハ謂レナシ

同辭明書ト要スルニ被告ハ第二ノ事實ヲ司法警察官ニ對シ陳述シタルコトナケレハ聽  
取書ハ警察官ノ遺ニ作製シタルモノナリ又其調書ハ宣誓ナクシテ作りタルモノナレハ法律  
上證據トナルヘキモノニ非ス然ラハ本件ノ反物ハ竊取シタルモノナルヤ購買シタルモノナ  
ルヤ明白ナラサルニ竊盜罪トシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ原院  
ノ職權ニ存スル證據判斷ノ批難ニ屬シ又司法警察官カ被告ノ陳述ヲ聽クニハ宣誓ヲ爲サシ



ム可キモノニアラサルヲ以テ總テ上告ノ理由トナラス  
第二辯明書ヲ要スルニ原院カ第一審判決ヲ取消シ被告ノ不利益ニ變更セラレタルハ檢事ノ  
附帶控訴ニ基キタルモノナレハ附帶控訴ノ理由アルハ勿論ナルモ被告ノ控訴モ亦理由アリ  
ト說明シナカラ其理由ノ在ル所ヲ示サ、ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告ノ控訴及檢  
事ノ附帶控訴ハ共ニ第一審判決ノ全部ニ對スル攻撃ナルヲ以テ尙モ第一審判決ニ瑕疵アリ  
テ之ヲ取消ス以上ハ其控訴ハ共ニ理由アリト論決セサルヲ得ス故ニ原判決ニ「檢事ノ附帶  
控訴ハ理由アルモノトス從テ被告ノ控訴モ理由アルニ歸ス」ト掲クアル以上ハ被告ノ控訴  
ノ理由アル理由ヲモ亦說明シアリテ上告所論ノ如キ不法ノ廉アルコトナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ駁却ス  
明治三十三年九月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事與宮正治立會宣告ス

司法行政判例彙報第十一卷刑事判例大尾



司法行政判例彙報第拾壹卷總目錄 行政之部

- 村會議員當選無効ノ訴……………一
- 選舉名簿ニ存録セラレザル者ノ被選舉權
- 町村制第十八條ノ解
- 不當裁決及違法處分取消ノ訴……………四
- 將集積置スヘキ學校ノ爲メニスル學校基本財産ノ設置
- 中學校令適用ノ範圍
- 酒場不當處分取消ノ訴……………二
- 酒場免許ノ取消命令
- 不當處分取消命令……………六
- 學校基本財産積立ノ爲メニスル賦課徴收
- 給料請求事件……………三〇
- 町村組合ノ規定事項
- 給料ノ性質
- 手當ト給料トノ區別
- 町村會選舉効力ニ關スル訴……………二四
- 一々ノ選舉ニ關シ二個ノ訴願併起セル場合ニ於テ選舉効力ノ確定時期
- 不當裁決取消ノ訴……………六
- 被選人ノ氏名ヲ假名交リニテ記シタル投票ノ効力
- 不法命令取消工事復舊請求事件……………三
- 明治八年大政官達第廿九號ノ効力
- 警察命令ニヨル所有權制限ノ程度
- 火藥賣買營業禁令命令取消ノ訴……………五

- 禁煙禁止ノ性質
- 刑法上ノ制裁ト行政處分ニ基ク制裁ト性質上ノ差異
- 水車用河水引用ノ許可取消訴願ニ對テ妨訴抗辯……………四〇
- スル不當裁決取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯ノ方式
- 行政訴訟ノ方式
- 不當裁決取消ノ訴……………四
- 郡會議定權ノ範圍
- 村稅中元金償還及ニ關スル請求ノ訴……………四九
- 村稅中元金償還及ニ關スル全部納稅額適用
- 不法ナル課稅ノ補正
- 官民未定地査定事件不法處分取消ノ訴……………五三
- 民有地編入ノ標準
- 不當裁決取消ノ訴……………五
- 町會議決權ノ範圍
- 礦業特許取消ノ訴……………六〇
- 處分命令ノ効力發生時期
- 縣稅賦課更正ニ對スル裁決不服ノ訴……………六九
- 町村ニ於テ徵收スル府縣稅ノ財源
- 堰堤取拂命令取消事件……………七三
- 水車ノ新設ト堰堤設置トノ關係
- 不當裁決取消事件……………六
- 選舉期日ノ變更ノ事件
- 石炭試堀認可取消ノ訴……………八一



○府縣ニ對スル州區ノ出願	九
●縣參事會裁決不服ノ訴	九
○町村制第十九條ノ意義	
○二級選舉ヲ一級選舉ノ以前ニナス法律上ノ理由	
○二級選舉ノ終サラル以前ニ一級選舉ヲ開始シタル場合ニ於ケル一、二級兩選舉ノ効力	
●村會議員違法選舉取消ノ訴	八
○選舉事務補助ノ爲メ選舉掛以外ノ選舉無資格者ヲ入掛セシメタル選舉ノ効力并ニ其無資格ノ補助ヲ以テ調整シタル選舉ノ効力	
○町村制第七條中ノ所謂獨立ノ男子ノ意義	
○二級選舉ノ無効カ一級選舉ニ及ス影響	
●不當裁決取消ノ訴	九
○府縣制第六條第八號ノ解	
●區段賦課命令取消請求ノ訴	九
○町村内ノ一部ニ於テ專用スル營造物ノ費用負擔	
●村稅違法課賦取消ノ訴	九
○町村制第九十四條ノ解	
●村會議員選舉効力ノ訴	一〇
○投票ノ數ト選舉人員ト符合セザル選舉ノ効力	
●營業稅不當賦課ニ對スル訴	一〇
○庶賦營業者ニ對スル課稅	
●村會議員選舉取消ノ訴	一一
○選舉資格ヲ確定スル時期	
○選舉人ノ階級ヲ誤マリタル選舉ノ効力	
●縣會議員當選無効ノ決定不服ノ訴	一一
○同一ノ事項ニ對シ同一ノ請求目的トスル再度ノ訴訟提起	
●村會議員選舉効力ニ關スル訴	一二
○他事ヲ記入シタル投票ノ効力	
○「他事」ノ意義	
●縣會議員當選ニ關スル決定取消ノ訴	一三
○當選書ヲ交付シタル以後ニ於ケル選舉効力ノ異議	
○選舉事務ニ關係アル吏員	
○市長ノ職務ノ範圍	
●郡會議員被選舉資格不服ノ訴	一三
○付キ知事ノ裁決	
○行政訴訟ノ實質	
○自存目的ノ範圍(人格權)	
●不服裁決取消請求ノ訴	一四
○助役ト町村長トノ關係	
○選舉事務ニ關係アル者ノ意義	
●恩給額更正ニ關スル訴	一四
○恩給ニ關スル在職年數通算ノ意義	
●縣會議員ノ當選効力ニ關シ異議ノ訴	一五
○府縣制第六條第九項ノ解(請負事業ノ終了カ被選舉ニ及ス影響)	
●不當裁決取消ノ訴	一五
○臨時郡會ノ議定權ノ範圍	
●縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴	一五

○府縣制第十八條第七項ノ解	一五
●不當裁決取消ノ訴	一五
○町村制第二十一條ノ所謂選舉ニ關係ナキ者ノ意義	
○無効投票ヲ排除シタル選舉ノ効力	
●郡會議員選舉効力ニ關スル訴	一六
○家督相続ト公民權トノ關係	
○土地賣却ニ依ル公民權消滅ノ時期	
●不當裁決取消ノ訴	一六
○選舉立會人解任權ノ所屬	
○選舉有資格ノ判決ヲ受ケタル者ニ對スル選舉名簿錄登録ノ時期	
○町村長ノ爲シタル郡會議員選舉時日告示ノ効力	
●不當裁決取消請求事件	一七
○選舉得點ノ確定	
●所得稅賦課不服ノ訴	一七
○町村制中名譽職ノ範圍	
○町村會ニ於テ町村會議員ニ對シ實費ヲ支給スル爲メ其ノ支出ヲ議定セル議決ノ効力	
●縣會議員被選舉權ノ有決定不服ノ訴	一八
○無ニ關スル縣參事會	
○行政訴訟ノ性質並ニ之ヲ提起シ得ヘキ者ノ範圍	
●縣會議員選舉取消ノ訴	一八
○府縣制第十七條ノ適用ノ範圍	
●不當裁決取消ノ訴	一八
○追加訴訟ノ効力	
○援用シタル法文ニ誤記アル裁決ノ効力	
●村會議員選舉取消ニ關スル訴	一九
○村長カ職務停止中ニシタル選舉告示ニヨリ爲シタル選舉ノ効力	
●郡會議員選舉ニ裁決不服ノ訴	一九
○關スル縣參事會裁決	
○納稅資格ヲ定ムル標準	
●不當裁決取消ノ訴	一九
○名譽職員ノ退職理由ノ意義	
●不當裁決取消ノ訴	二〇
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族ノ疾病ヲ理由トスル名譽職ノ退職	



司法判例彙報第十一卷索引

行政判例

行政法規

- 村會議員當選無効ノ訴(明治三十二年第三〇號)……一  
○ 選舉名簿ニ登錄セラレサルモノハ選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス
- 選舉權ヲ有スルモノハ選舉名簿ニ登錄セラレサル者ト雖モ被選舉權ヲ有ス
- 不當裁決及違法處分取消ノ訴(明治三十二年第二十三號)……二  
○ 地方學事通則ニ基キ設ケル學校基本財産ハ已設ノ學校ノ爲メノミナラス將來設置スヘキ學校ノ爲メニモ亦之レヲ設置スルコトヲ得
- 中學校令ハ學校基本財産ノ設置ニ關シ適用スヘキモノニアラス
- 漁業不當處分取消ノ訴(明治三十二年第二二號)……二  
○ 漁法ノ手續ニ由リテ得タル漁業免許ノ取消ヲ命スルハ違法ナリトス
- 不當處分取消ノ訴(明治三十二年第一〇一號)……二六  
○ 學校基本財産ヨリ生スル收入ノ處分方法ノ違法ナルコトヲ

主張シテ該基本財産積立ノ爲メ違法ニ賦課セラレタル負擔ヲ拒ムコトヲ得ス

給料請求事件(明治三十二年第四九號)……三〇

- 町村組合ニ關スル費用ノ分擔其他必要ノ事項ハ町村制第十七條ノ規定ニ從ヒ組合規則ニ依リテ決スヘキモノトス
- 町村組合規則ヲ以テ組合會計事務ノ管理者ニ於テ凡テ之レヲ掌ル旨ヲ規定シタル場合ニ於テ町村収入役力其ノ管理者タル町村長ノ命令ニ依リ組合ノ會計事務ヲ掌ル組合ニ對シ給料ヲ請求スルコトヲ得ス
- 手當ヲ支給スルコトヲ規定シタル法令ヲ根據トシテ給料ヲ請求スルコトヲ得ス
- 村會議員選舉效力ニ關スル訴(明治三十二年第二十三號)……二四  
○ 選舉ニ對シ甲乙二個ノ訴願起リ甲訴願ノ裁決ニ對シテハ其ノ裁決確定タルモ乙訴願ニ付テハ之レニ不服ヲ申立テ更ラニ上級行政廳ノ裁決ヲ求メタルトキハ其ノ選舉ハ未ダ何人ニ對シテモ確定セサルモノトス
- 不當裁決取消ノ訴(明治三十二年第一一五號)……二八  
○ 小林準人ヲ小林ハヤ人ト記シタル投票ハ被選舉人ノ何人タルヤヲ確認シ難キモノニアラス
- 不當命令取消工事復舊請求ノ訴(明治三十二年十月二十三日宣言)……三三



○縣知事カ明治八年太政官第二十九號ニ基キ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スル爲メ職權ヲ以テ該シタル縣令ハ凡テ違由ノ效ナラズトス

●火藥賣買營業禁止命令取消ノ訴(明治三十一年十一月六日宣言) 三五

○火藥營業ノ管理人ニ規則違反ノ行爲アルヲ理由トシテ該營業ノ木人ニ對シ火藥營業規則第三十條ヲ適用シ其營業ノ禁止ヲ命ジタルハ違法ニアラス

●水車川河水引用許可取消ノ訴(明治三十一年十一月六日宣言) 四〇

○期限ヲ超過シタルトノ理由ヲ以テ該許可却下シタル裁決ニ對シ直チニ本案ノ行政訴訟ヲ提起スルモ違法ニアラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 四四

○郡會カ内務大臣ヘ陳情書ヲ呈スルコト及ヒ縣知事ヘ辭職ノ勸告ヲ爲スコトノ議決ヲナスハ越權ナリ

●村中元金償還請求ノ件(明治三十一年十一月六日宣言) 四九

○村ノ豫算ニ不當ノ費用アルモ監督官廳ノ指揮ニ依リ其ノ費用ヲ他ノ適法ナル必要科目ニ組換ヘタルトキハ其豫算ハ適法ノモノトス

○町村會カ納稅者ノ貧富ニ應ジテ賦課セザルテ府縣稅ヲ賦課スルノ議決ヲ爲シタルハ違法ニアラス

●堰堤取掛命令取消事件(明治三十一年十一月十日宣言) 七三

○水車新設ノ許可ニハ堰堤設置ノ許可ヲ包含セズ

●不當裁決取消事件(明治三十一年十一月十日宣言) 七六

○已ムコト得サル事由存セザルニ不拘一旦公告シタル選舉期日ヲ変更シタルハ違法ナリ

●石炭試掘認可取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 八一

○甲者カ乙者ノ礦區ト一部重複セル場所ニ試掘ヲ出願シ未ダ其重複部分ニ該當スル礦區ノ出願ヲナサハ前乙者ニ於テ該礦區ノ出願ヲシタルトキハ甲者ハ其礦區ノ出願ヲ省略シテ前乙者ノ礦區反更願ヲ提出シ其礦區ニ該當スル部分ノ増産ヲ出願スルモ其出願ハ有效ナリトス

●縣參事會裁決不服ノ訴(明治三十一年八月二十二日宣言) 七九

○町村制第十九條ノ規定ハ二級選舉ヲ閉シタル後一級選舉ヲ行フヘントノ注意ナリトス

●官民未定地査定事件不法處分取消ノ訴(明治三十一年十一月六日宣言) 五三

○從來水利若クハ其ノ他ノ費用ノ爲メ一村又ハ一村ノ名義ヲ以テ他村ニ貸與シ來リタル地所ハ明治四年三月七日民部省達第二項ニヨリ其貸方ノ私有地ニ編入スヘキモノトス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 五五

○町會カ町費及雜部金並ニ國稅府縣稅ノ徵收ヲ銀行ニ預托スヘント議決シタルハ違法ナリトス

●鐵業特許ノ取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 六〇

○鐵業採掘許可願ニ關シ刑部ノ制裁ヲ受ケタリトスルモ之レカ爲メ已ニ得タル鐵業權ニ影響ヲ及スコトナシ

●縣稅賦課ニ對スル裁決不服ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 六六

○府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

○市町村會カ府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スル方法ニ關シテハ市町村制中何等ノ制限ヲ設ケルコトナシ

●村會議員違法選舉取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 八四

○選舉掛長ハ必要ト認メタル場合ニ於テ選舉事務補助ノ爲メ選舉掛ニアラサルモノヲ選舉會場ニ入ラシムルコトヲ得

●不當裁決取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 九〇

○府縣制第六條第八號ニ所謂其ノ關係區域トハ選舉事務ニ參與スル官吏更重責力職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ云フモノニシテ選舉區域全體ヲ指スノ意義ニアラス

●區費賦課命令取消請求ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 九四

○町村內ノ一部ニ於テ專用スル營造物ノ保存修築ノ費用ハ其一部ノ住民ノミニテ負擔スヘキモノトス

●村稅違法賦課取消ノ訴(明治三十一年十一月十日宣言) 九六

○町村制第九十四條ノ規定ハ納稅者カ其住所以外ノ町村ニ於



ケル所得ニ對シテハ其住居地ニ於テ是ニ町村稅ヲ賦課シ得  
ザレノ規定ニシテ住居地以外ノ町村ニ於テ其部内ノ土地ヨ  
リ生スル所得ニ對シ町村稅ヲ附加徵收スルヲ得ストノ規定  
ニアラス

●村會議員選舉效力ノ訴(明治三十二年第八十六號)  
○選舉人ノ投票ハ一人一個ニ限ルモノトス隨テ選舉ニ參與シ  
タル選舉人ノ員數ト投票ノ總數ト符合セズシテ過剩ナ生ス  
ルトキハ選舉ノ結果ニ異動ナ生スルト否トナ問ハス其ノ選  
舉ハ無効ナリトス

●營業稅不當賦課ニ對スル訴(明治三十二年第六十  
廿六日)  
○屋敷ト賣肉トヲ併業スル屋敷業者ニ對シ其ノ屋敷行爲ニ對  
シテ賦課スル屋稅ハ其ノ販賣行爲ニ賦課スル營業稅ト重複  
スルモノニアラス

○地稅ノ納稅義務ハ專ラ課目課額ニ依テ定マルモノトス故ニ  
豫算ノ増減ニ依テ納稅義務ニ変更ナ生スルモノトナシ

●村會議員選舉取消ノ訴(明治三十三年二月二十八  
日宣)  
○選舉人ノ選舉資格ハ確定名簿ニ登錄セラレタルト否トナ問  
ハス選舉當時ノ現在ノ事實ニ依リ決ス可キモノトス

○選舉人ノ階級ヲ限マリタル選舉人名簿ニ依リテ執行シタル  
選舉ハ無効ナリトス

●不當裁決取消請求ノ訴(明治三十三年第四十九  
廿六日)  
○町村助役ハ町村長ト同シク選舉事務ニ關係アル吏員ナリト  
ス  
○郡制第六條中選舉事務ニ關係アル吏員トハ必スシモ實際ニ  
於テ選舉事務ニ關係セシ吏員ノミヲ指スモノニアラス

●恩給額更正ニ關スル訴(明治三十三年五月十四日宣)  
○恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一ケ年以上在職シタル後退  
官シタル場合ニ於テ之ニ對シ恩給額ヲ定ムルニ付キ退官現  
時ノ俸給前後相同シカラザルキハ前官在職ノ年數ハ之レ  
ヲ後官在職年數ニ通算スレトモ滿月數ハ之ヲ通算スヘキモ  
ノニアラス

●縣會議員選舉效力ニ關シ 異議ノ訴(明治三十二年第一  
月六日)  
○縣ノ爲メ工事ノ購買ヲ爲シタルモ選舉前ニ於テ其ノ工事全  
ク終了シ單ニ購買金拂渡ヲ受クルノ關係ナ有スルニ止マル

●縣會議員選舉無効ノ決定不服ノ訴(明治三十二年第一  
三月三日)  
○選舉ノ效力ニ關シ行政訴訟ノ提起アリ之ニ對スル判決確定  
シタル以上同一ノ選舉ニ對シ他ノ原告ヨリ出訴シタル同  
一ノ請求ハ之レヲ受理スヘキモノニアラス

●村會議員選舉效力ニ關スル訴(明治三十三年第七  
四月廿四日宣)  
○選舉投票ニ關シ文字并ニ「何村會議員候補者」ノ文字及  
ビ「メ」ノ文字ヲ記入シ若クハ「樂崎」ノ文字ヲ塗抹シ「太平  
米治」ト記シタルハ他事記入ノ投票ト云フヲ得ス

○町村制第二十三條第四號所謂他事ノ記入トハ選舉ニ有害ナ  
ル記事若クハ必要ナキ雜事ヲ記入スルヲ謂フ

●縣會議員當選ニ關スル決定取消ノ訴(明治三十  
九年三月十四日判決)  
○知事ハ縣會議員ノ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選書  
交付ノ後ト雖モ之レヲ府縣選舉會ノ裁決ニ附スルコトヲ得

○名譽縣選舉會員ハ市制第六十九條ニ依リ市長ノ職務ヲ補助  
スヘキモノナルヲ以テ府縣制第六條ノ所謂選舉事務ニ關係  
アル吏員ナリトス

○市制第六十九條所謂市長ノ職務中ニハ市ノ固有事務ト他ノ  
委任事務トナ問ハス總テ之ヲ包含ス

●縣會議員選舉資格不當ノ訴(明治三十三年第十四號)  
○格ニ付キ知事ノ裁決不當ノ訴(明治三十三年五月十二日宣)

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十五號)  
○臨時郡會ノ議定權ハ議メ告示ナシタル事件又ハ郡長ニ於  
テ急施ヲ要スルモノトシテ議事ニ附シタル事件ノ外ニ出ツ  
ルコトヲ得ス

●縣選舉會不當決定取消請求ノ訴(明治三十三年  
年六月八日宣)  
○知事ノ定メタル投票用紙ハ裏面ニ村長ハ職印ヲ捺捺シテ之  
レヲ用ユルモ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノニアラ  
ス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年六月十五日宣)  
○選舉人トシテ招集セラレタル者選舉會場ニ出頭シ投票ヲナ  
シタルニ無資格者タルコトヲ發見セラレタル場合ニ於テハ  
之ニ對シ選舉ニ關係ナキ者ノ入場者トシテ町村制第二十  
一條ヲ適用スヘキモノニアラス

○無効ノ投票アリタル場合ニ於テ之レヲ當選者ノ得點中ヨリ  
排除スルモ選舉ノ結果ニ影響ヲ及サ、トキハ其ノ選舉ハ無  
効ニアラス

●郡會議員選舉效力ニ關スル訴(明治三十三年第六  
月六日)  
○家督相續人ハ其ノ相續財產ノ所有名義書替ヲナサレバ實

●郡會議員選舉效力ニ關シ 異議ノ訴(明治三十二年第一  
月六日)  
○縣ノ爲メ工事ノ購買ヲ爲シタルモ選舉前ニ於テ其ノ工事全  
ク終了シ單ニ購買金拂渡ヲ受クルノ關係ナ有スルニ止マル

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第六月八日宣)  
○知事ノ定メタル投票用紙ハ裏面ニ村長ハ職印ヲ捺捺シテ之  
レヲ用ユルモ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノニアラ  
ス



際ニ於テ租税ヲ納附シ来リタル以上ハ公民權ヲ有スルモノトス

○所有地ヲ他人ニ賣却シタルトキ賣主カ所有名義ノ書替ヲ爲サレバ其ノ土地ニ對シ租税ヲ納付シ来リタルトスルモ公民權ヲ有スヘキモノニアラス

○家督相續人ハ被相續人ノ有レタル公民權ヲ承繼スヘキモノニアラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第七十六號)……一六六  
○郡會議員ノ立會人ハ之ヲ選任スルノ權アル町村長ニ於テ解任スルコトヲ得

○選舉資格アリトノ判決ヲ受ケルモ其ノ判決確定スルニアフサレハ選舉人名簿ニ登錄スルコトヲ得ス

○郡會議員選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡長ノ職權ニ屬ス故ニ町村長カ此ノ時日ヲ告示シタルトスルモ此ノ告示ハ何等ノ效力ヲ有セザルヲ以テ之レカ爲メ選舉ヲ妨ケタリト認定スルヲ得ス

●不當裁決取消請求事件(明治三十三年第七十九號)……一七三  
○同一選舉ノ當選ヲ裁決スルニ當リ甲者ノ得點ハ選舉録ノ得點數ニ依リ乙者ノ得點ハ再調査ノ得點數ニ依リ當選者ヲ定メタルハ違法ナリ

●所得税賦課不服ノ訴(明治三十三年第四十號)……一七七  
○町村制第七十五條ノ所謂名譽職員中ニハ町村會議員ヲ包含セズ

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十三號)……一九九  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十二號)……一九五  
○月主ノ選舉納税資格ヲ定ムルニ該リ所得税ヲ以テスルトキハ其ノ同居家族ノ所得ハ之レヲ區別シテ合算セズ

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十一號)……一九〇  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十三號)……一九九  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十三號)……一九九  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十三號)……一九九  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十三號)……一九九  
○町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委員ハ名譽職ナリ

○村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正當ノ理由トナラス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十三年第五十四號)……二〇三  
○職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリトノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

○町村會議員ニ對シ實費ヲ支辨スルハ法律ノ許サレサル所ナルヲ以テ町村會力之レヲ町村ニ必要ナル費用ナリトシテ議決スルハ違法ナリ

●縣會議員選舉權ノ有決定不服ノ訴(明治三十三年第五十二號)……一九五  
○府縣制第三十七條第四項ニ依リ縣選舉會ノ決定ニ對シ行政訴訟ヲ提起シ得ル者ハ其ノ決定ヲ受ケタル當事者ニ限ル

●縣會議員選舉取消ノ訴(明治三十三年第六十三號)……二〇三  
○投票用紙ヨリ文字ノ記載ナキ投票用紙ノ一葉出タル事ヲ以テ府縣制第七條ノ規定ニ違背セリト云フヲ得ス

●不當裁決取消ノ訴(明治三十二年第六十七號)……一八七  
○訴願人ハ裁決以前ニ在テ何時ニテモ訴願ノ理由ヲ追加スルコトヲ得隨テ先ニ選舉權ヲ有セザル甲乙兩人ガ選舉ニ參與シタルトノ理由ヲ以テ選舉全部ノ取消ヲ求ムル訴願ヲ爲シタルトノ理由ヲ以テ選舉全部ノ取消ヲ求ムル訴願ヲ爲シタル後丙丁兩人モ亦ガ選舉權ヲ有セスシテ選舉ニ參與シタルトノ理由ヲ追加訴願トシテ提出スルモ違法ニアラス

○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス

●村會議員選舉取消ニ關スル訴(明治三十三年第八十七號)……二〇三  
○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス

○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス

○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス

○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス

○裁決ニ採川レタル法律ニ誤記アルモ之レヲ無効ノ裁決トシト云フヲ得ス



司法判例彙報第十一卷

辯護士 江木 衷編纂  
法學博士

行政判例

●村會議員當選無効ノ訴 明治三十二年第三十號  
明治三十二年十月十六日判決 (請求不立)

判決要旨

- 一、選舉名籍ニ登録セラレサルモノハ選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス
- 二、選舉權ヲ有スルモノハ選舉名籍ニ登録セラレサル者ト雖モ被選舉權ヲ有ス

説明

第一項ハ説明ヲ要セス第二項ニ關シ左ニ少シク之ヲ説カシ  
 選舉權ノ行使ハ選舉以前ニ於テ作製セラレタル選舉名籍ニ登録セラレタ  
 ル者ニアラザレハ之ヲ行使スルヲ得サルコト町村制第十八條ノ規定スル  
 選舉名籍ニ登録セザルモノハ被選舉權

選舉名籍ニ登録セザルモノハ被選舉權



所タリ然リ而シテ該條ノ規定タル素ト選舉權ヲ行使スル上ニ於テ之ニ制限ヲ加ヘタルニ止マシテ敢テ被選舉權ノ制限ニテラサルヲ以テ假令選舉名簿ニ登錄セラレサル者ト雖モ被選舉權ヲ有スルニ於テ妨ケル所ナシ

(參照) 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス(町村制第十五條第一項)

選舉人名簿ハ七日間特種場ニ於テ之ヲ關係者ノ鑑覽ニ供スヘシ若シ關係者ニ於テテ願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町長ニ申立ツ可シ町長ハ町村會ノ議決ニ依リ名簿ヲ修正スヘキトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス(町村制第十八條第二項)

原告 福井縣坂井郡春江村中庄三十六號  
三六番地平民  
岩田伊平 名  
被告 福井縣坂井郡春江村長  
坪田正敬 名

右原告岩田伊平外二名ヨリ被告村長坪田正敬ニ對スル小林保正ノ春江村會議員當選無効ノ訴原告ノ辯論ヲ聽キ被告ノ文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ町村制第十五條ニ選舉權ヲ有スル公民ハ總テ被選舉權ヲ有スト在テ選舉權ヲ有セサル者ニ對シ被選舉權ヲ與ヘサル明文ナシ從テ同制第十八條ノ選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人タルトモ選舉ニ關スルコトヲ得ストハ即チ選舉ヲ爲シ及選舉セラル、コトヲ規定シタルモノナリ更ニ之ヲ詳言スレハ町村住民カ町村會議員ヲ選舉シ及之ヲ選舉セラル、權利ハ町村制第七條ノ要件ヲ具備スルト同時ニ收得スルモノナレトモ

其權利ノ効力ハ同制第十八條ノ規定ニ依リ確定名簿ニ登錄ヲ受ケテ證明セラレ而シテ選舉ヲ爲シ若クハ選舉セラル、コトヲ得ルハ此時始マルモノナリ然レハ即チ小林保正ハ無論被選舉權ナキ者ナリ況ンヤ同人ニ對シ二箇年ノ制限ヲ特免スヘキ必要アラハ選舉人名簿調製前ニ之カ手續ヲ爲シ該名簿ニ登錄スヘキ等ナルニ事茲ニ出テス而カモ名簿ノ確定シタル後ニ於テシタルニ至テハ不當モ亦甚シトス又小林保正ノ如キ被選舉權ナキ人名簿に記載シタル投票ハ同制第二十三條第三號ニ依リ其レ自體ヲ無効トスヘキモノナルニ他ノ有効投票ト混シテ得點數ヲ定メタルハ違法ナリ依テ縣參事會ノ裁決ヲ取消シ公明ナル判決ヲ請フト云ツニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ小林保正ハ選舉人名簿確定後ニ至リ村會ノ決議ニ依テ町村制第七條ニ箇年ノ制限ヲ特免セラレ明治三十一年四月十五日ニ執行シタル村會議員ニ級選舉ニ當選シタル者ナリ同條但書ニハ特免ノ時期ニ關シ制限ヲ爲サ、ルヲ以テ必要ノ生スル適合ニハ何時ニテモ特免スルヲ得ルハ法ノ辭ニ所ナリ故ニ特免ニ依リ同條ノ公民資格ヲ得タル者ハ同時ニ同制第十二條及第十五條ノ權利ヲ有スルナリ然レトモ選舉ニ關セントスルニハ確定名簿ニ登錄セラレタル者タラサルヘカヲサルハ同制第十八條ノ規定スル所ニシテ是レ選舉ニ關スル人員ヲ確定シ實際其權ヲ有スル者ト雖確定名簿ニ登錄ナキトキハ之ヲ行ハシメザルヲ問題ニ外ナラサルナリ故ニ縣參事會ノ裁決ハ相當ナルヲ以テ原告ノ申立ヲ排斥ストノ判決ヲ求ムト云ツニ在リ

選舉名簿ニ登錄セサルモノハ被選舉權



依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件原告被告所争ノ要點ハ選舉ニ選舉權ヲ得タル者ハ選舉人名簿ニ登錄ナキモ選舉セラ  
ル、ヲ得ルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ町村制第十五條ニ選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選  
舉權ヲ有ストアリテ選舉權ヲ有セサル者ニ對シ被選舉ヲ與ヘタル明文ナシ從テ同制第十八  
條選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人ナリト選舉ニ關スルコトヲ得ストハ即チ選舉及被  
選舉ノコトヲ規定シタルモノナリト主張ス之ヲ考按スルニ被選舉權ハ原告主張ノ如ク同制  
第十五條ニ依リ選舉權ト同時ニ享有スルモノナリト然レモ第十八條第二項末段ノ規定ハ選  
舉權行使ノ上ニ制限ヲ加ヘタルモノニシテ其實選舉權ヲ有スル者ト雖確定名簿ニ登錄セラ  
レサルトキハ其權ヲ行使スルヲ得スト云フニ過キサルナリ然ラハ即チ本件當選人小林保正  
ハ選舉前ニ二箇年ノ制限ヲ特免セラレ選舉權ヲ得タル者ナレハ確定名簿ニ登錄ナキカ爲其  
權ヲ行使スルコト能ハサリシモ選舉セラ、ニハ毫モ妨ケナキモノトス  
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不當裁決及違法處分取消ノ訴 明治三十二年第九十八號 明治三十二年十月廿三日判決 (請求不立)

判決要旨

一、地方學事通則ニ基キ設クル學校基本財産ハ已設ノ學校

ノ爲メノミナラス將來設置スヘキ學校ノ爲メニモ亦タ  
之ヲ設置スルコトヲ得  
二、中學校令ハ學校基本財産ノ設置ニ關シ適用スヘキモノ  
ニアラス

說明

一、地方學事通則ノ規定ニ依ルキハ其ノ第九條第一項ニ單ニ學校基本財産  
ヲ設クルコトヲ得トアリテ必スシモ已設ノ學校ノミニ限ルト解スルヲ得  
サルヲ以テ將來設置セントスル學校ノ爲メニモ亦タ之ヲ設クルコトヲ得  
ルノ旨趣ナリト解釋セサルヲ得ス  
二、中學校令ハ元來中學設置ノ場合ノミ遵守スヘキモノナルカ故ニ之ヲ以  
テ基本財産設置ノ場合ニ適用セラルヘキモノニアラス

(參照) 府縣郡市町村村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得(地方  
學事通則第九條第一項)

學校基本財産ハ單ニ其學校ノ爲之ヲ設ク又ハ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得(地方學事通則第九條第二項)

郡市町村ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其區域內小學教育ノ施設上妨ケキ場合ニアラサレハ尋常中學校ヲ  
設置スルコトヲ得ス

前項ノ制限內ニ於テ府縣知事尋常中學校ノ設置ヲ認可セントスルトキハ醫學文部大臣ノ指振ヲ請フヘシ(舊中學  
校令第九條)

學校基本財産ノ設置



原告 山形縣西置賜郡荒砥町會  
荒砥町長 長岡不二雄

被告 山形縣議會  
山形縣知事 長岡不二雄

東京市日本橋區本銀町四丁目  
九番地辯士 高木益太郎

訴訟代理人 小田切磐太郎

右原告荒砥町長長岡不二雄ヨリ山形縣參事會山形縣知事關義臣ニ對スル不當裁決及違法處分取消ノ訴變方ヲ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處

原告陳述ヲ要旨ハ荒砥町會ハ明治卅年十月二日ヲ以テ同年告示第一二號西置賜郡中學校基本金準備規程其他都會決議ニ基ケル明治三十年度追加郡費ヲ豫算ヲ議定スル爲メ會議ヲ開キ該追加郡費ヲ以テ違法ナリト爲シ豫算廢棄ノ決議ヲ爲シ其決議書ヲ郡長ニ提出シタリ然ルニ郡長ハ違法ニアラサルヲ以テ該告示ノ負擔額ヲ本町ノ豫算ニ登載スヘシトシ強制命令ヲ爲シタリ依テ同月十八日再ヒ町會ヲ開キタルニ町會ニ於テハ強制命令ハ不當ナリト議決シ被告山形縣參事會ニ對シ不當處分取消ノ訴願ヲ爲シタリ然ルニ被告ハ明治三十一年八月二十四日附ヲ以テ不當ノ裁決ヲ與ヘタルヲ以テ茲ニ出訴ニ及ヒタリ其理由ハ第一明治二十三年法律第八十九號地方學事通則第十條第三項ニ依ルニ府縣郡市町村學校組合及市町村內若ハ町村學校組合內ノ區ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ増加シテ學校基本財産トナスコトヲ得トアレハ同條ニ所謂學校基本財産ナルモノハ其地方ニ既設セル公立學校ニ對スル基本財産ト解釋スルヲ以テ至當ナリト信ス又同通則第九條第二項ニ依テ見レハ其學校又ハ數學校トアリテ既設ノ學校ニ對スル

規定ナルコトハ疑ヲ容レズ然ルニ西置賜郡會ノ決議ハ同通則ノ法意ヲ誤リ未タ其實質ヲ備ヘサル不確定物ニ對シ之レカ基本金ヲ積立テントスルニ在レハ明カニ法律ヲ曲解シタル不當ノ議決タルコトヲ免レズ原裁決ハ此點ニ對シ學事通則第九條及第十條ハ其學校ノ實在ナルモノニ制限スル法意ニ非スト判定シタレトモ法文ニ某學校數學校トアルヲ以テ被告ノ判定ハ同通則ノ本旨ニ適ハサルノミナラス事實上實體ナキ學校カ財産ヲ有シ得ラルヘキ謂レナシ本件ノ基本金ナルモノハ將來中學校ヲ設置セントスルニ要スヘキ豫備的資金ニシテ地方學事通則ヲ認ムル所ノ學校基本財産ト同視スヘカラス然ルニ被告カ學校ノ實在ナルト否ト問ハスト裁決セシハ學事通則ヲ無視シタル不法ノ裁決ト謂ハサルヘカラス第二明治十九年勅令第十五號中學校令第六條ニ尋常中學校ハ各府縣ニ於テ一校ヲ設置スヘキモノトス但土地ノ狀況ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得數校ヲ設置シ又ハ本文ノ一校ヲ設置セサルコトヲ得トアリ又同第九條ニ郡市町村ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ須要ニシテ其區域內小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニアラサレハ尋常中學校ヲ設置スルコトヲ得ストアリ故ニ山形縣ノ加夕既ニ一ノ中學校アル縣下ニ於テ更ニ一ノ中學校ヲ設置セシニハ文部大臣ノ許可並ニ小學教育ノ施設ニ妨ナキコトヲ要ス故ニ西置賜郡會カ未タ文部大臣ノ設立許可ヲ受ケスシテ中學校基本金準備規程其他之ニ附帶スル事項ヲ議決シタルハ本末ヲ顛倒シタルモノニシテ未タ法律上ノ手續ヲ踐行セサル不確定ノ決議ナレハ執行力ヲ生セザルモノナリ然ルニ原裁決ハ明カニ法律上ノ手續ヲ了セサル事實ヲ認メ

學校基本財産ノ設置



ナカラ本件ハ直接設置ノ場合ヲ認メタルニアラサルヲ以テ中學校令ヲ適用スル限リニア  
ラスト判定シタルハ不當ナリ又不能行爲ノ決議ハ法律上効力ナキモノニシテ本件ノ如キ  
ハ中學校基本金準備規程第一條ニ依テ見ルモ到底不能ノ事業ニ屬シ其決議ノ執行ヲ期ス  
ヘカラサルモノナレハ法律上無効ノ決議ヲ爲シタルモノナリ然ルニ原裁判ハ此事實ヲ認  
メナカラ準備金ノ多少ニ依リ設置ノ能不能ヲ論スル限リニアラスト判定シタルハ法理ヲ  
誤レルモノナリ第三郡制第二十六條ニ依レハ郡會ノ職務權限ハ全能力ヲ有スルモノニア  
ラスシテ同條第一項各號及ヒ第二項ニ掲ケタルモノニ制限セラル然ルニ本件郡會ノ議決  
ハ右ノ制限外ニ涉リ殊ニ甲第一號證中學校基本金準備規程第二條ニ於テ米澤尋常中學興讓  
館ヲ共立トナシ積立豫定ノ元資ニ對シ年五米ノ利子ヲ交付スト規定シタルハ最モ越權ト  
謂ハサルヘカラス原裁判ニハ郡會ハ郡制第二十六條ニ基キ法人ノ資格ヲ以テ之レカ契約  
ヲ爲シ中等教育ヲ施スノ義務ヲ負擔セシムルコトヲ決議シタルモノナレハ違法ニアラス  
ト判定シタルトモ該條ニ新ニ義務ノ負擔ヲ爲シタルハ主ニ同第六十四條ノ郡債募集ノ  
場合其ノ他私法上ノ民事契約ニ基ケル義務負擔ノ場合ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘ  
キニアラス其ノ他法律命令ニ於テ斯カル權限ヲ郡會ニ與ヘタル明文ナシ然ルニ原裁判カ  
郡會ハ能力ヲ有スルモノ、如ク又中等教育ハ任意的ノモノナルニ中等教育ヲ施スノ義務  
ヲ負擔セシム得ヘキモノ、如ク判定シタルハ不法ナリ又郡制其他ノ法令ニ於テ郡組合又  
ハ郡ト他ノ郡市トニ於ケル共同事業ヲ爲コトヲ許タル明文アラサルニ準備規程第二條ニ

七十一

七十三

米澤尋常中學興讓館ヲ共立ト爲シト掲ケ且甲第六號證中米澤尋常中學興讓館ヲ三郡一市  
ノ共立トシトアテリ郡立組合ノ性質ニ屬スル共同事業ノ決議ヲ爲シタルハ不法ナルニ此  
點ニ對シ何等ノ説明ヲ與ヘザリシハ理由不備ノ裁判ナリ以上ノ理由ナルヲ以テ明治三十  
一年八月二十四日附山形縣議會ガ與ヘタル裁判ヲ取消シ併セテ明治三十年十二月十四  
日西置賜郡長カ爲シタル強制豫算ノ命令ヲ取消シ且明治三十年四月十二日告示第一二號  
西置賜郡中學基本準備規程其他該告示ニ附帶セル事項ハ總テ無効ナリトノ判決ヲ受ケタ  
シト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ學事通則第十條第三項第九條第二項ニ所謂學校ハ實在セ  
ル學校ニ限レルモノナリト云フモ法文上既設學校ノミヲ指示シタルモノト看ルニ足ルヘ  
キモノナキニ依リ學校ノ實在スルト否トヲ問ハス基本財産ヲ設クルコトヲ得ト解釋スル  
ヲ以テ至當トス又原告ハ學校カ實在セザレハ基本金ヲ受クルニ由ナシト云フモ學校ハ總  
テ法人ナルコトアラス故ニ實在セル學校ト雖法人ナラザルモノハ之ヲ受クルコトヲ得ス而  
シテ學事通則ハ法人タル學校ノ爲メニミ基本金ヲ設クルコトヲ規定シタルニ非サルヤ  
明カナリ第二原告ハ中學校ヲ設置スルニ付キ未タ文部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ基本金ノ  
事ヲ決議セシハ不法ナリト論スレトモ文部大臣ノ許可ヲ受ケルハ學校ヲ設クル場合ノ手  
續ニシテ學事通則ニ依リ基本金ヲ募集スル場合ニ適用スヘキニアラス又原告ハ準備規程  
ニ掲ケタル積立金少額ニシテ到底中學校設立ノ目的ヲ達スルコト能ハザレハ不能行爲ノ  
學校基本財産ノ設置

九



決議ヲ爲シタリト云フモ該積立金ハ明治三十四年度ヨリ同三十四年度ノ積立金ニシテ將來  
尙ホ如何ニ積立ツヘキカハ未定ナリ然レモ最初ノ五年間ニ積立ツル金額カ些少ナルノ故  
ヲ以テ到底設置ノ目的ヲ達スルコト能ヘスト云フヲ得ス第三原告ハ米澤尋常中學興讓館  
ヲ共立ト爲シ積立豫定ノ元資ニ對シ年五朱ノ利子ヲ交付スルコトハ郡制第三十六條ニ於  
テ定メタル郡會ノ權限ヲ越エ且ツ郡ト他ノ郡市トノ組合ヲ組成シタル不法ノ行爲ナリト  
云フモ本件ハ郡カ法人ノ資格ヲ以テ米澤尋常中學興讓館設立者ト私法上ノ契約ヲ結ビテ  
同館ヲ共立ト爲シタルモノニシテ他ノ郡市トノ組合ヲ組成シタルニアラス而シテ右契約ニ  
依リテ積立豫定ノ元資ニ對スル利子交付ノ義務ヲ負擔シタルハ郡制第二十六條第一項第  
四號ニ所謂新ニ義務ノ負擔ヲ爲スニ該當スルモノナレハ越權ニアラス以上ノ如ク原告ノ  
申立ハ不當ナニ付其請求ヲ排斥アリタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
原告ニ於テ第一地方學事通則第十條第三項ニ依レハ府縣郡(中略)ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ增加  
シテ學校基本財産ト爲スコトヲ得トアレハ同條ニ所謂學校基本財産ナルモノハ其地方ニ於  
テ既ニ設立シタル公立學校ニ對スル基本財産ナリト解スルヲ相當トス又同通則第九條第二  
項ニハ某學校又ハ數學校トアリテ既設ノ學校ヲ指シタルコト疑ヲ容ルベカラスト云フト雖  
同通則第九條一項ニハ單ニ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得トノミアリテ既設ノ學校ニ限ル  
モノト解スルヲ得サレハ將來設置セントスル學校ノ爲メニモ之ヲ設クルコトヲ得ルノ旨趣

ナリト解釋セサルベカラス又同條第二項ニ某學校云々トアルハ一學校又ハ數學校ノ爲メニ  
設クルノ意義ナルニ過サレハ之ニ依ルモ既設ノ學校ニ限ル者ト斷定スルヲ得ス第二明治十  
九年勅令第十五號中學校令第九條ニ依レハ郡市ニ於テ尋常中學校ヲ設置セントスル場合ニ  
於テハ文部大臣ノ指推ヲ得テ認可セサルヘカラス然ルニ本件ニ於テ此手續ヲ踐マスシテ基  
本財産設置ノ議決ヲ爲シタルハ法律上ノ不確定ノ議決ニシテ效力ヲ生セサルモノナリト云フ  
ト雖同條ノ規定ハ尋常中學校設立ノ場合ニ當リ遵守スヘキモノニシテ本件基本財産設置ノ  
場合ニ適用スヘキ者ニアラス其他原告ハ基本財産ヨリ生スル利子ヲ私立米澤尋常中學興讓  
館ニ交付シ之ヲ共立ト爲スノ議決ヲ爲シタルハ郡會ノ權限ヲ超越シタルモノナリト主張ス  
ト雖本件ハ基本財産設置ノ爲メ原告町ニ賦課シタル負擔ニ對スル強制豫算命令ヲ不當トシ  
テ出訴シタルモノナレハ縱令其利子ノ支拂方法ニ付不當ナルコトアリトスルモ本件ノ強制  
命令ヲ爭フノ理由ト爲スヲ得ス  
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●漁場不當處分取消ノ訴

明治三十二年第七二二號  
明治三十二年七月七日判決

(請求相立)

判決要旨

漁業免許取消ノ命令



適法ノ手續ニ由リテ得タル漁業免許ノ取消ヲ命スルハ違  
法ノ處分ナリトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

北海道渡島國茅部郡白尻村七番地  
同道北見國禮文郡香深村字ナハン  
トマナイ寄留

東京市神田區淡路町二丁目七番地  
辯護士

原告 告 二本柳 新太郎 訴訟代理人 江 木 衷

北海道廳長官

被告 告男爵園 田 安 賢

右原告二本柳新太郎ヨリ被告北海道廳長官男爵園田安賢ニ對スシ漁場不當處分取消ノ訴原  
告ノ辯論ヲ聽キ被告ノ文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ禮文郡香深村字キトウシ海面東第二九十一號漁場ハ小島みんナル者  
ヨリ適法ノ出願ヲ爲シ明治三十年一月十一日同人ニ許可セラレタルモノナリ而シテ原告  
ハ右みんヨリ代金一千圓ニテ買受タルヲ以テ慣例ニ依リ右みんヨリ廢業届ヲ爲スト同時  
ニ該漁場ノ出願ヲ爲シ明治三十年九月二十二日禮文郡長ノ許可ヲ受テ漁業權ヲ獲得シ爾  
來數多ノ資金ト努力トヲ投シ無事業ヲ營ミタルトコロ新任宗谷支廳長ハ昨三十一年六月  
ニ至リ突然右許可ヲ取消ス旨ヲ指令セリ依テ原告ハ同年八月二十五日被告ニ對シ訴願ヲ

提起シタルモ被告ハ不當ニモ原告ノ請求ヲ排斥セリ而シテ被告ハ右みんノ願書ニ組合頭  
取及ヒ隣接人ノ連署ナク又百五十間ノ距離ニ於テ二統ノ網ヲ設クルニトテ願出タルハ違  
法ナリト云フモ北海道廳令第六條第七條ノ規定ニ依レハ願書ニ必ズ連署ヲ要ストアルニ  
アラヌシテ若シ連署ヲ拒ミタルトキハ其理由ヲ上申スレハ差支ナキコトニナリ居レリ又  
距離ノ間數ハ明治三十年二月十八日ノ廳令ニ依リ始メテ制限セラレタルモノニシテ出願  
當時ノ廳令ニハ此ノ如キ制限ノ規定存セサルナリ故ニ小島みんノ出願ハ手續上不當ニア  
ラサルナリ加之原告ハ右みんノ廢業ト同時ニ出願シ適法ノ手續ニ依リ許可ヲ受ケタルモ  
ノニシテみんト相關係スル所ナシ假リニみんノ權利繼承人トスルモ前述ノ如ク出願手續  
ニ欠クル所アラサルナリ然ルニ支廳長カ不法モニ原告ノ得タル許可ヲ取消タルヲ以テ被  
告ハ明治三十一年六月二十四日宗谷支廳長松村雄之進カ漁第七十二號ヲ以テ北見國禮文  
郡香深村字キトウシ海面東第二九十一號漁場ニ對シ客年九月二十二日付舊宗谷外三郡  
長ニ於テ原告ニ許可シタル營業免許權ヲ取消シタル指令ヲ取消シ且同漁場ニ付濱谷小二  
郎ニ與ヘタル營業免許ヲ取消スヘシト判決アラマコトヲ請フト云フニ在リ

學校基本財産ノ設置



五十間ノ處ニ於テ二統ノ建網ヲ設ケントスル邊式ノ願ナルニ拘ハラズ宗谷外三郡長ハ合  
法ニシテ一モ間然スヘキ所ナキ自分ノ出願ヲ斥ケ之ヲ許可シタルハ不當ナル旨ヲ主張シ  
右郡長ノ處分ヲ取消サンコトヲ請求シタルニ依リ被告ハ調査ノ末其申立ハ理由アルモノ  
ト認メ處分ヲ取消スヘシトノ裁決ヲ與ヘタリ依テ宗谷支廳長ハ其判決ニ基キ濱谷小二  
郎ノ出願ニ對スル拒否處分ヲ取消シ更ニ許可ノ指令ヲ爲スト同時ニ原告ノ營業免許ヲ取  
消セリ抑郡長カ小島みんノ出願ヲ許可セシ處分ヲ不當トシタル理由ハ元來漁業ヲ出願ス  
ルニハ當時ノ施行法規タル明治二十一年北海道廳令第十八號第四條及第六條ニ依リ漁業  
組合頭取及左右隣接漁業者ノ連署ヲ要スルニ右みんノ願書ニハ其要件ヲ欠キタルノミナ  
ラス最初百五十間ノ距離ニ於テ二統ノ建網ヲ設ケント欲シ其後二統ヲ一統ニ訂正シタルモ  
此ノ場合ニ於テハ更ニ左右隣接者ノ連署ヲ要スヘキハ勿論ナルニス拘ハラズ其手續ヲ盡  
サレハ益適法ノ手續ニ背反セリ之ニ反シ濱谷小二郎ノ願書ハ適法ノ手續ニ依リ殊ニ隣  
接網ノ距離等モ充分ニシテ何等ノ缺點ナキモノナリ然ルニ郡長ニ於テ彼ニ許可シ此ニ對  
シ拒否ノ處分ヲ爲シタルハ本末ヲ取捨顛倒シタルモノニシテ錯誤ノ處分タルヲ免レ果  
シテ錯誤ナルニ於テハ之ヲ改正スヘキハ當然ナルヲ以テ濱谷小二郎ノ出願ニ對スル郡長  
ノ拒否處分ヲ取消シタリ右取消ノ結果宗谷支廳長ハ更ニ濱谷小二郎ニ漁業ヲ免許シ原告  
ノ漁業免許ヲ取消シタルモノニシテ本件判決及處分ハ共ニ不當ニアラス依テ原告ノ要求  
ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
被告ニ於テ本件ノ漁場ニ付テハ小島みん及濱谷小二郎ノ兩名相前後シテ建網ノ漁業ヲ出  
願セシニ「みん」ノ願書ニハ北海道廳令第四條及第六條ニ於テ必要トスル組合頭取及隣接漁  
業者ノ連署ナク又最初百五十間ノ距離ニ於テ二統ノ建網ヲ設ケント欲シ後之ヲ一統ニ訂正  
スル場合ニ於テハ更ニ關係人ノ連署ヲ要スルニ之ヲ爲サレ等適法ノ手續ニ違背セリ之ニ  
反シ小二郎ノ出願ハ完全ニシテ缺點ナキモノ拘ハラズ宗谷外三郡長ニ於テ小二郎ノ出願ヲ  
拒否シ「みん」漁業ヲ許可シタルハ錯誤ニ出テタル處分ナリト主張スルモ同廳令第七條中ニ  
組合頭取等故障ヲ唱フルモ其理由ヲ調査シ連署ノ有無ニ拘ハラズ許可スルコトアルヘシト  
アレハ關係人カ故障ヲ唱ヘタル場合ニ於テ其理由ヲ副申シタルトキハ連署ナキ願書ニ對シ  
漁業ヲ許可スルモ其處分ヲ以テ錯誤ニ出タルモノト謂フヘカラス又願書訂正ノ場合ニ於テ  
更ニ關係人ノ連署ヲ要スト云フモ廳令中如何ナル條項ニ依リ之ヲ要スルヤヲ知ニル由ナシ  
而シテ原告ハ「みん」カ漁業免許ヲ得タル後廢業届ヲ爲スト同時ニ同一場所ニ對シ更ニ漁業  
ヲ出願シタルモノニシテ原告ノ願書ニ缺點ナキコトハ被告ノ爭ハサル所ナリ然ラハ原告ハ  
適法ノ出願ニ由リ漁業免許ヲ受ケタルモノナレハ其免許ハ有効ニシテ取消スヘキ理由ナキ  
モノトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ  
宗谷支廳長松村雄之進カ明治三十一年六月二十四日ヲ以テ舊宗谷外三郡長カ北見國禮文郡  
漁業免許取消ノ命令



香深村字キトウシ海海東第二百九十一號漁場ニ付原告ニ對シ許可シタル漁業免許ヲ取消シタル處分同漁場ニ付濱谷小二郎ニ與ヘタル營業免許ハ之ヲ取消ス  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●不當處分取消ノ訴 明治三十二年四月十一日 第一〇一號 (請求不立)

判決要旨

學校基本財産ヨリ生スル收入ノ處分方法ノ違法ナルコトヲ主張シテ該基本財産積立ノ爲メ適法ニ賦課セラレタル負擔ヲ拒ムコトヲ得ス

說明

學校基本財産ヨリ生スル收入ノ處分ト基本財産積立ノ爲ニスル賦課徵收トハ法律上全ク別個ノ關係ヲ有スルカ故ニ該財産ノ收入處分方法ニ違法アルヲ理由トシテ基本財産積立ノ爲メ適法ニ賦課セラレタル負擔ヲ拒ムコトヲ得サルヤ勿論ナリ

原告 山形縣西區郡長井村長 安達忠兵衛  
被告 山形縣西區郡長 木村信實

訴訟代理人 山形縣西區郡長井村助役 横山仁右衛門

右原告長井村長安達忠兵衛ヨリ被告西區郡長木村信實ニ對スル不當處分取消ノ訴雙方ノ辨論ヲ聽キ審理ヲ遂クル所

原告訴求ノ要旨ハ本村會ハ明治三十年四月廿九日郡費ノ分賦額ヲ否決シ之ヲ報告シタルニ被告ハ同年十二月十四日強制處分ヲ爲シタリ依テ原告ハ同月廿四日ヲ以テ山形縣參事會ニ訴願シ其裁決ヲ得タルモ之レニ服從スル能ハサルナリ抑被告郡長ノ處決ハ何等ノ法律ニ準據シタルカ之レヲ學事通則ニ見ルモ又之レヲ郡市町村制ニ照スモ徹頭徹尾非理不當ニシテ其何レヨリ攻撃ヲ爲スヘキヤヲ指スニ苦ムカ如シト雖要スルニ今日ノ制度ニ於テ郡ナルモノ他ノ郡市町村若クハ一個人ト共同シテ事業ヲ經營シ得サルノ點ヲ措メ得レハ足レリトス何トナレハ本件ノ主眼タル結局米澤私立尋常中學與讓館ヲ置賜一市三郡(東西南置賜郡米澤市)ノ共立トナスニアレハナリ縣參事會ニ於テハ郡會ハ郡制第廿六條ニ基キ法人ノ資格ヲ以テ之カ契約ヲナシ中等教育ヲ施スノ義務ヲ負擔セシムルコトヲ決議シタルモノナレハ云々裁決セラレタリト雖其共立ヲ爲シ得ヘキヤ否ノ點ニ於テハ毫モ說明ヲ與ヘラレサリキ夫レ郡ナルモノ今日ニ於テ稍自治ノ有様ヲ呈スト雖其不完全ナル玆ニ喋々ヲ要セサル次第ニシテ其他ノ郡市町村ト共同シテ一事業ヲ爲スカ如キハ如何ニ郡制ヲ廣義ニ解釋スルモ能ハサルモノタルヤ明ケン本件ニ於ケル教育區域ノ如キハ偏ニ町村組合ノ法ニ據ルノ外又他ニ方策ナキモノナリ之ヲ強テ郡市ノ共立トシ不完不備ノ方法ヲ以テ經費ヲ徵收セントスルカ如キハ一般ニ怪訝ニ堪ヘサル所ニシテ町村ハ決シテ

學校基本財産積立ノ賦課



カ、ル賦課ニ應スル能ハス假リニ一步ヲ譲リ右郡市町村ノ間共同シ得ヘシトスルモ本件ノ如キハ斷シテ非理不法ヲ免カレサルナリ夫レ一事ヲ起シ一業ヲ創ム必スヤ之レカ根本ノ法規ナカルヘカラス況ンヤ數人間ノ關係ヲ造始スルモノニ於テオヤ則チ根本ノ法規ニ於テ各個ノ權利義務ヲ限定シ且之ヲ承認シ而シテ後權利義務ヲ生スヘキナリ今本件ノ如キ一モ根本ノ法規トスヘキモノナク其權利ノ如キ其義務ノ如キ空漠ニシテ捕捉スヘカラス郡制第二十六條第四ノ義務ハカ、ル無稽ノ契約ニヨリテ生スヘキニアラス依テ明治三十年十二月十四日訓令第一六號ノ處分ヲ取消シ併セテ山形縣參事會長山形縣知事會根辭夫ノ裁決ヲ取消ストノ裁判アラシコトヲ請フト云フニ在リ

被告答辨ノ要旨ハ原告請求ハ多方多岐ニ涉リ其論スル所訴求ノ事實ト一致セス骨子ノ意味何レニアルヤ空漠ニシテ捕ヘ難キモ之ヲ立證ニ徵シ考フレハ畢竟スル所第一ニ中學校其實體未タ成立ヲ告ケサルニ基本金ノ積立ヲナス地方學事通則ニ悖戾シタル議決ナリ第二ニ郡ハ他ノ郡市町村又ハ一箇人ト共同シテ事ヲ經營シ得サルモノナルニ拘ハラヌ郡會ノ議決私立米澤尋常中學興讓館ヲ共立シタルハ法令ヲ無視シタル越權ノ議決ナリト云フニアレトモ兩者何レモ適法ノ解釋ニアラス第一ノ理由ハ地方學事通則第九條第一項及第十條第三項ニ依リ郡ハ其基本財産ヲ設クルモノニシテ同條項ニ於テ學校ノ實在スルト否トニ關シ制限シタル所ナキヲ以テ適法ナリト謂フヲ得サルニヨリ告示ノ負擔額ヲ豫算ニ登載スヘシト命令シタル所以ナリ第二ノ理由ハ原告ニ於テハ畢竟其一ヲ知テ未タ其二ヲ

訴訟代理人書記 安藤近次

右原告淺野廣三郎ヨリ被告茨城縣新治郡參事會新治郡長守森任ニ對スル不法裁決取消請求ノ訴訟被雙方ノ辯論ヲ總申審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治二十八年原告カ斗利出村在職中同村大字土部櫻川抗共工事ノコトアリ其工費ハ金百五圓七十一錢七厘ニシテ内金二十五圓三錢五厘ハ村方ノ負擔トシ殘金八十圓七十二錢二厘ハ縣稅ノ補助ヲ求メ其工事ヲ沿戸重左衛門鈴木龜治ノ兩名ニ請負ハシメタルニ兩名ハ設計通ノ工事ヲ爲サス之カ爲メ縣廳ノ檢査不合格トナリ遂ニ縣稅補助ヲ取消サルノニ至リ然ルニ右請負人兩名ハ斗利出村ニ對シ工事殘金七十九圓七十三錢六厘請求ノ訴ヲ土浦區裁判所ニ起シ其判決ハ兩名ノ勝利ニ歸シタルヨリ斗利出村ハ水戸地方裁判所ニ控訴シ第一審判決ヲ取消シ其事件ハ土浦區裁判所ニ差戻サレ再度ノ第一審ニ於テ亦モヤ斗利出村ノ敗訴トナリタルヲ以テ當時村長タリシ原告ハ控訴ヲナスヘキ所存ニテ村會ノ議決ヲ求メタルニ村會ハ控訴權ヲ拋棄シタルヲ以テ斗利出村ハ工事殘金七十九圓七十三錢六厘ト訴訟費用二十九圓八十七錢ヲ請負人兩名ニ對シ任意辨濟シタリ而シテ斗利出村ハ其辨濟金ハ原告ノ怠慢及越權ニ基キタルモノトシテ原告ニ負擔セシメン爲メ新治郡參事會ニ訴訟同參事會ハ原告ニ賠償ヲ命スルノ裁決ヲ爲シタリ此裁決ニ服セス茨城縣參事

不法裁決取消請求ノ件



ニ訴願セシモ同奉事會ニ於テモ同シク原告ニ賠償ノ責アル旨ノ裁決ヲ下セリ是亦原告ノ服  
 スル能ハサル所ナリ抑モ原告ハ請負人兩名ヨリ斗利出村ニ對スル工事殘金請求ノ再度ノ第  
 一審判決ニ對シテ控訴スヘキ旨ヲ主張シタルモノナリ然ルニ村會カ其控訴權ヲ拋棄シテ確  
 定判決ニ至ラシメ請負人請求ノ金額及訴訟費用ヲ任意ニ辨濟セリ然レハ原告怠慢越權ノ有  
 無如何ニ拘ハラヌ斗利出村ハ其債務ヲ甘諾シテ支拂ヲナシタルモノナレハ後日ニ至リ原告  
 ニ賠償セシメントスルハ失當ノ極決タルヲ免カレヌ且縣知事ノ達ニハ治水工事補助ノ件取  
 消ストノミアリテ其取消ノ理由ヲ明記セス故ニ右補助金ハ原告怠慢ノ爲メ取消サザルモ  
 ノトハ云ヒ難シ假リニ之ヲ以テ原告ノ怠慢ニ因ルモノトスルモ元來工事代金ノ全部ハ始メ  
 ヲリ斗利出村ノ負擔スヘキモノニシテ縣稅ノ補助ハ恩惠タルニ過キス其恩惠力取消サレタ  
 リトシ其負擔スヘキ債務ヲ以テ新メニ負擔サルモノノ如ク見做シ之ヲ以テ斗利出村ノ損害  
 ナリト謂フヲ得サルヘシ又本件ニ付助役川又七兵衛カ郡奉事會ニ訴願シ賠償ヲ求ムルニハ  
 村會ノ議決必要ナルニモ拘ハラヌ右議決ヲ經タル證據アルヲ見ス斯カル手續違法ノ點アル  
 コモ拘ハラヌ縣奉事會カ之ヲ是認シタルハ不當ノ裁決ナリト謂ハサルヘカラス依テ明治三  
 十年四月九日被告カ與ヘタル裁決ヲ取消トノ裁決アラソト云フニ在リ  
 被告答辯ノ要旨ハ本件斗利出村カ茨城縣ヨリ治水工事ニ對シ補助金ヲ許可セラレタルハ明

治二十八年二月十九日ヨシテ其竣功ハ同年三月三十日ヲ期限トス然ルニ之ヲ當行スヘキ責  
 務アル原告元村長ハ工事ヲ等閑ニ付シ再三期限ノ猶豫ヲ請ヒ尙工事ノ竣功ヲ遂ケサルカ爲  
 メ終ヒニ乙第一號證第四ノ如ク補助金取消ノ達ヲ受ケタリ而シテ該文面ニハ單ニ補助金取  
 消トアルモ本件櫻川工事ニ付テハ縣稅補助ノ規則アリテ知事ハ此規則ニ基ツキ補助ヲ與ヘ  
 タルモ右規則中ニハ工事出來形不完全ナルトキハ補助金ヲ支給セストノ明文アリ知事ハ即  
 チ此明文ニ依リ取消シタルコト明カナリ然レハ工事ノ不完全ハ村長ノ怠慢ヨリ起リ此怠慢  
 ヲリ村ノ損害ヲ來シタルモノナレハ村長カ其損害ヲ賠償スレハ當然ノコトナリ加之原告ハ  
 右補助取消ノ達ヲ受ケタル後ニ至リ乙第二號證ノ如ク請負人ニ對シ工事ノ債務ヲ認諾シタ  
 ルカ爲メニ土浦區裁判所ヨリ乙第三號證ノ判決ヲ受ケタルモノナリ依テ斗利出村ハ該判決  
 ノ適當ナルヲ看認メ漫リニ控訴シテ村費ヲ増加スルノ不得策ナルヲ覺悟シ其請求金額及訴  
 訟費用ヲ價却シタル次第ニシテ決シテ原告云フカ如ク任意ニ辨濟シタルコトハアラス要スル  
 ニ原告ハ補助金取消ノ後ニ於テ越權ニモ乙第二號證ヲ締結シ其結果トシテ斗利出村カ損害  
 ヲ受ケタルモノナレハ右越權ニ基ツク損害ハ町村制第二百二十九條ニ依リ當時ノ村長タリシ  
 原告ニ於テ負擔スヘキモノナリトス依テ原告ノ請求ハ排斥セラレンコトヲ請フト云フニ在  
 リ

不法裁決取消請求ノ件



依テ證據ヲ閱シ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ本件土浦區裁判所再度ノ第一審判決ニ對シテ村會ハ控訴權ヲ拋棄シテ請負人請求ノ金額及訴訟費ヲ任意辨濟シタルモノナレハ後日ヨ至リ原告ニ之レカ言償ヲ命スルハ不當ノ裁決ナリト云フト雖本件櫻川工事ハ明治二十八年三月三十日ヲ以テ竣功期日ト定メ茨城縣ノ補助ヲ得タルモ右工事監督ノ責任アル原告ハ工事ヲ等閑ニ付シ再三延期ヲ請ヒ尙竣功セサルカ爲メ同年九月四日ヲ以テ縣廳ヨリ補助金取消ノ達ヲ受ケタルモノナレハ右補助金取消ノ達ハ原告ノ職務怠慢ニ原因セルモノト認メサルヲ得ヌ又右補助金取消ノ達ヲ受ケタル後ニ於テ村會ノ議決ヲ經スシテ乙第二號證ノ如ク請負人兩名ニ對シ債務ヲ認諾シタルハ是レ町村制第三十三條ノ規定ニ背セル越權ノ所爲ナリト言フヘシ面シテ原告カ乙第二號證ノ契約ヲ締結セル以上此契約ニ因リ請人兩名ヨリ斗利出村ニ對シ工事殘金ヲ請求スル權利ヲ生シ斗利出村ハ之ヲ辨濟スヘキノ義務ヲ負タルコトハ土浦區裁判所ノ判決ヲ待タズシテ明確ナルモノトス然レハ斗利出村會ハ該判決ニ對シテ控訴ヲナス其債務ヲ辨濟シタルハ當然ノ所爲ナリトス而シテ其辨濟シタル債務ハ原告カ越權ヲ以テ締結シタル乙第二號證ノ契約ニ基クモノナレハ被告新治郡參事會カ町村制第二百二十九條ニ依リ原告ニ之レカ賠償ヲ命シタルハ不當ノ裁決ナリト謂フヲ得ヌ又原告ハ本件ニ付助川又七兵衛ハ村會ノ議決ヲ經スシテ郡參事會ノ裁決ヲ求メ

他雙方陳辯スル所アルモ本案判決ニ必要ナラサルヲ以テ之カ説明ヲ下サス  
右ノ理由ナルヲ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●村會議員一級選舉取消ノ訴

明治三十一年六月四日  
明治三十年第四百號

●判決要旨

選舉前選舉ノ場所ヲ反更スルハ違法ノ選舉ナリトス

●說明

選舉ニ關シ豫テ公告シタル選舉ノ場所ヲ變更スルニ於テハ其ノ反更ノ日ヨリ更ラニ法定ノ期間ヲ經過スルニアラサレハ其ノ反更ノ場所ニ於テ選舉ヲ行フコトヲ得ヌ若シ之ニ反スル時ハ明カニ町村制第十九條ノ規定ニ抵解スルヲ以テ其ノ選舉ハ無効ナリトス

(參照)選舉ヲ執行スル時ハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ各級ニ分ケ選舉前七日ヲ限リ之ヲ廣告スヘシ下略(町村制第十九條)

村會議員一級選舉取消ノ訴



原告 細田 謙

訴訟代理人 辨護士 江 木 真

被告 告知事伯爵清棧家 敬

訴訟代理人 縣屬 日下 龜太郎

右原告細田謙ヨリ被告山梨縣參事會同縣知事清棧家敬ニ對スル村會議員一級選舉取消ノ訴原  
被雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處

原告訴求ノ要旨ハ明治二十八年七月二十八日執行シタル上野原村々會議員一級選舉ハ定規  
ニ違反シタル選舉ナルヲ以テ原告ハ其取消ヲ上野原村會ニ訴願シタルニ該村會ハ選舉ヲ取消  
スヘキモノニアラスト裁決シタルニ更ニ北都留郡參事會及山梨縣參事會ニ訴願シタルモ何  
レモ原告ノ訴願ヲ採用セズ依テ茲ニ出訴スルモノナリ抑モ本件選舉ノ無効タル理由ハ第一  
上野原村長カ始メ公告第一五號ヲ以テ選舉會場ハ上野原村役場ヲ以テスル旨ヲ公告シテ  
選舉ノ前日ニ至リ公告第一六號ヲ以テ會場ヲ變更シテ上野原小學校内ニ改ムル旨ヲ公告シ  
翌日直チニ選舉ヲ執行シタルハ町村制第十九條ニ違反ナルモノナリトス原裁決ハ二者共ニ  
同一地内ニアルモノナレハ選舉ノ場所ヲ變更シタルモノニアラストスルモ已ニ其建物入口  
ヲ異ニスル以上ハ縱ヒ同一地内ニ在ルモ之ヲ以テ同一ノ場所ナリト云フヘカラス第二選舉

人ニアラサル小佐順一佐々木時次郎大神田寅吉ノ三名ヲ選舉場ニ入ラシメタルノ事實アリ  
是レ同制第二十一條ノ規定ニ違反シタルモノナリ何トナレハ同制第二十一條ノ明文ニアル  
如ク選舉人以外ノモノハ何人ニテモ無關係者ニシテ假令選舉場ノ補助ヲ爲サシムル者ト雖  
法律上明カニ認ムル職員ニアラサル以上ハ之ヲ入場セシムヘカラサレハナリ第三本件選舉  
會ニ於テ選舉條ヲ明讀セズ選舉場ノ署名ヲ會場ニ於テセズ選舉ノ翌日私宅ニ於テ之ヲ爲シ  
タルノ事實ハ證言ニ據リテ明白ナリ要スルニ本件選舉會ハ選舉ノ規定ニ背クモノナルヲ以  
テ之ヲ取消ストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ第一本件選舉會ハ場所ヲ變更シタルモノナレハ町村制第十九條ノ  
規定ニ違反スルモノナリト云フモ上野原小學校ハ初メ會場ト定メタル上野原村役場ト相隣  
接シ同一地内ニ在リテ村役場ト小學校トハ其建物入口ヲ異ニスルモ等シク同一ノ地内ニ在  
ルモノナレハ之ヲ以テ町村制第十九條ニ規定セル選舉ノ場所ヲ變更シタルモノトナスヘカ  
ラス公告第一六號ヲ以テ上野原小學校内ニ變更シタルニトテ公告シタルハ單ニ注意上爲シ  
タルニ過キササルモノトス第二原告ハ選舉人ニアラサル小佐野順一佐々木時次郎大神田寅吉  
ノ三名ヲ選舉場ニ入ラシメタルハ違法ナリト云フモ町村制第二十一條ノ規定ハ選舉事務ノ  
補助ヲ爲サシムル爲メ入場セシムル者ヲ制限スルノ規定ニアラサルカ故ニ役場吏員ナル小

村會議員一級選舉取消ノ訴



佐野順一外二名ヲ選舉會場ニ入ラシムルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス第三選舉錄ヲ朗讀セシ選舉掛ノ署名ヲ私宅ニ於テナシタルノ事實ハ證言ニヨリテ明白ナリト云フモ是レ信スヘカラサルノ證言ニシテ選舉錄ニ反對スル確實ノ證據ト認ムルヲ得ヌ要スルニ本件選舉ハ取消スヘキ理由ナキモノナレハ原告ノ請求ハ排斥アラソコトヲ請フト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
被告ニ於テ本件選舉會場ナル上野原小學校ハ最初會場ト定メタル上野原村役場ト隣接シ村役場ト小學校トハ其建物入口ヲ異ニスルモ等シク同一ノ地内ニ在ルモノナレハ公告第一六號ハ町制第十九條ニ規定セル選舉ノ場所ヲ變更セルモノニアラスト主張スレト山梨縣橋樑警察署上野原分署ノ申立書及其添屬圖面ヲ見レハ村役場ト小學校トノ間ニハ繩張ヲ設ケ巡查ヲシテ之ヲ守ラシメ且選舉人ヲシテ小學校ノ入口ヨリ出入セシメタルコトヲ知ルハシ然ラハ小學校ハ假令平常村役場ト同一地内ニ在ルモノトスルモ選舉ノ當日ニ至リテ明カニ之レカ區域ヲ設ケタル以上ハ之ヲ以テ村役場ト同一ノ場所ナリト謂フヲ得ス隨テ本件ハ明治二十八年七月二十八日ノ選舉前二日即チ七月二十六日付公告第一六號ヲ以テ選舉ノ場所ヲ變更シタルモノナレハ町制第十九條ノ規定ニ背反セルモノナリト云ハサルヲ得ヌ其他雙方陳辯スル所アルヲ本案判決ニ必要ナラサルカ故ニ之レカ説明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

明治二十八年七月二十八日執行シタル上野原村會議員一級選舉會ハ之ヲ取消スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

○村會議員選舉ノ効力ニ關スル訴ニ對スル妨訟抗辯 明治三十一年第六三十一號  
明治三十一年六月四日發

●判決要旨

町村長カ町村會ノ議決ニ附セス專斷ヲ以テ選舉ノ効力ニ關スル訴願ヲ却下シタル時ハ上級廳廳ハ之ヲ受理シテ調査スルヲ相當トス

期間ハ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セシ

●說明

町村長カ町村會ノ議決ニ附セスヘキ事件ヲ受理シナカラ之ヲ其ノ議決ニ附セスシテ却下シタルトキハ上級廳ハ之ヲ受理シテ其ノ調査ヲ遂ケサル可ラス何トナレハ元來町村會ナルモノハ町村長之ヲ請クヘキモノナルニ今町村長ハ之レカ開會ノ手續ヲ爲サス直チニ却下シタルモノナレハ之ヲ開クニ能シナク從テ之ヲ議決ニ附ス可ラサレハナリ

原告 高木善助

代理人 辨護士 利光鶴松

村會議員選舉ノ効力ニ關スル訴ニ對スル妨訟抗辯



同 辯護士 利光品吉

被告 告知事 千頭清臣

訴訟代理人 參事官 西村陸奥夫

同 縣屬 清水鎗太郎

右原告高木善助ヨリ被告栃木縣參事會栃木縣知事千頭清臣ニ對スル訴訟ニ付被告ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲シタリ依テ審理ヲ遂クル處

被告抗辯ノ要旨ハ原告ハ明治三十年九月二十二日ヲ以テ執行シタル栃木縣上都賀郡南押原村々會議員一級選舉ノ効力ニ關シ同年九月二十九日之ヲ取消ノ訴願ヲ村會ニ申立タリ然ルニ村長深津正一郎ハ之ヲ村會ノ裁決ニ付セス專斷ヲ以テ期限ヲ經過シタルヲ以テ付受理スヘキモノニアラスト爲シ即日之ヲ返付シタルヲ以テ原告ハ之ヲ不當トシ村長處分並選舉取消ノ訴願ヲ上都賀郡參事會ニ提起シ不受理ノ裁決ヲ受ケ更ニ被告縣參事會ニ提起シタルモ被告ハ審理ノ末之ヲ却下セリ原告ハ被告ノ處分ヲ不當ナリト云フモ本件ノ如キ村長ノ訴願書返付處分ニ對シテハ法律勅令中訴願ノ提起ヲ許シタル明文ナキノミナラス村會議員選舉ノ効力ニ關スル訴願ニ付テハ村會ノ裁決ニ不服ナルトキヨ限リ逐次訴願シ得ヘキモノナレ本件ノ如キ村會ノ裁決ヲ經サル事件ハ訴願法第九條ニ依リ當然却下スヘキノナリ加之原告

村會議員選舉ノ効力ニ關スル訴ニ對スル妨訴抗辯

ノ村長ニ對シテ訴願シタル日ハ期限ノ日ヨリ起算シ町村制第二十九條ノ期限ヲ經過シタルモノナレハ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ  
原告答辯ノ要旨ハ原告ハ本件選舉ノ効力ニ關スル訴願ヲ町村制第二十九條ニ依リ村長ニ申立タルニ村長ハ不當ニモ村會ノ議ニ付セス專斷ヲ以テ之ヲ却下セリ原告ハ此不當處分ニ對シテハ上級廳ニ訴願スルヨリ他ニ道ナキヲ以テ適法ノ順序ヲ經テ被告ニ救済ノ道ヲ求メタリ然ルニ被告ハ村會ノ裁決ヲ經タル事實ナキノ理由ヲ以テ該訴願ヲ却下シタルモ原告ハ適法ノ手續ニヨリ村長ニ申立ヲ爲シタルニ村長カ村會ノ議ニ付セスシテ却下シタルモノニシテ原告ノ與カリ知ラサル所ナリ然ルニ被告ハ村長ヲ不問ニ置キ原告ノ訴願ヲ斥ケタルハ頗ル不當ノ處置ナリトス又被告ハ期限經過云々ト主張スレトモ選舉ノ日ハ二十二日ナルヲ以テ普通ノ原則ニ從ヒ其翌日ヨリ起算スル時ハ二十九日ハ七日目ニ當リ尙法定ノ期限内ニ訴願シタルモノナレハ被告ノ主張ハ其當ヲ得ス依テ抗辯ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ  
依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ第一村長ノ訴願書返附處分ニ對シ訴願ノ提起ヲ許サスト云フト雖モ本件ノ訴願ハ選舉ノ効力ニ關スルモノニシテ單ニ村長ノ處分ヲ訴ヘタルモノニアラサルコトハ訴願書ニ依リ明瞭ナリ第二本件訴願ハ村會ノ裁決ヲ經サルヲ以テ上級廳ニ於テ之ヲ受理セサルハ



當然ナリト云フモ本件ノ如キ原告カ適法ノ手續ニ依リ訴願書ヲ村長ニ提出シタルニモ拘ラ  
ス村長カ專斷ニ之ヲ却下シタル場合ニ於テハ他ニ村會ノ裁決ヲ受ケシムルノ途ナキヲ以テ  
上級廳ハ之ヲ受理シテ審査スルヲ相當トス第三被告ハ訴願期限ハ選舉ノ日ヨリ起算スヘキ  
モノナルコトヲ主張スルモ凡ソ日ヲ以テ定メタル期限ハ事實ノアリタル翌日ヨリ起算スル  
ヲ以テ通則トスレハ本件ノ場合ニ於テモ翌日ヨリ起算スヘキモノト解釋セサルヘカラス  
右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ  
被告ノ妨訴抗辯相立タス  
此裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●家屋税割不當賦課額取消ノ訴 明治三十一年第十號 明治三十一年十月七日發

●判決要旨

- 一 租税ノ賦課ニ關シ納税者ヨリ其ノ當否ヲ爭フコトヲ得ヘキ範圍ハ單ニ其ノ賦課ノ方法形式  
算數等ニ限ラス其ノ税目タル實体的事項ニ付テモ尙ホ之ヲ論争スルコトヲ得ルモノトス
- 二 訴訟ノ目的物ハ必スシモ數字ヲ以テ確定シ得ヘキモノトシテ要セス
- 三 兵營ノ建設ハ自治團體其ノモノト直接ノ關係ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ之カ爲ノニ寄

附ヲ爲スカ如キハ市タル法人ノ範圍ヲ奔逸スルモノトス

●說明

一 抑モ市制第百四條及ヒ第百五條ニ於テ市税ノ賦課ニ關シ納税者ニ對シ訴願及ヒ訴訟ノ形式  
ヲ以テ一定ノ主張ヲ爲スコトヲ許シタル以所ノモノハ蓋シ法治國ノ原則トシテ納税者ヲシ  
テ不法ノ課税ニ屈從セシメストノ主旨ニ外ナラサルヲ以テ尙モ其ノ課税ニシテ不法ノ點ア  
ルランカ其形式タルト實體タルトヲ問ハス納税者タルモノ其不法ヲ主張シテ之レカ回復ヲ  
計ルコトヲ得ヘキハ勿論ナリトス

二 訴訟ノ目的物トハ訴ヲ起シテ請求スル所ノ定マリタル目的ノ謂ニシテ法律ノ概念ニ於テ之  
ヲ指摘シ得ル以上ハ必スシモ數理的ノ分量アルヲ必要トセサルナリ

三 凡ソ自治團體ナルモノハ元來法律ノ創設物ナルヲ以テ其ノ存在及ヒ範圍一ニ法律ノ規定  
ニ從フヘキハ當然ナリ市制第二條及同第八十八條ハ市カ自治團體トシテノ法人格ノ範圍ヲ  
定メタルモノニシテ今同條ノ規定ニ依ルトキハ市カ法人トシテ有スル權能ノ範圍ハ專ラ市  
ノ公共ノ事務ヲ處理スルノ點ニ限定セラレタルコト條文ヲ一讀シテ其ノ意義明瞭ナル所タ  
リ夫レ然ラハ則チ兵營建設ノ如キハ元來帝國ノ備置ニ屬シ市法人其ノ者ノ利害ニ於テ  
直接ノ關係ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ市法人ノ公共事務ト云フヘカラサルヤ勿論タリ

●家屋税割不當賦課額取消ノ訴